
伊 丹 市
人権に関する市民意識調査
結果報告書

平成 22(2010)年 2 月
伊 丹 市

伊丹市人権に関する市民意識調査結果を受けて



伊丹市長 藤原保幸

「21世紀は人権の世紀」といわれており、人権尊重の理念の普及・定着を図り、お互いの存在や尊厳をかけがえのないものとして、すべての人の人権が尊重される社会の実現が求められています。

本市におきましては、平成13年に策定した「人権教育のための国連10年」伊丹市行動計画に基づき、学校・家庭・地域・職場などあらゆる場において、さまざまな人権課題の解決に向けて、人権教育及び啓発の推進に努めてまいりました。

このたび、この行動計画の終了にあたって、多岐にわたる人権課題への取り組みの成果と課題を総合的に検証・評価するとともに、本市の人権教育及び啓発に関する新たな基本方針の策定にあたっての基礎資料とするため、昨年6月に「伊丹市人権に関する市民意識調査」を実施しました。

本市では、今回の調査結果を踏まえて、さらに効果的な人権施策について検討を進めるとともに、関係機関・団体等とも連携・協力した幅広い取り組みを展開してまいります。

最後になりましたが、本報告書が人権教育及び啓発に携わっておられる各方面の方々にもご活用いただければ幸いです。また、本調査にあたり、ご協力いただきました市民の皆様方をはじめ、本報告書の作成にご尽力いただきました関係者の方々に厚くお礼申し上げます。

平成22年2月

【目次】

伊丹市人権に関する市民意識調査結果を受けて

調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査設計	1
3. 回収結果	1
4. 報告書の見方	1
調査の結果	2
1. 回答者の属性	2
2. 人権全般について	5
3. 女性の人権について	22
4. 子どもの人権について	25
5. 高齢者の人権について	28
6. しょうがいのある人の人権について	31
7. 日本に暮らす外国人の人権について	34
8. 同和問題について	37
9. エイズ患者・HIV（エイズ・ウイルス）感染者の人権について	43
10. インターネットを悪用した人権侵害について	46
11. つきあい・結婚について	49
12. 人権に関する講演会、イベントなどへの参加について	60
13. 自由記述	75
調査結果から見る現状と今後の方向性	83
1. 人権全般について	83
2. 女性の人権	84
3. 子どもの人権	85
4. 高齢者の人権	86
5. しょうがいのある人の人権	87
6. 外国人の人権	88
7. 同和問題	89
8. その他の人権	90
9. 人権啓発について	91
調査票	92

I 調査の概要

1. 調査の目的

伊丹市では、市民一人ひとりの個性や人権が尊重され、豊かな自己実現を図ることができる社会づくりに努めています。この調査は、今後の人権教育・啓発の施策を進めるうえで参考とするために行ないました。

2. 調査設計

調査対象：15歳以上の市民から2,000人を無作為に抽出

調査方法：郵送配布・郵送回収により実施

調査時期：平成21年6月23日～7月7日

3. 回収結果

配布数：2,000通

回収数：1,052通

回収率：52.6%

4. 報告書の見方

回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。

複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。

図表中において、「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が著しく困難なものです。

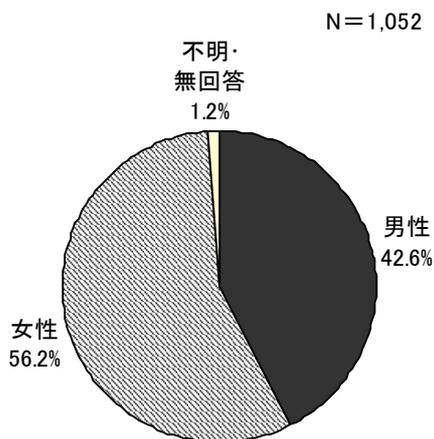
グラフ及び表の「N数（number of case）」は、有効標本数（集計対象者総数）を表しています。

グラフ、表中において、単数回答を「SA」、複数回答を「MA」としています。

II 調査の結果

1 . 回答者の属性

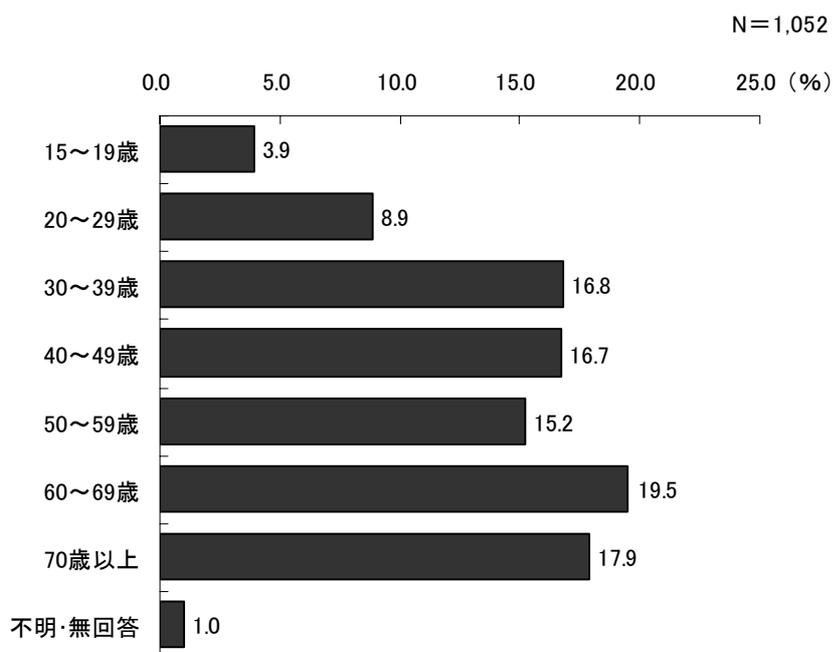
◇性別 (SA)



回答者の性別では、「男性」が 42.6%、「女性」が 56.2%と、「女性」の割合が高くなっています。

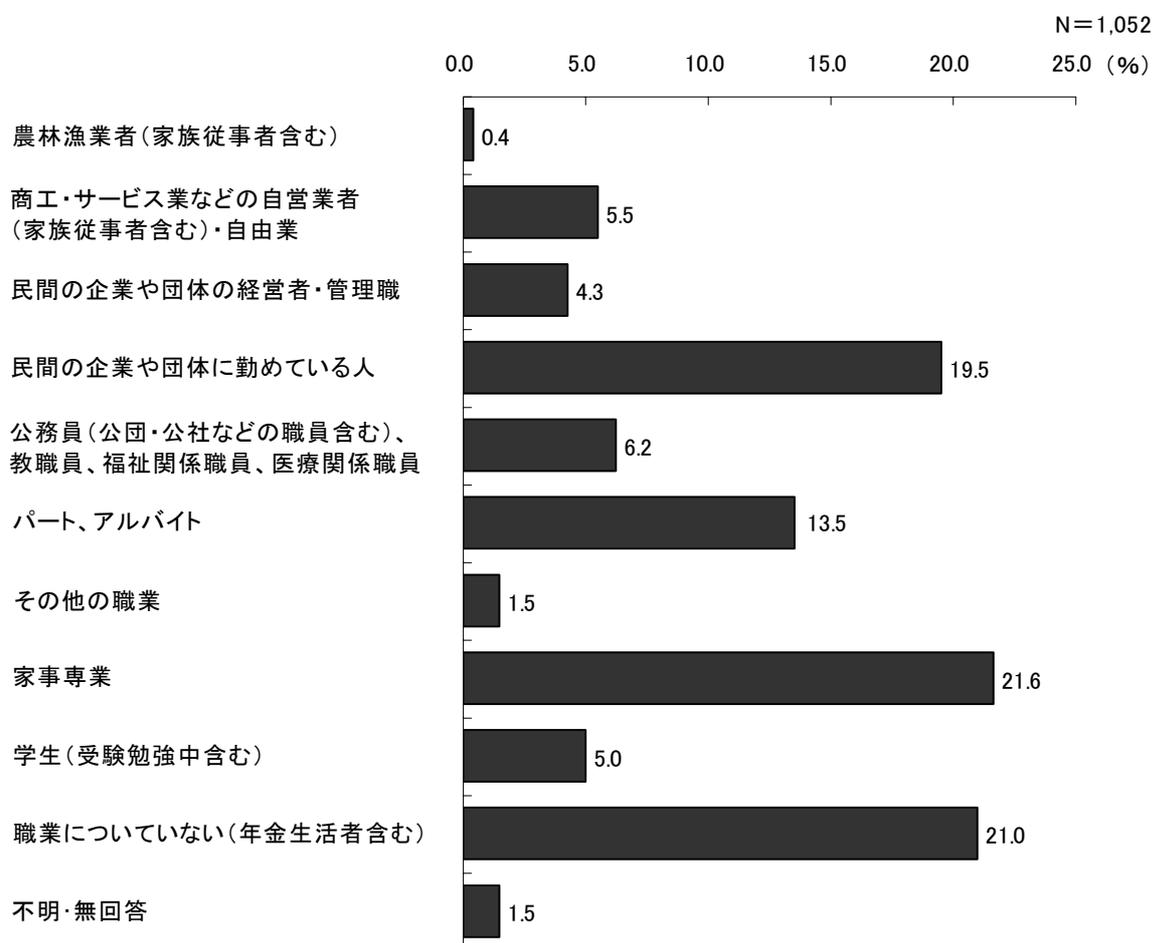
◇年齢 (SA)

回答者の年齢では、「60～69歳」が 19.5%と最も割合が高く、次いで、「70歳以上」が 17.9%となっています。

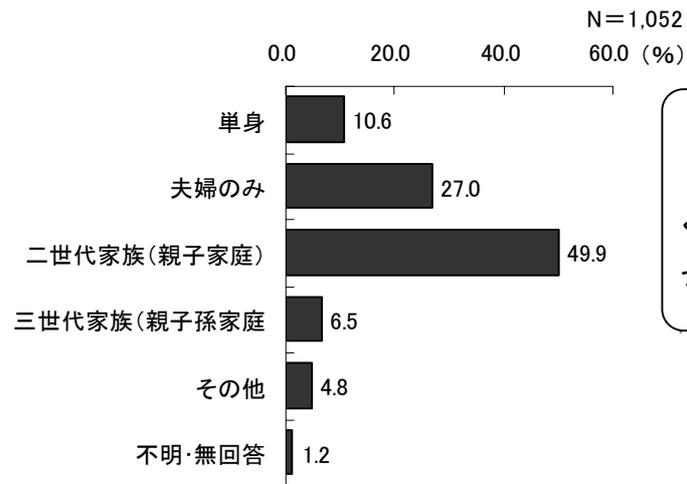


◇職業 (SA)

回答者の職業では、「家事専業」が21.6%と最も割合が高く、次いで、「職業についていない(年金生活者含む)」が21.0%となっています。

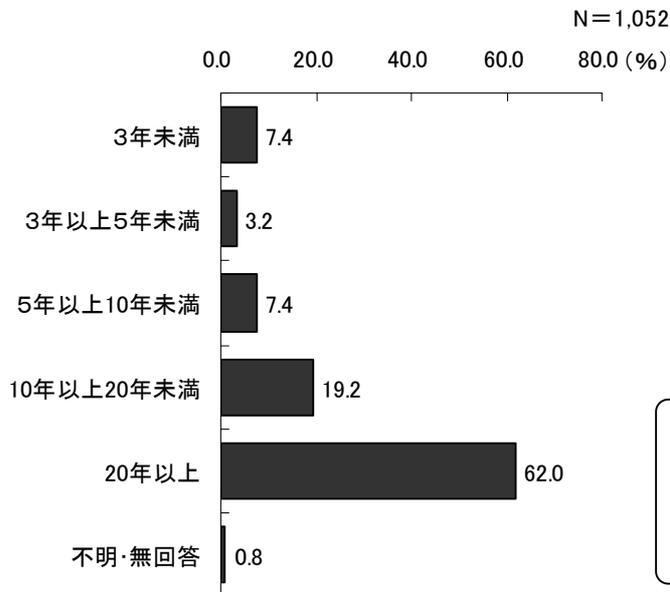


◇家族構成 (SA)



回答者の家族構成では、「二世世代家族(親子家庭)」が49.9%と最も割合が高く、次いで「夫婦のみ」が27.0%となっています。

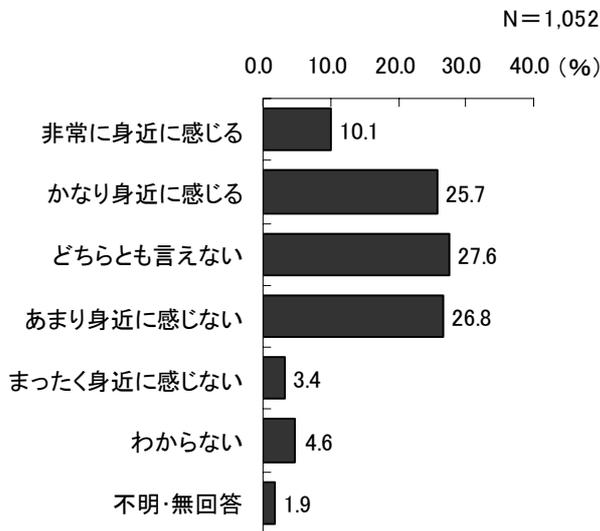
◇居住歴 (SA)



回答者の居住歴では、「20年以上」が62.0%と最も割合が高くなっています。

2. 人権全般について

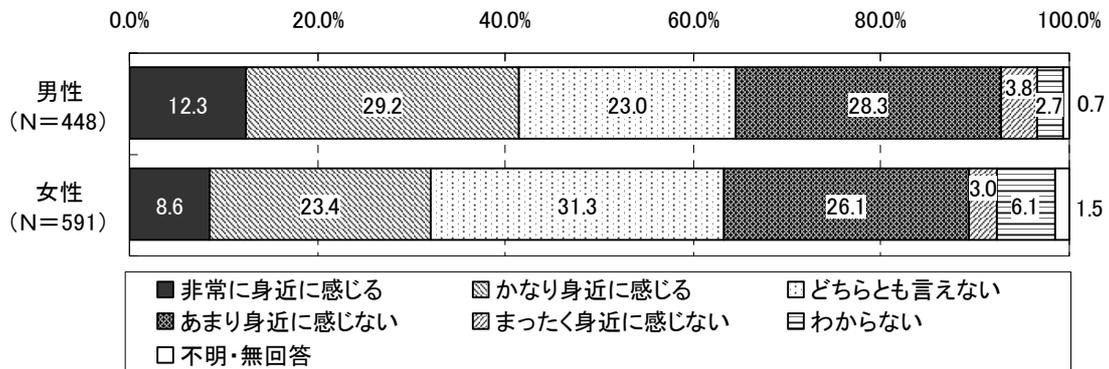
問1 「人権」を身近な問題として感じているか。(SA)



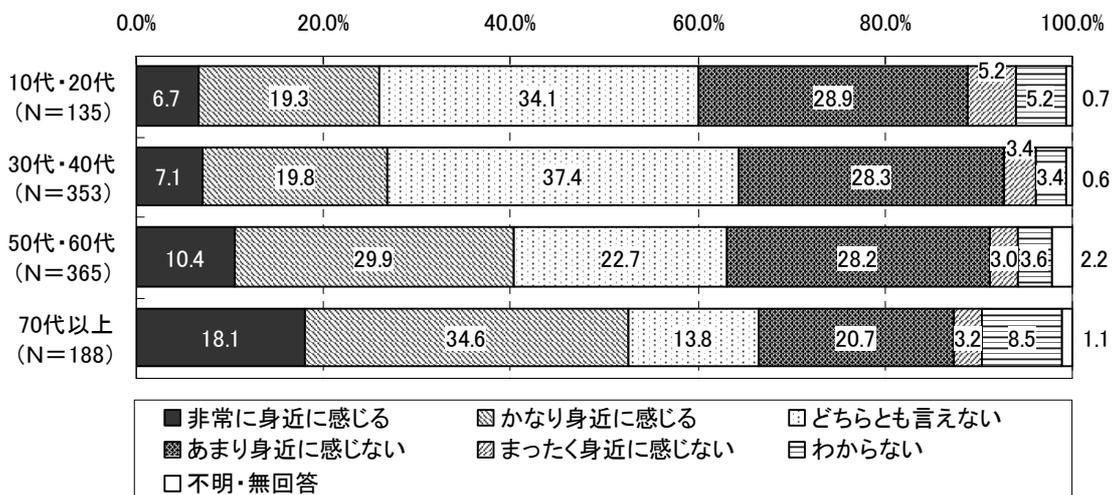
「非常に身近に感じる」と「かなり身近に感じる」の合計が35.8%となっている一方、「あまり身近に感じない」と「まったく身近に感じない」の合計が30.2%となっています。

性別に見ると、『身近に感じる』割合は、男性の方が高く、年齢別では、年齢が高くなるほど身近に感じている割合が高くなる傾向があります。

問1 × 性別



問1 × 年齢別



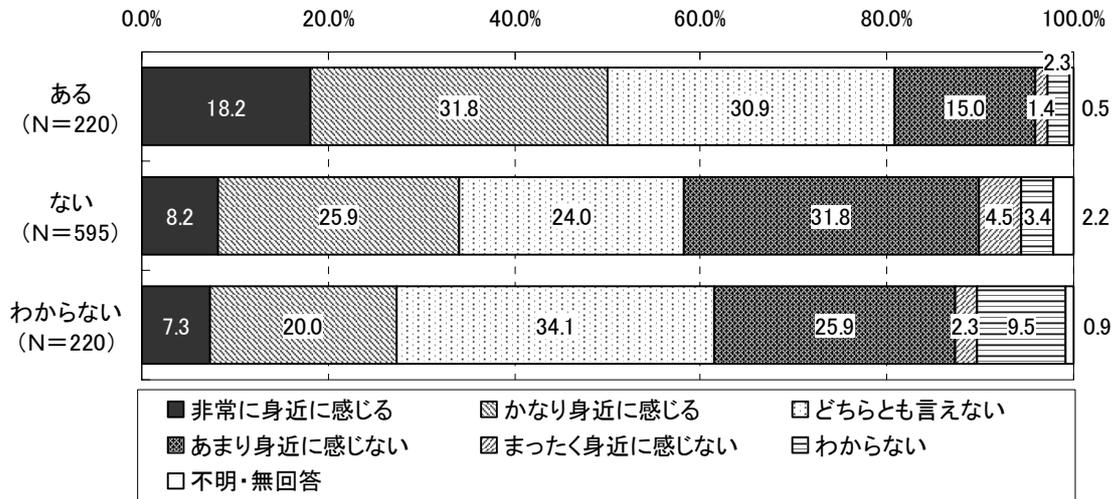
「人権」を身近な問題として感じているかについて職業別に見ると、「商工・サービス業などの自営業者（家族従事者を含む）・自由業」「公務員（公団・公社などの職員を含む）、教職員、福祉関係職員、医療関係職員」「職業についていない（年金生活者を含む）」では、「非常に身近に感じる」と「かなり身近に感じる」の合計が約半数を占めています。

問1×職業別

上段:度数 下段:%	合計	非常に身近に感じる	かなり身近に感じる	どちらとも言えない	あまり身近に感じない	まったく身近に感じない	わからない	不明・無回答
合計	1,052 100.0	106 10.1	270 25.7	290 27.6	282 26.8	36 3.4	48 4.6	20 1.9
農林漁業者 （家族従事者を含む）	4 100.0	0 0.0	1 25.0	1 25.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
商工・サービス業などの 自営業者（家族従事者を含む） ・自由業	58 100.0	7 12.1	20 34.5	11 19.0	12 20.7	3 5.2	5 8.6	0 0.0
民間の企業や団体の経営者・ 管理職	45 100.0	6 13.3	12 26.7	10 22.2	16 35.6	1 2.2	0 0.0	0 0.0
民間の企業や団体に 勤めている人	205 100.0	18 8.8	36 17.6	79 38.5	59 28.8	9 4.4	3 1.5	1 0.5
公務員（公団・公社などの 職員を含む）、教職員、 福祉関係職員、医療関係職員	65 100.0	5 7.7	28 43.1	6 9.2	18 27.7	3 4.6	4 6.2	1 1.5
パート、アルバイト	142 100.0	10 7.0	29 20.4	56 39.4	38 26.8	2 1.4	7 4.9	0 0.0
その他の職業	16 100.0	1 6.3	5 31.3	4 25.0	6 37.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0
家事専業	227 100.0	18 7.9	52 22.9	68 30.0	62 27.3	7 3.1	15 6.6	5 2.2
学生 （受験勉強中の方を含む）	53 100.0	5 9.4	12 22.6	20 37.7	12 22.6	2 3.8	2 3.8	0 0.0
職業についていない （年金生活者を含む）	221 100.0	35 15.8	72 32.6	34 15.4	55 24.9	9 4.1	11 5.0	5 2.3

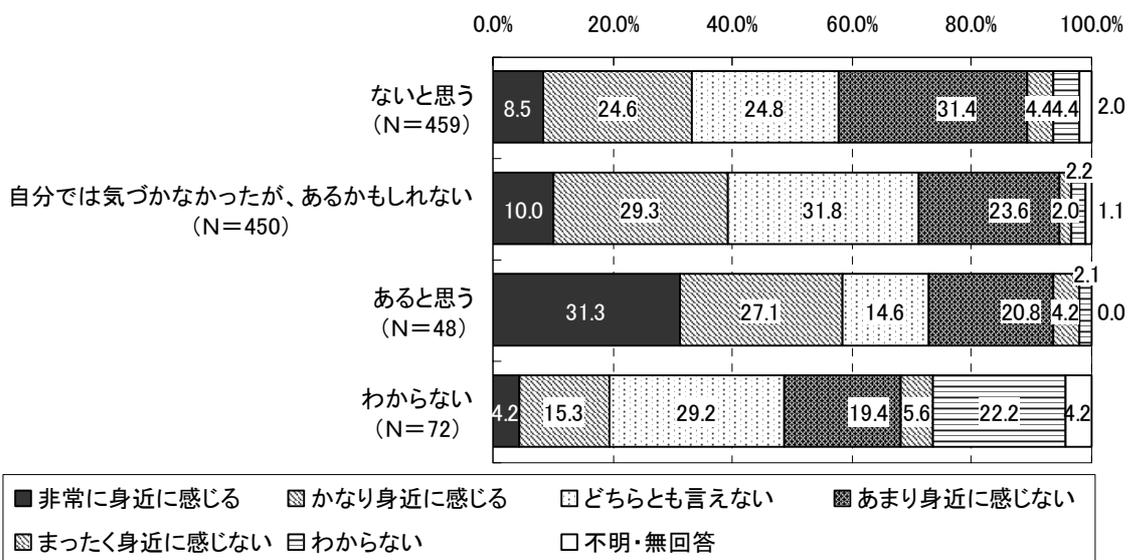
「人権」を身近な問題として感じているかについて自身が人権侵害を受けた経験の有無別に見ると、「(自身が人権侵害を受けた経験が)ある」と回答した人では、「非常に身近に感じる」と「かなり身近に感じる」の合計が5割となっています。

問1×問4（自身が人権侵害を受けた経験の有無別） =13 頁参照



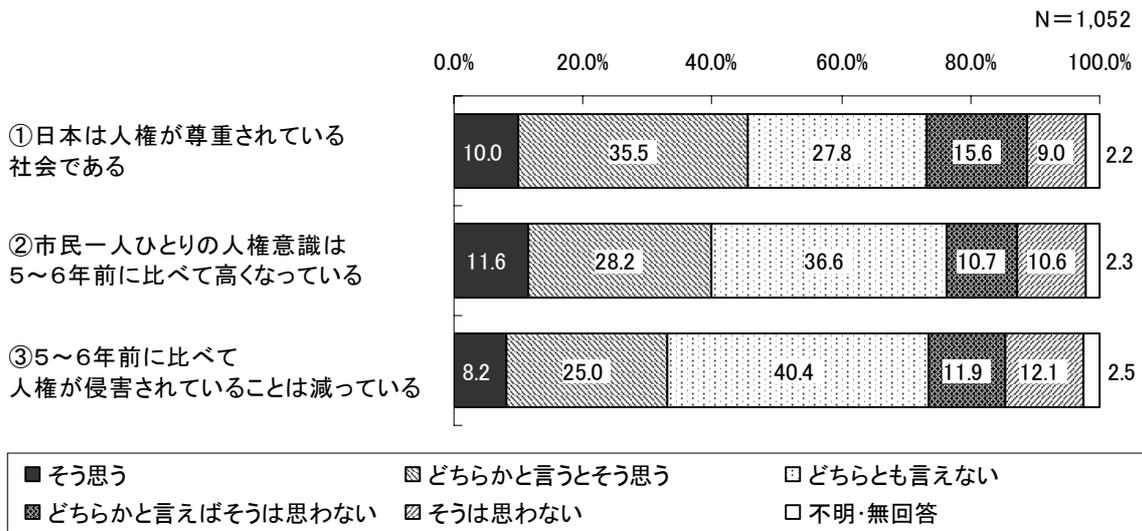
「人権」を身近な問題として感じているかについて他人に人権侵害をした経験の有無別に見ると、「(他人の人権侵害をした経験が)あると思う」と回答した人では、「非常に身近に感じる」と「かなり身近に感じる」の合計が5割を超えています。

問1×問5（他人の人権を侵害した経験の有無別） =21 頁参照



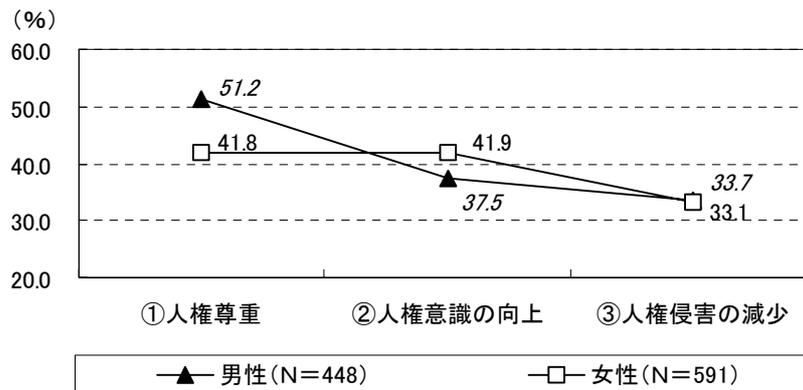
問2 人権に関する意識について (SA)

「そう思う」と「どちらかと言うとそう思う」を合わせた『思う』について、「日本は人権が尊重されている社会である」は45.5%、「市民一人ひとりの人権意識は5～6年前に比べて高くなっている」は39.8%、「5～6年前に比べて人権が侵害されていることは減っている」33.2%となっています。



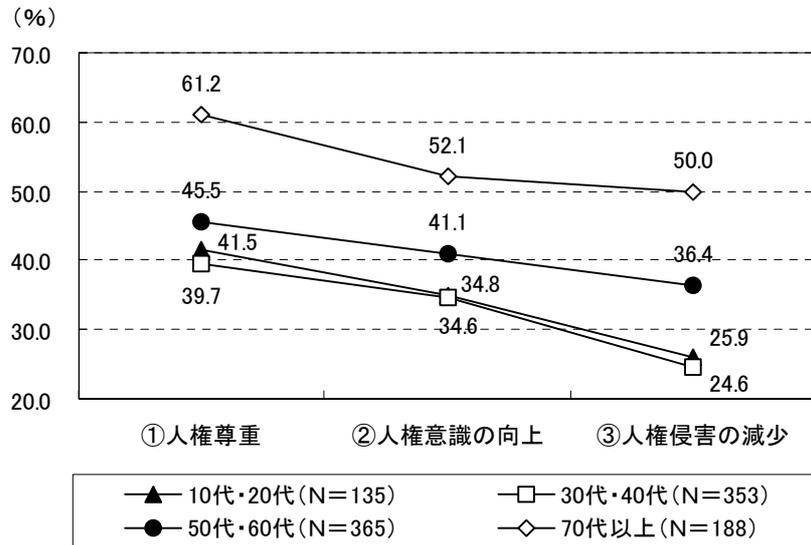
性別では、「人権尊重」について女性の割合が低くなっています。

問2×性別（「そう思う」+「どちらかと言うとそう思う」の割合）



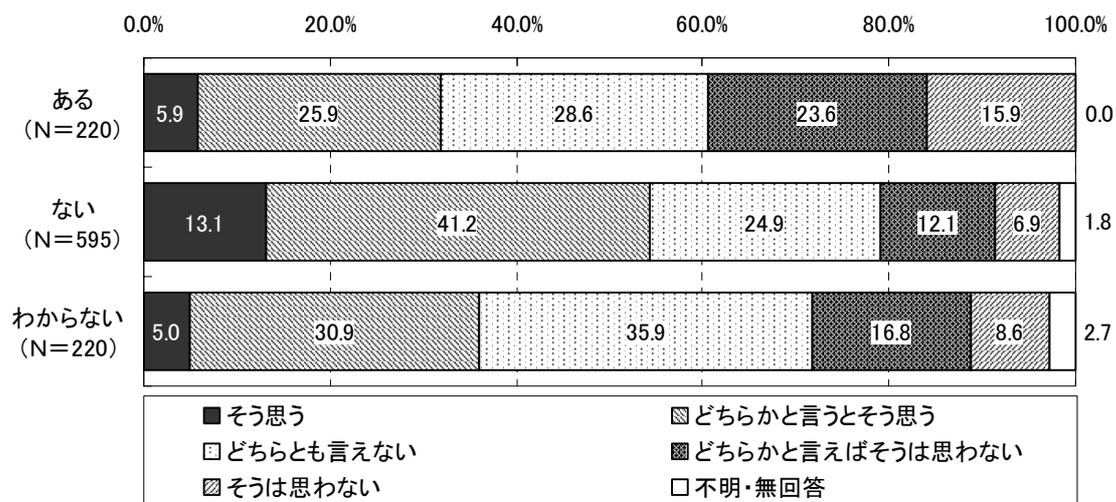
年齢別では、年齢が高くなるほど『思う』の割合が高くなる傾向があります。

問2×年齢別（「そう思う」＋「どちらかと言うとそう思う」の割合）



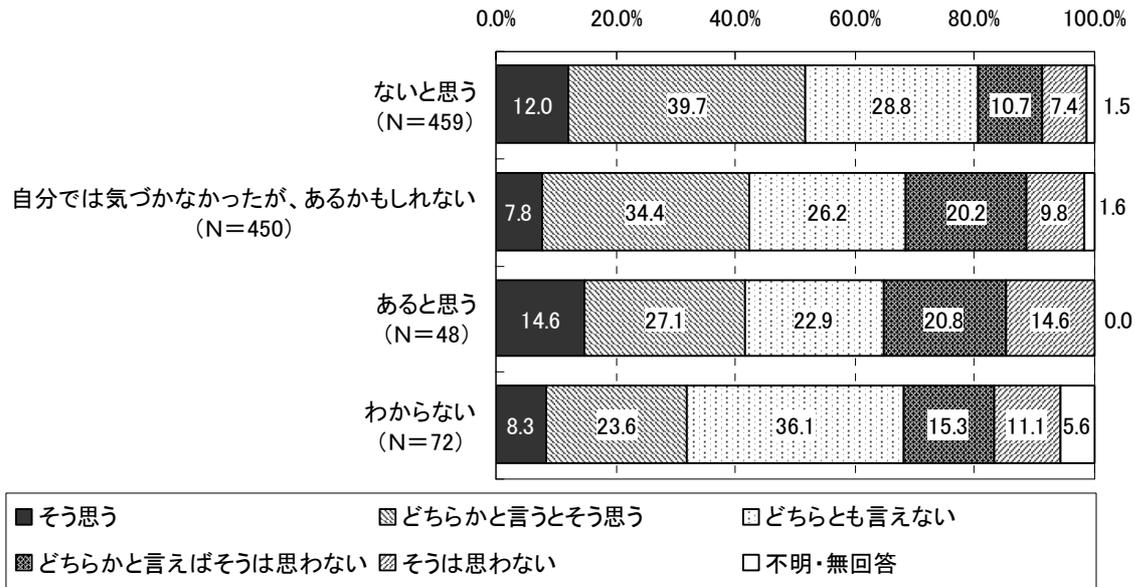
人権侵害を受けた経験の有無別では、「(自身が人権侵害を受けた経験が)ない」と回答した人では、「そう思う」と「どちらかと言うとそう思う」の合計が半数以上と高くなっています。

問2①×問4（自身が人権侵害を受けた経験の有無別） =13 頁参照



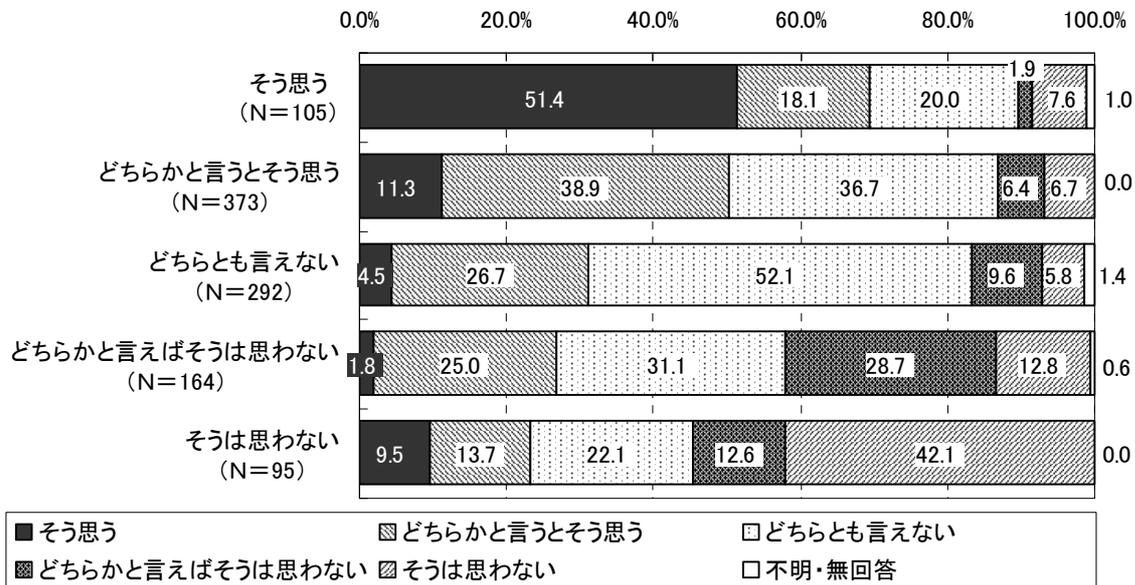
人権侵害をした経験の有無別では、「(人権侵害をした経験が)ないと思う」と回答した人では、「日本は人権が尊重されている社会である」について、「そう思う」と「どちらかと言うとそう思う」の合計が半数以上と高くなっています。

問2①×問5（他人の人権を侵害した経験の有無別）=21頁参照



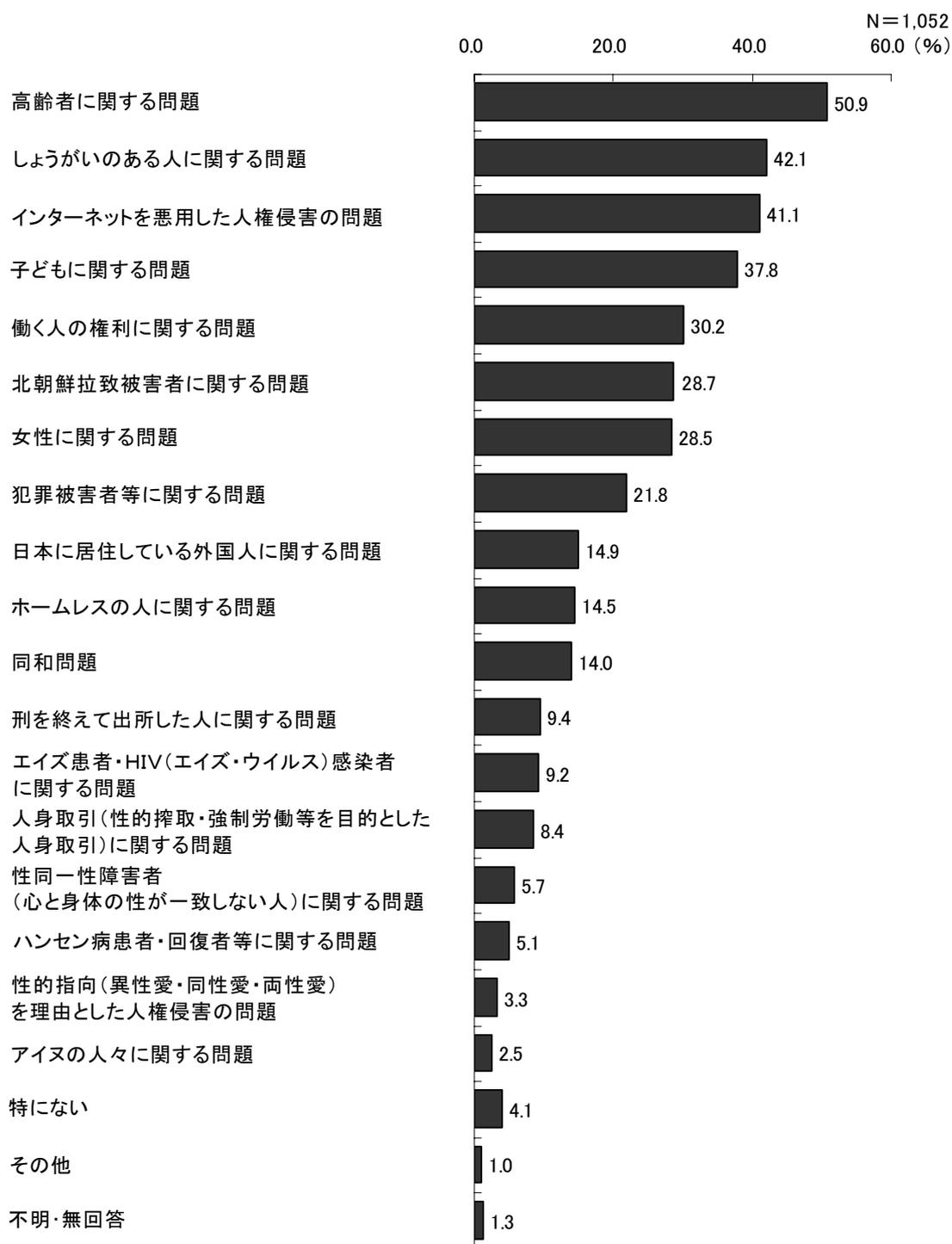
人権が尊重されている社会と思う度合別では、「そう思う(人権が尊重されている)」と回答した人では、「市民一人ひとりの人権意識は5～6年前に比べて高くなっている」について「そう思う」と「どちらかと言うとそう思う」の合計が7割弱と高くなっています。

問2②×問2①（人権が尊重されている社会と思う度合別）



問3 日本の社会には人権にかかわるさまざまな問題がありますが、あなたが特に関心のあるものはどれですか。(MA)

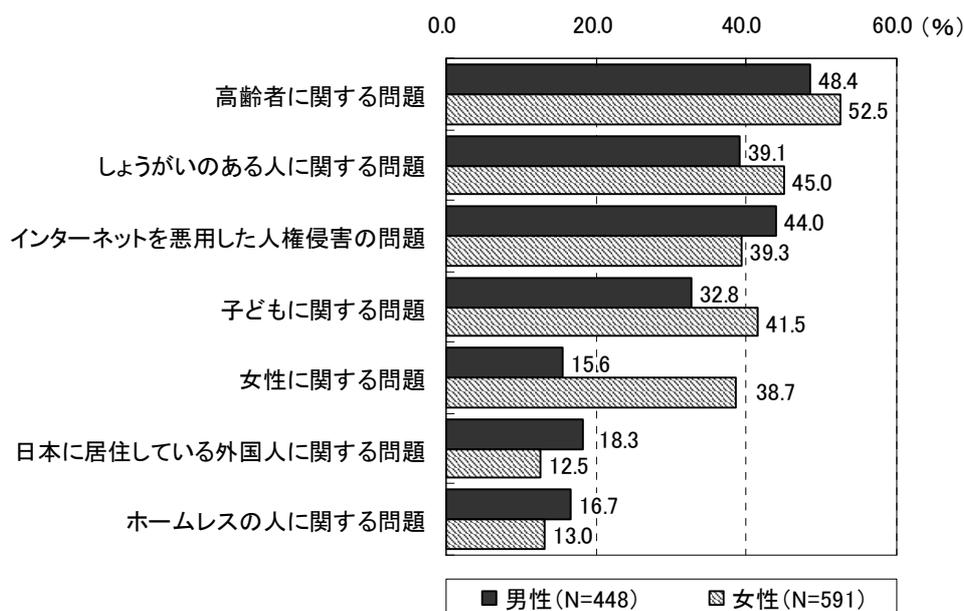
人権問題で関心がある分野については、「高齢者に関する問題」が最も高く、次いで「しょうがいのある人に関する問題」「インターネットを悪用した人権侵害の問題」が上位を占めています。



性別で見ると、男女ともに「高齢者に関する問題」が最も高くなっています。

年齢別で見ると、10代・20代では「しょうがいのある人に関する問題」、30代・40代では「インターネットを悪用した人権侵害の問題」、50代・60代、70代以上では「高齢者に関する問題」がそれぞれ最も高くなっています。

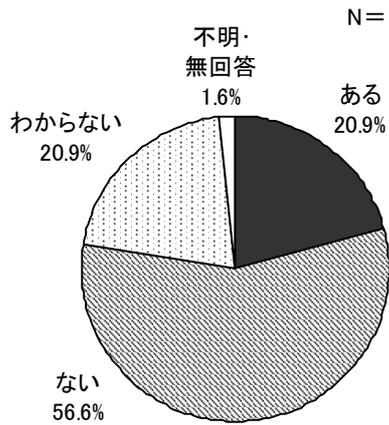
問3×性別（差が大きいもの）



問3×年齢別（年齢別順位）

	10代・20代 (N=135)	30代・40代 (N=353)	50代・60代 (N=365)	70代以上 (N=188)
第1位	しょうがいのある人 (49.6%)	インターネット (45.0%)	高齢者 (62.2%)	高齢者 (64.9%)
第2位	インターネット (48.1%)	子ども (43.1%)	しょうがいのある人 (44.7%)	北朝鮮拉致被害者 (39.9%)
第3位	子ども (42.2%)	しょうがいのある人 (42.8%)	インターネット (40.5%)	しょうがいのある人 (31.4%)
第4位	女性 (40.0%)	高齢者 (37.1%)	子ども (35.1%)	インターネット (30.9%)
第5位	高齢者 (34.8%)	女性 (35.4%)	北朝鮮拉致被害者 (34.5%)	子ども (29.3%)
第6位	働く人 (31.9%)	働く人 (33.1%)	働く人 (30.4%)	働く人 (23.4%)
第7位	犯罪被害者 (20.7%)	犯罪被害者 (24.1%)	女性 (25.2%)	犯罪被害者 (21.3%)
第8位	外国人 (20.0%)	北朝鮮拉致被害者 (22.4%)	犯罪被害者 (20.3%)	ホームレス (18.1%)
第9位	北朝鮮拉致被害者 (15.6%)	外国人 (16.4%)	同和問題 (16.4%)	女性 (13.3%)
第10位	エイズ患者 (14.1%)	同和問題 (15.0%)	ホームレス (16.4%)	外国人 (10.6%)

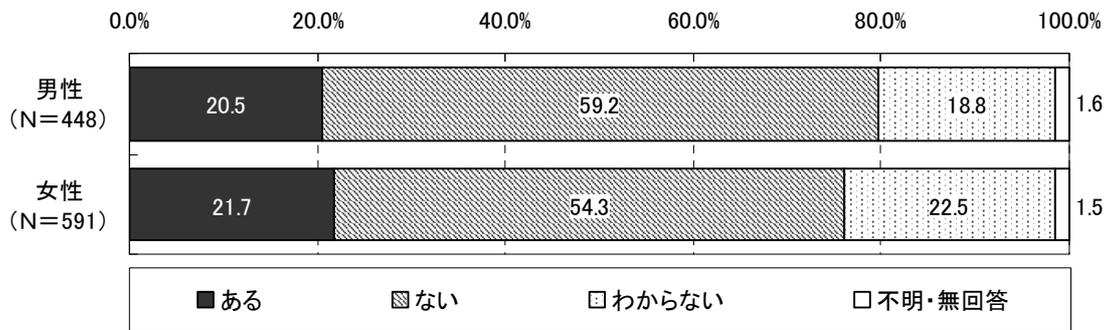
問4 あなたは、今までに、自分の人権が侵害されたと思ったことがありますか。(SA)



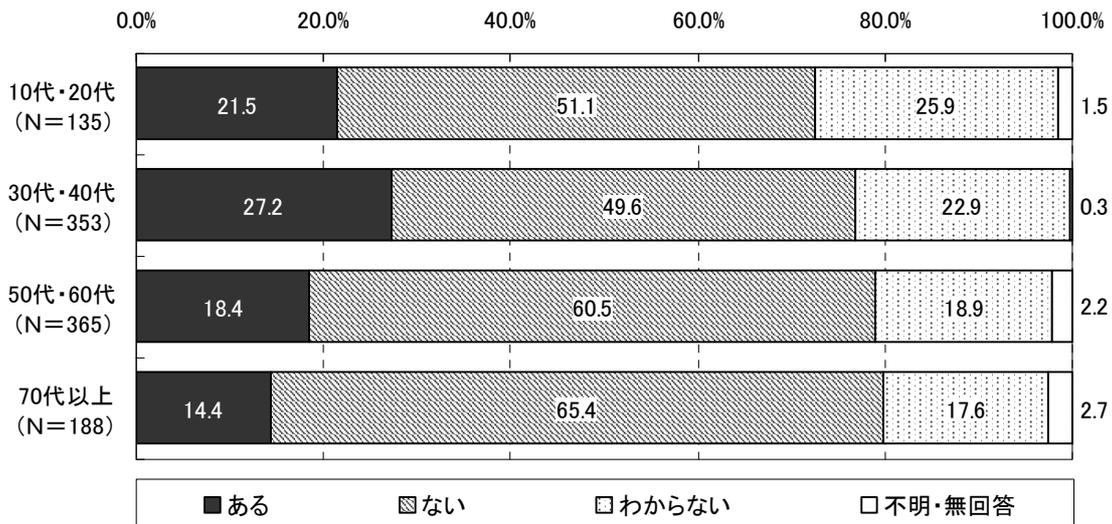
人権を侵害された経験の有無について、「ある」が20.9%となっています。

性別では、ほとんど差が見られませんが、年齢別では、30代・40代で「ある」が比較的多くなっています。

問4 × 性別

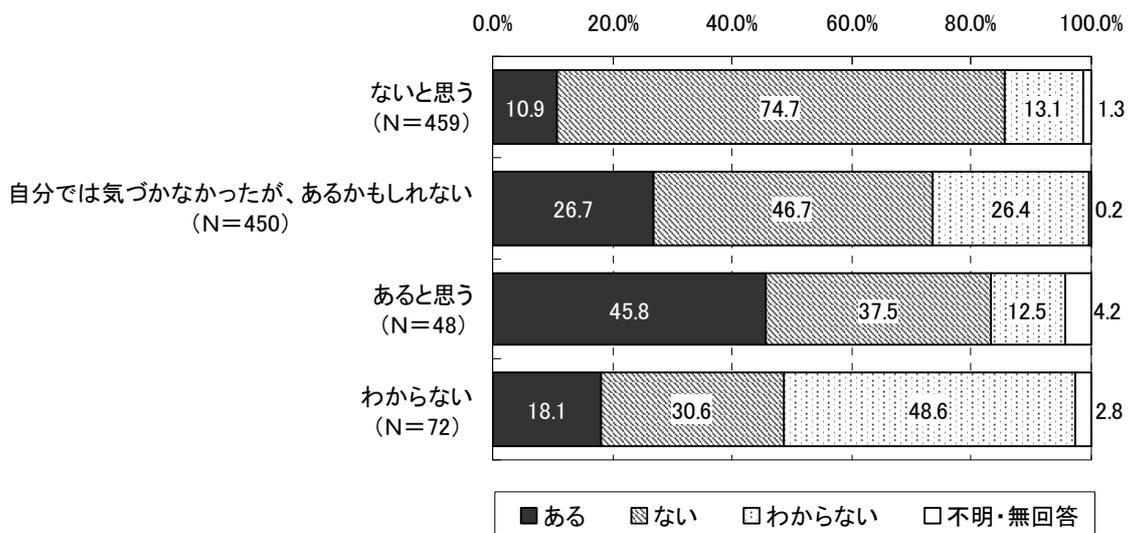


問4 × 年齢別



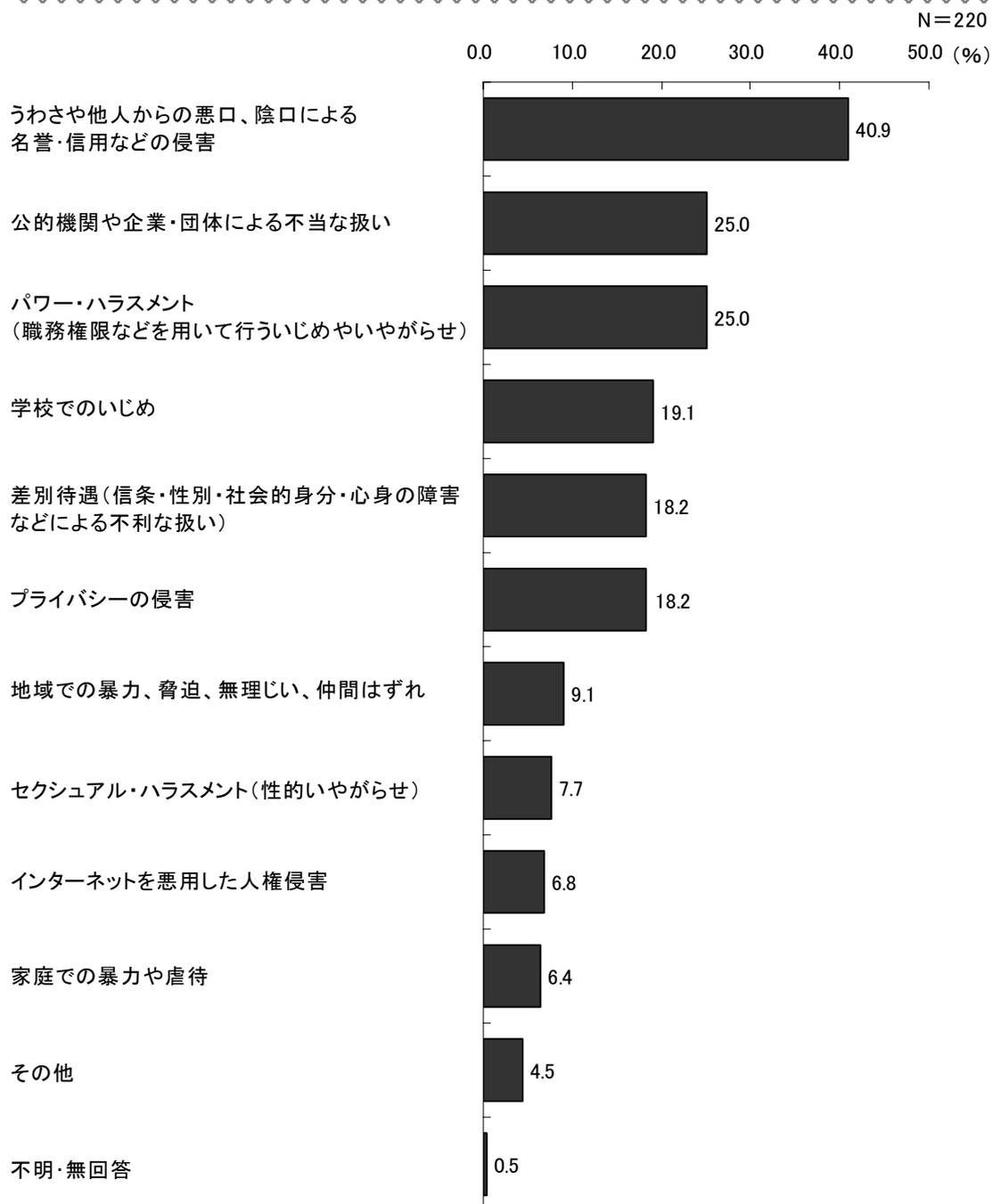
他人の人権を侵害した経験の有無別に、自身が人権を侵害された経験の有無を見ると、「(他人の人権を侵害したことが)あると思う」と回答した人は「(自身の人権を侵害されたことが)ある」が45.8%と高くなっています。反対に「(他人の人権を侵害したことが)ないと思う」と回答した人は「(自身の人権を侵害されたことが)ない」が74.7%と高くなっています。

問4×問5（他人の人権を侵害した経験の有無別） =21頁参照



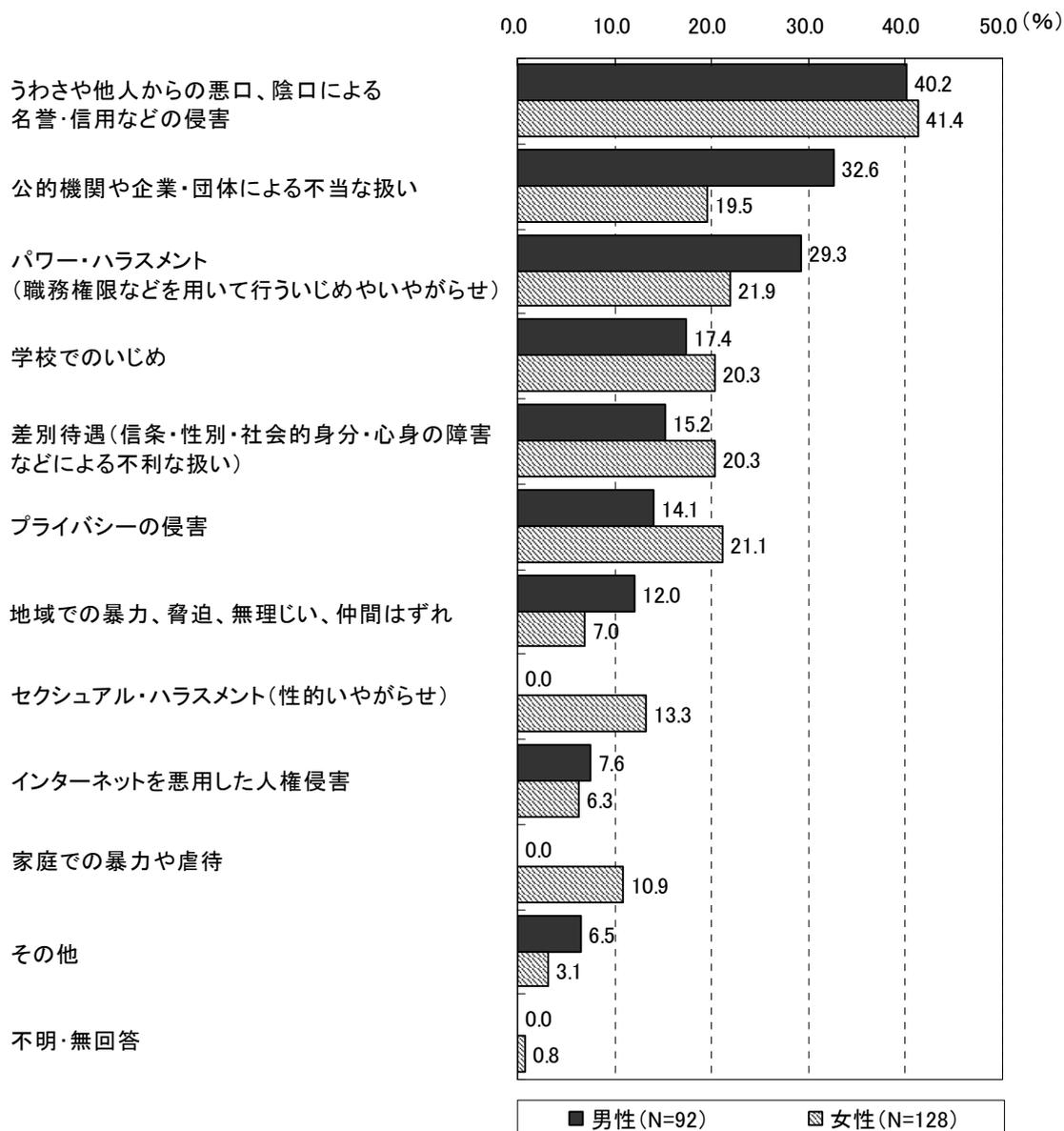
問4-1 問4で「1（自身が人権侵害を受けた経験がある）」を選ばれた方におうかがいします。それは、どのような人権侵害でしたか。（MA）

人権侵害の内容については、「うわさや他人からの悪口、陰口による名誉・信用などの侵害」が最も高く、次いで「公的機関や企業・団体による不当な扱い」「パワー・ハラスメント」が上位を占めています。



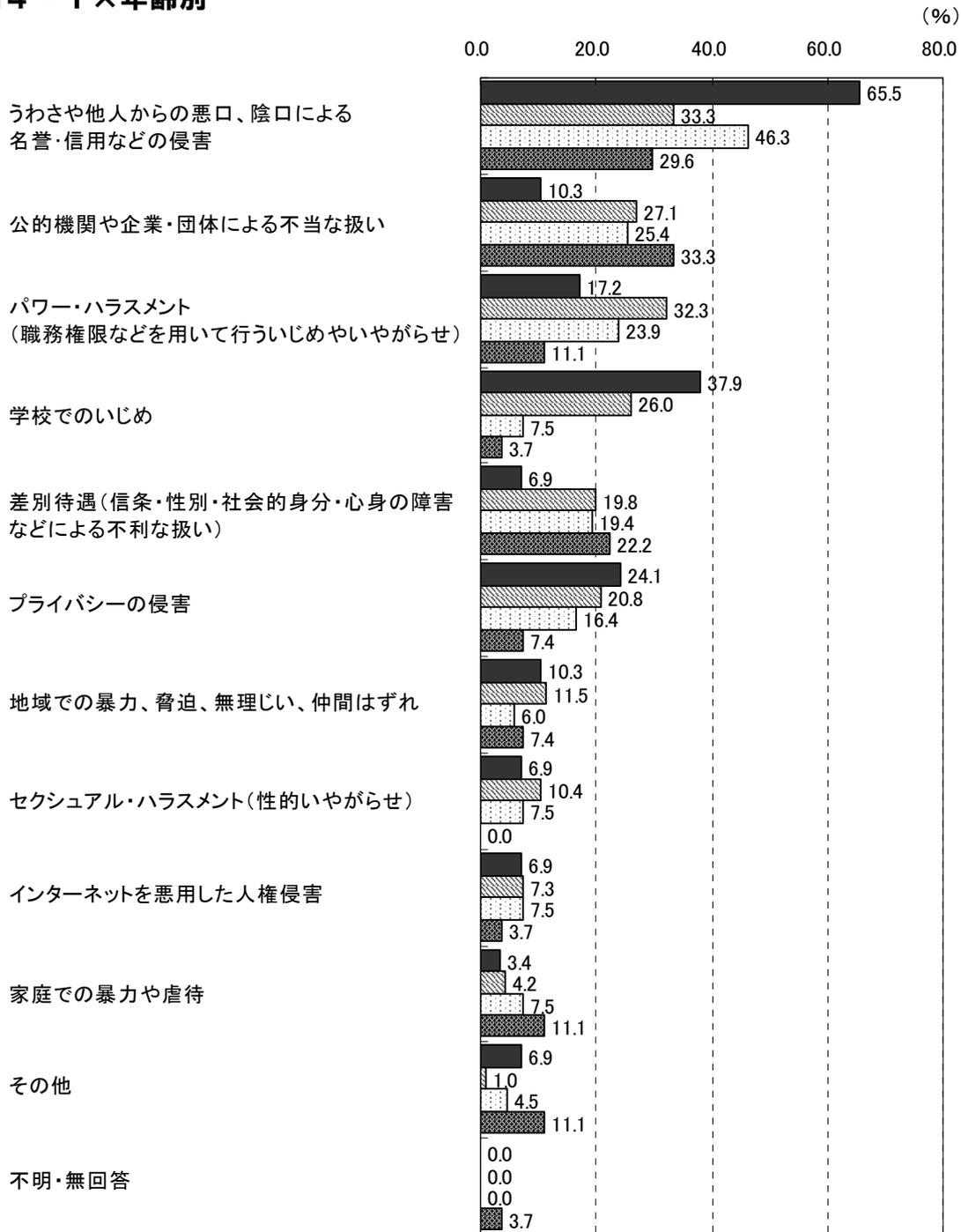
性別で見ると、男女とも「うわさや他人からの悪口、陰口による名誉・信用などの侵害」が最も高くなっています。次いで男性では「公的機関や企業・団体による不当な扱い」、女性では「パワー・ハラスメント」が高くなっています。

問4-1×性別



年齢別で見ると、10代・20代、30代・40代、50代・60代で「うわさや他人からの悪口、陰口による名誉・信用などの侵害」が最も高く、70代以上では「公的機関や企業・団体による不当な扱い」が最も高くなっています。

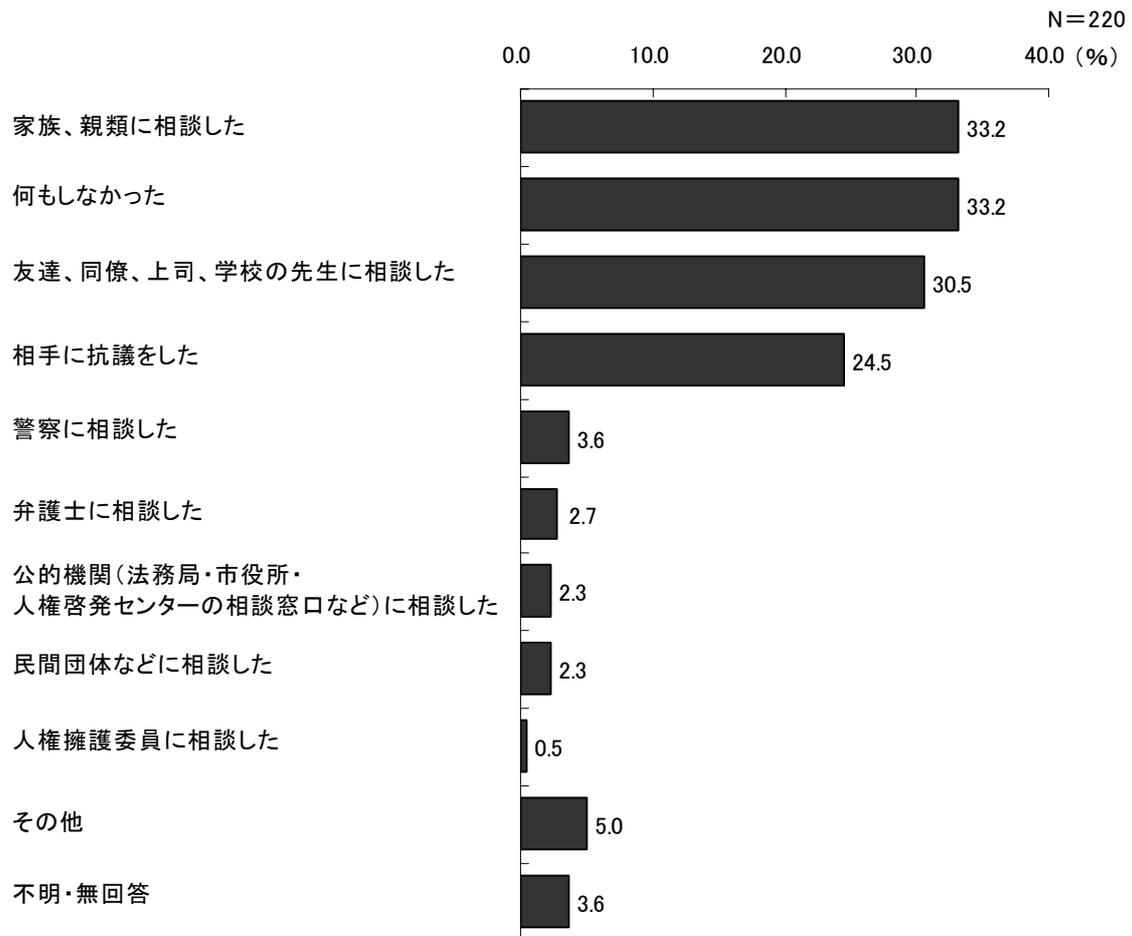
問4-1×年齢別



■ 10代・20代 (N=29) ▨ 30代・40代 (N=96) □ 50代・60代 (N=67) ■ 70代以上 (N=27)

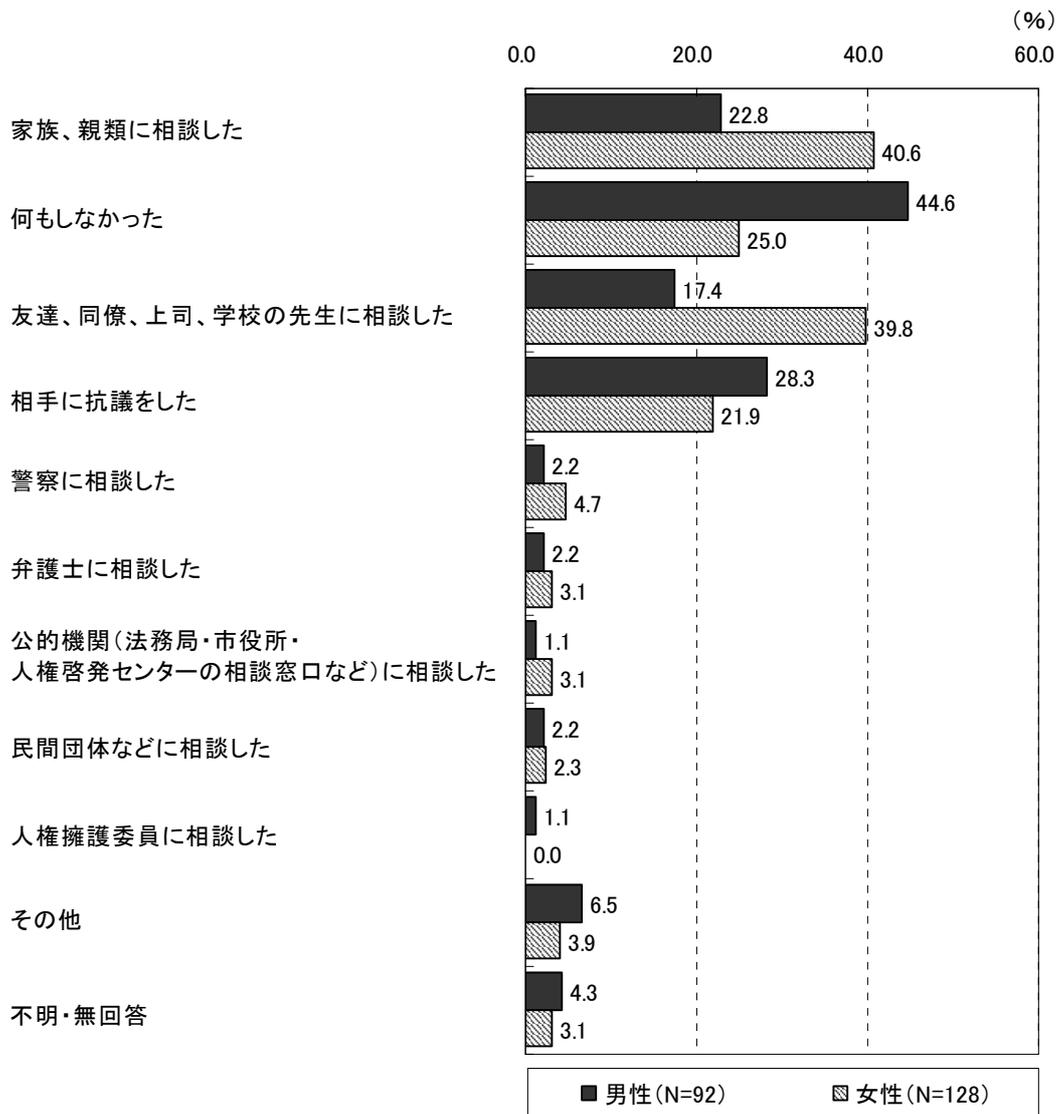
問4-2 問4で「1（自身が人権侵害を受けた経験がある）」を選ばれた方におうかがいします。人権侵害を受けたとき、あなたはどうしましたか。(MA)

人権侵害を受けたときの対応について、「家族、親類に相談した」「何もしなかった」が33.2%と最も高く、次いで「友達、同僚、上司、学校の先生に相談した」が30.5%となっています。



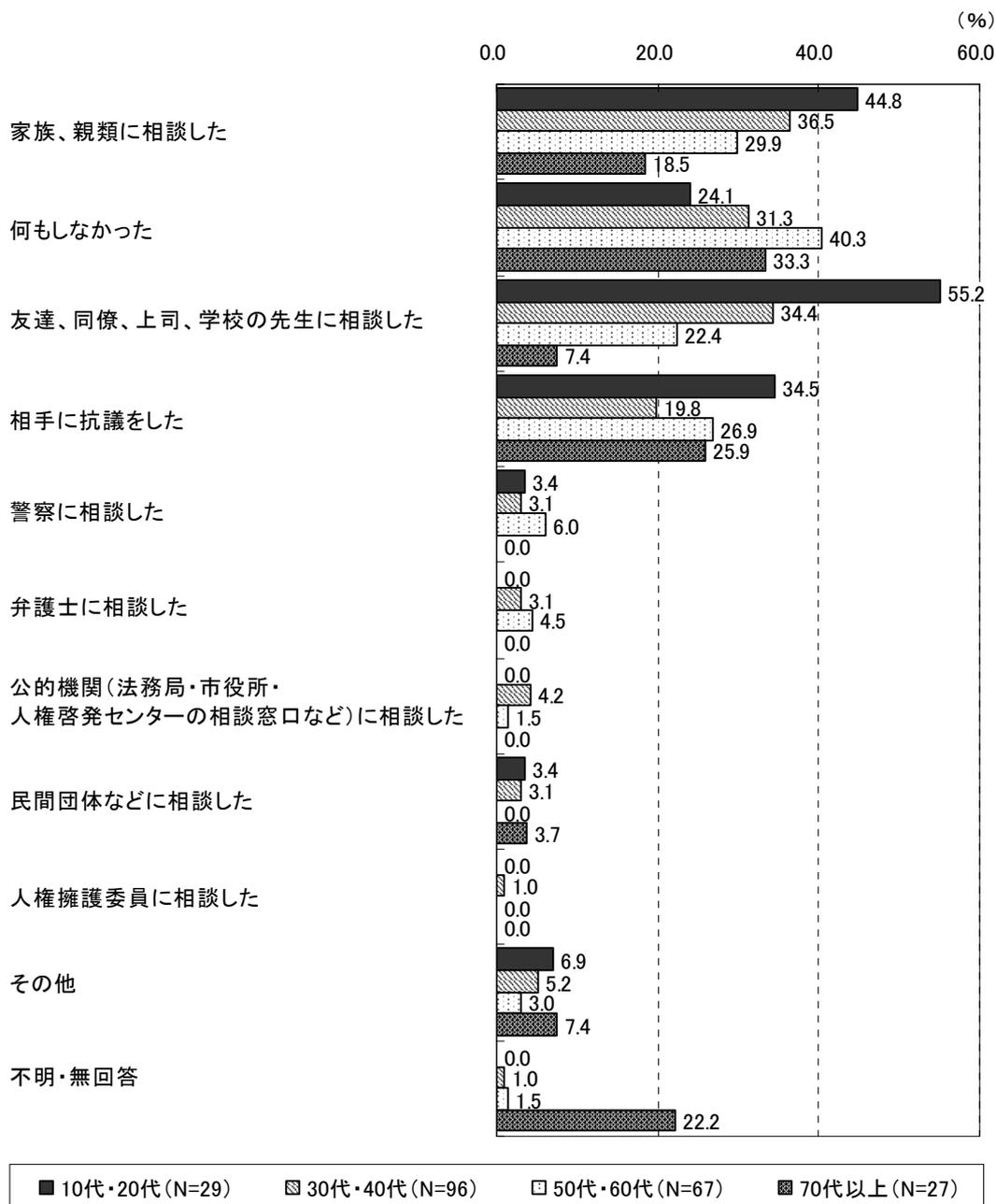
性別に見ると、男性では「何もしなかった」が最も高く、女性では「家族、親類に相談した」が最も高くなっています。

問4-2×性別

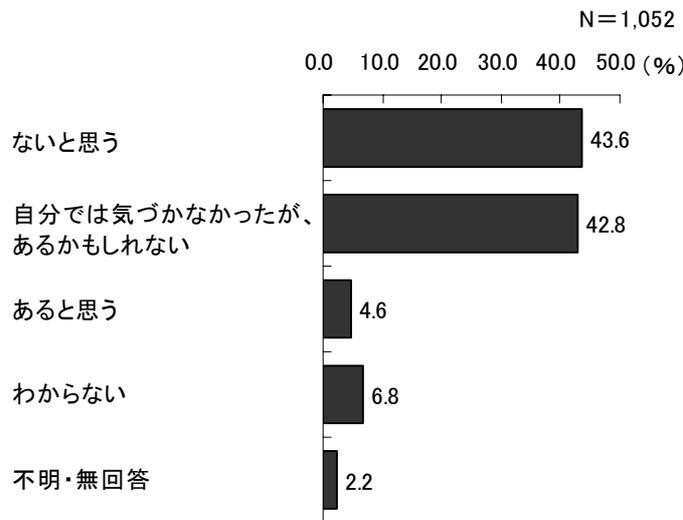


年齢別に見ると、10代・20代では「友達、同僚、上司、学校の先生に相談した」、30代・40代では「家族、親類に相談した」、50代・60代、70代以上では「何もしなかった」が最も高くなっています。

問4-2×年齢別



問5 あなたは、今までに、他人の人権を侵害したことがあると思いますか。(SA)

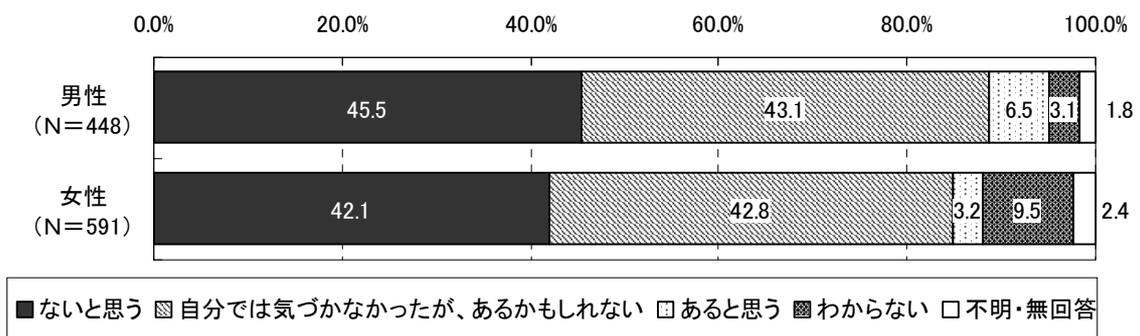


他人の人権を侵害した経験の有無について、「ないと思う」が43.6%と最も高くなっている一方で、「自分では気づかなかったが、あるかもしれない」が42.8%と同等の割合を示しています。

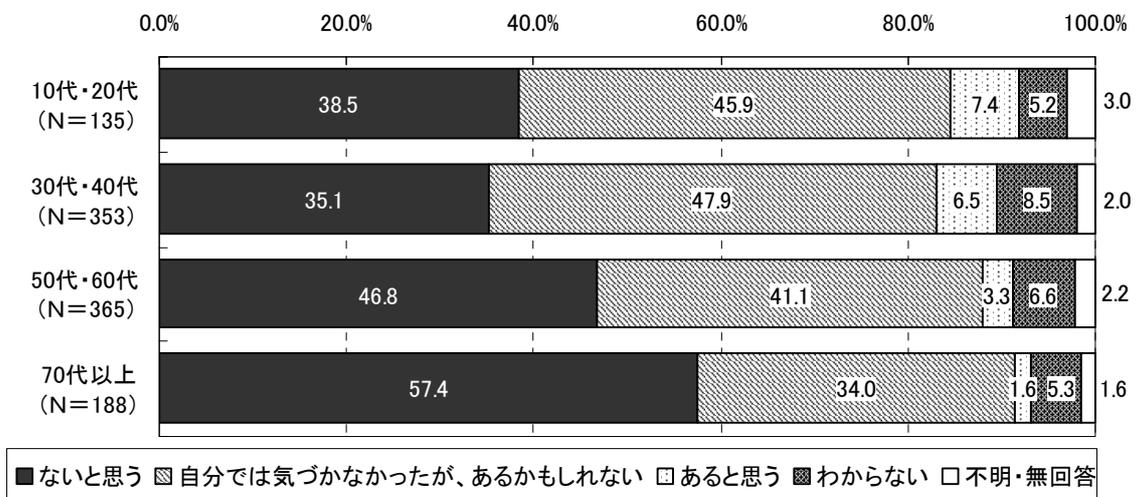
性別では、ほとんど差が見られませんでした。

年齢別に見ると、年齢が上がるにつれて、「ないと思う」の割合が高くなる傾向が見られます。

問5×性別



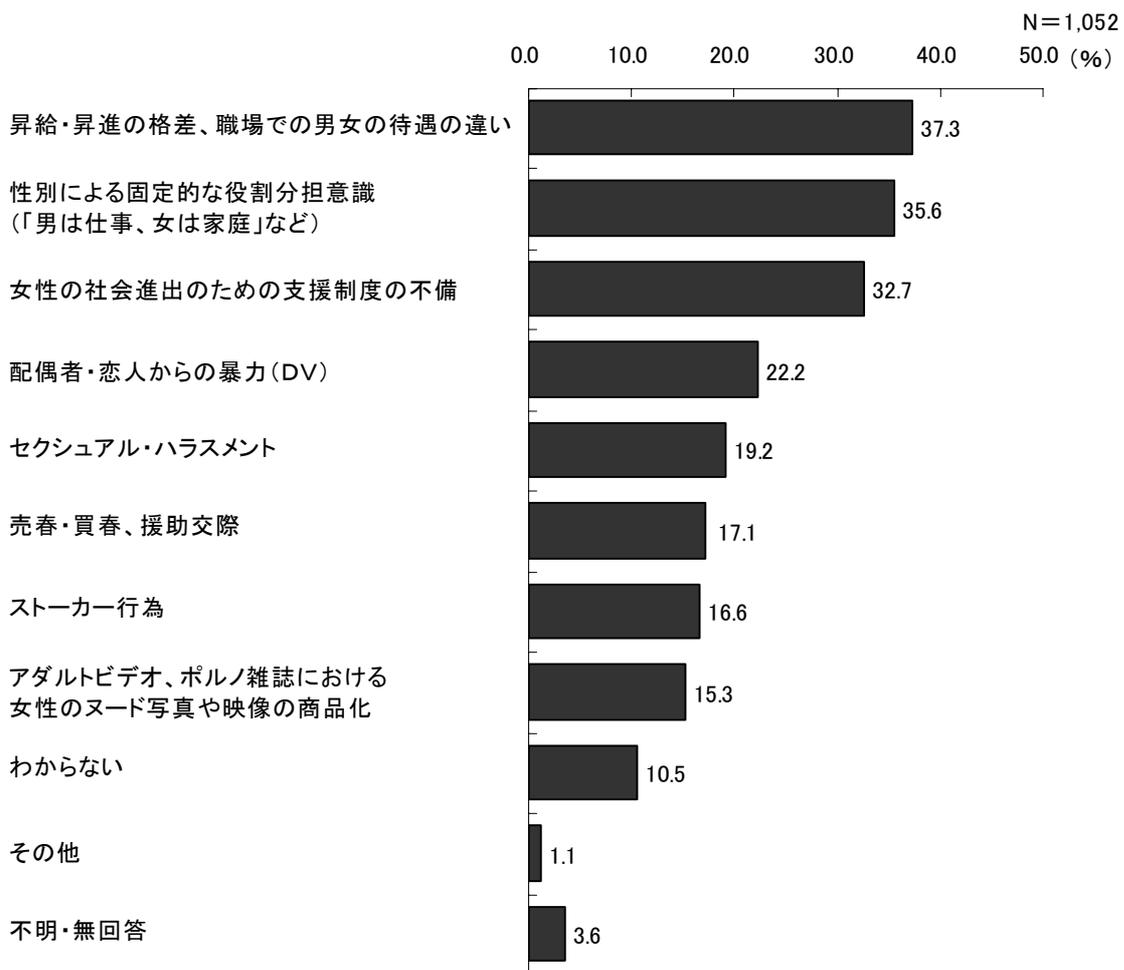
問5×年齢別



3 . 女性の人権について

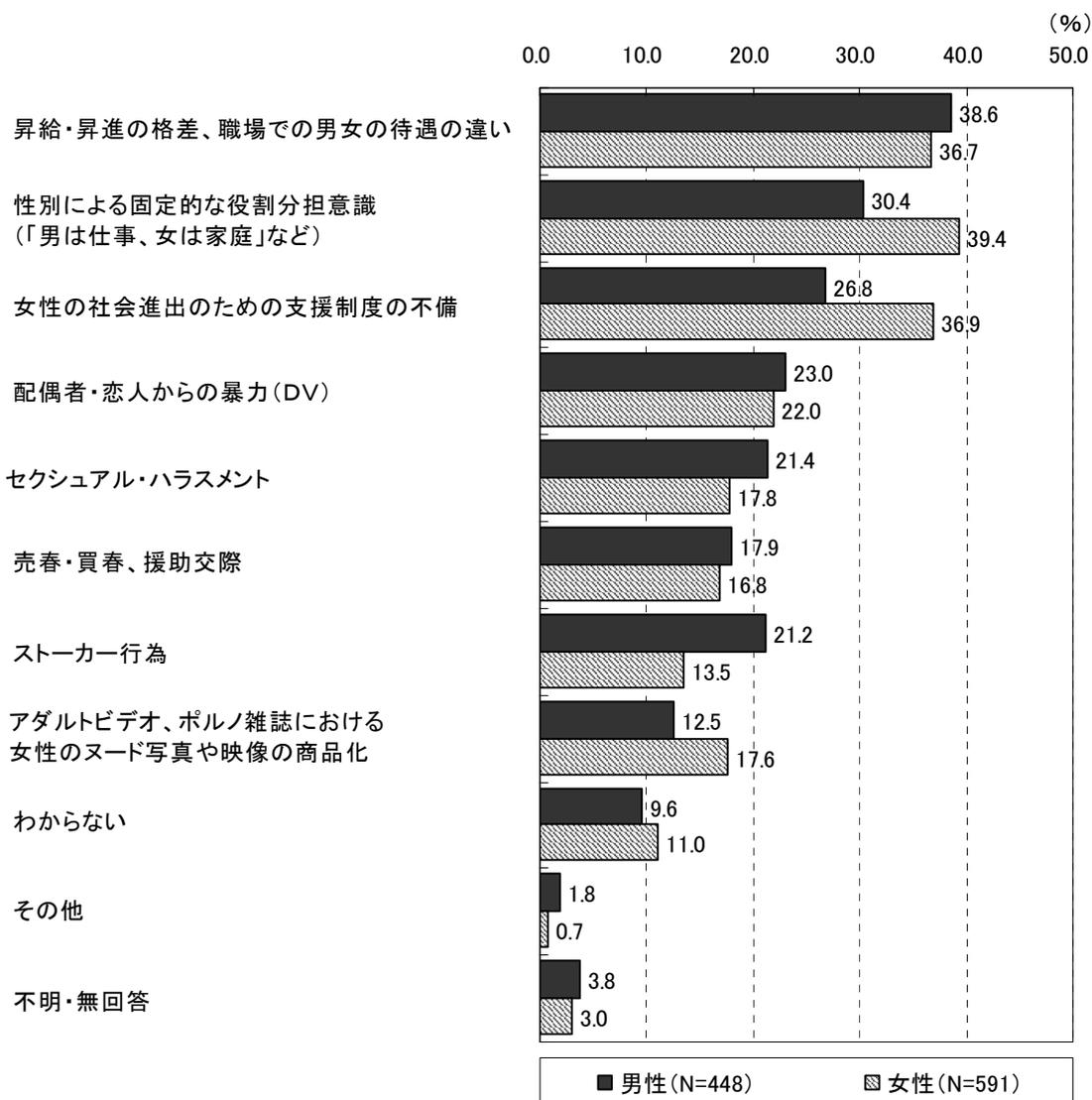
問6 女性に関することで、人権上、あなたが特に問題があると思うのはどのようなことですか。(MA)

女性の人権で問題のあることについて、「昇給・昇進の格差、職場での男女の待遇の違い」が37.3%と最も高く、次いで「性別による固定的な役割分担意識」が35.6%となっています。



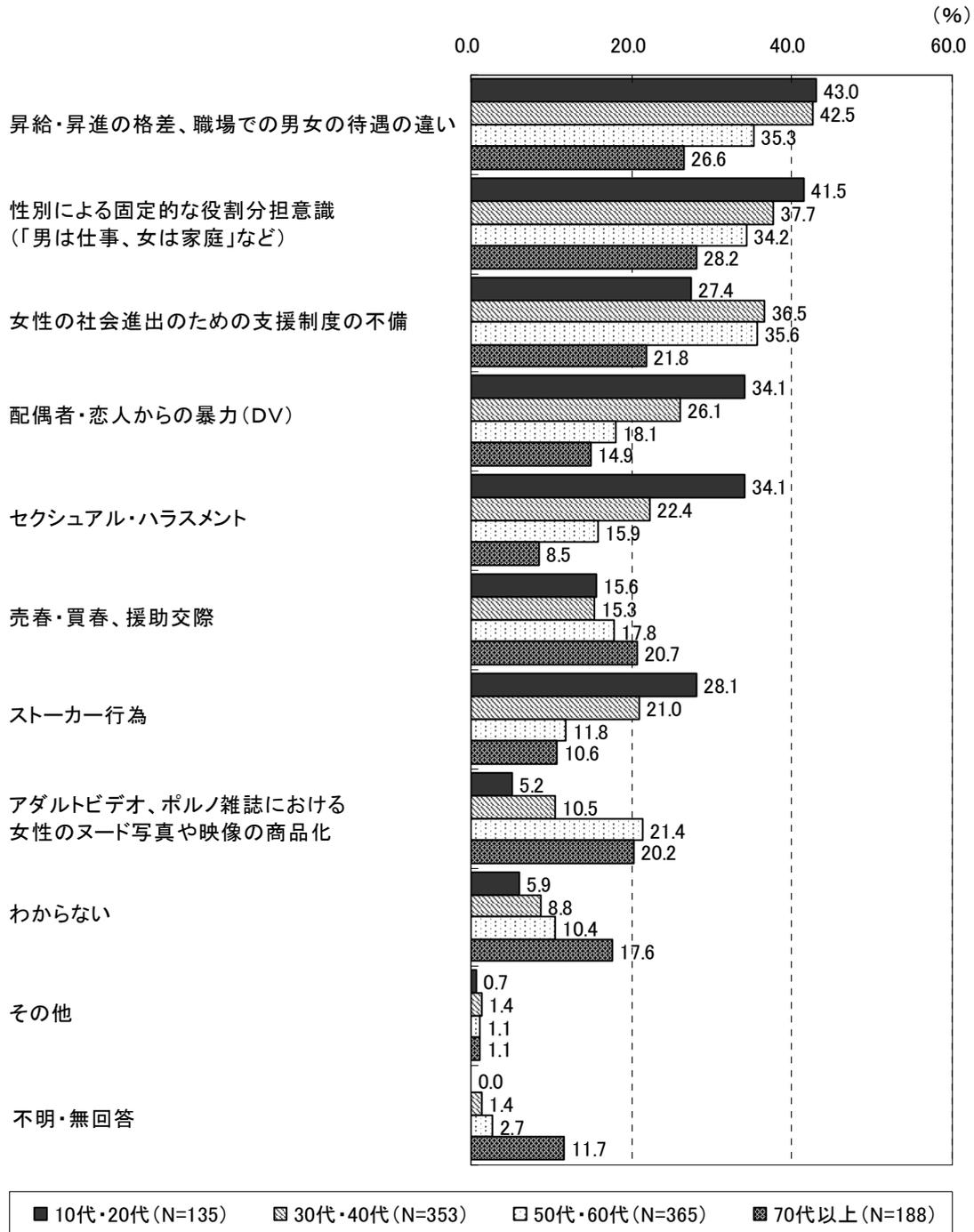
性別に見ると、男性では「昇給・昇進の格差、職場での男女の待遇の違い」が最も高く、女性では「性別による固定的な役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」など）」が最も高くなっています。

問6×性別



年齢別に見ると、10代・20代、30代・40代では「昇給・昇進の格差、職場での男女の待遇の違い」、50代・60代では「女性の社会進出のための支援制度の不備」、70代以上では「性別による固定的な役割分担意識」が最も高くなっています。

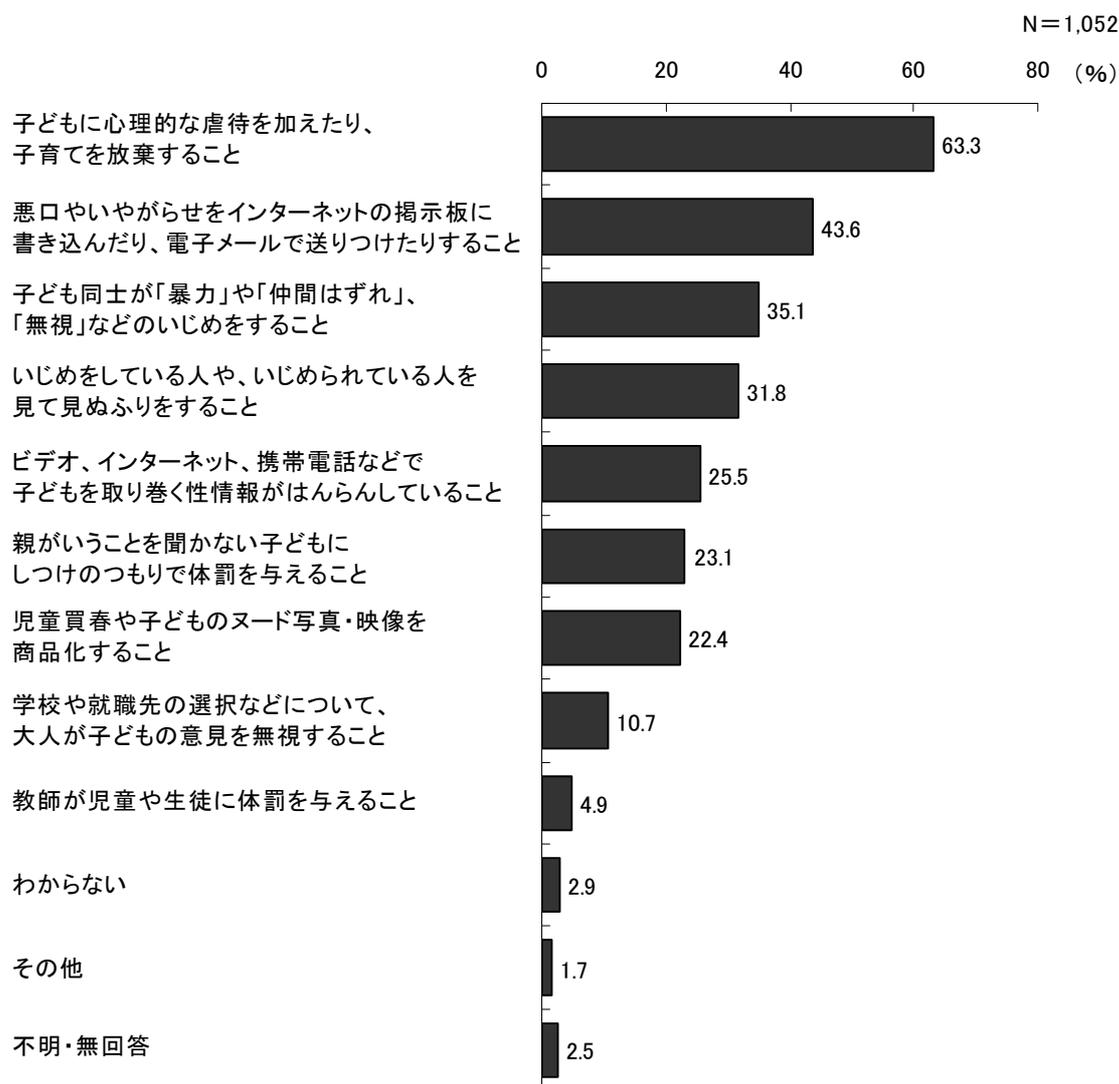
問6×年齢別



4 . 子どもの人権について

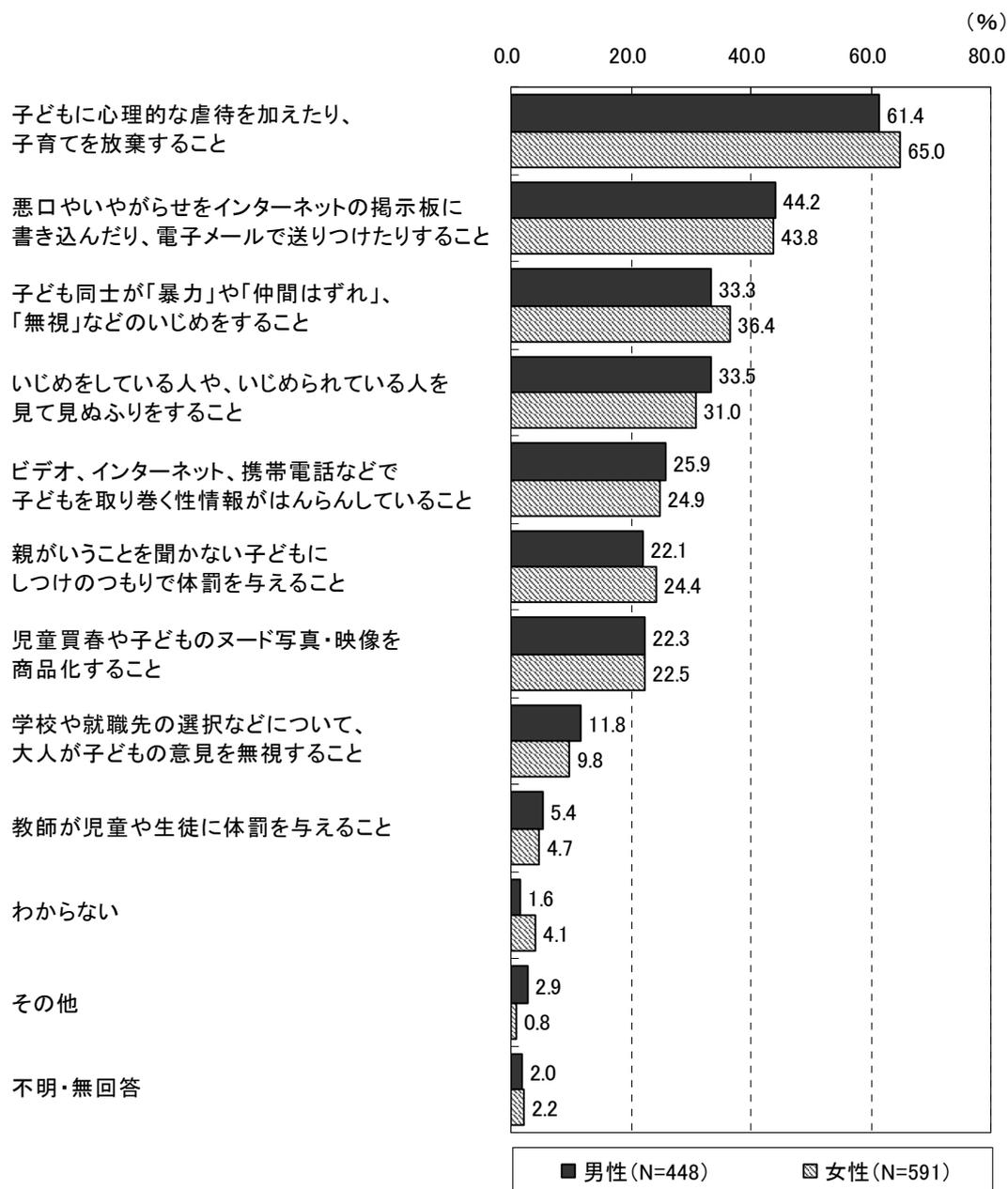
問7 子どもに関することで、人権上、あなたが特に問題があると思うのはどのようなことですか。(MA)

子どもの人権で問題のあることについて、「子どもに心理的な虐待を加えたり、子育てを放棄すること」が63.3%と最も高く、次いで「悪口やいやがらせをインターネットの掲示板に書き込んだり、電子メールで送りつけたりすること」が43.6%となっています。



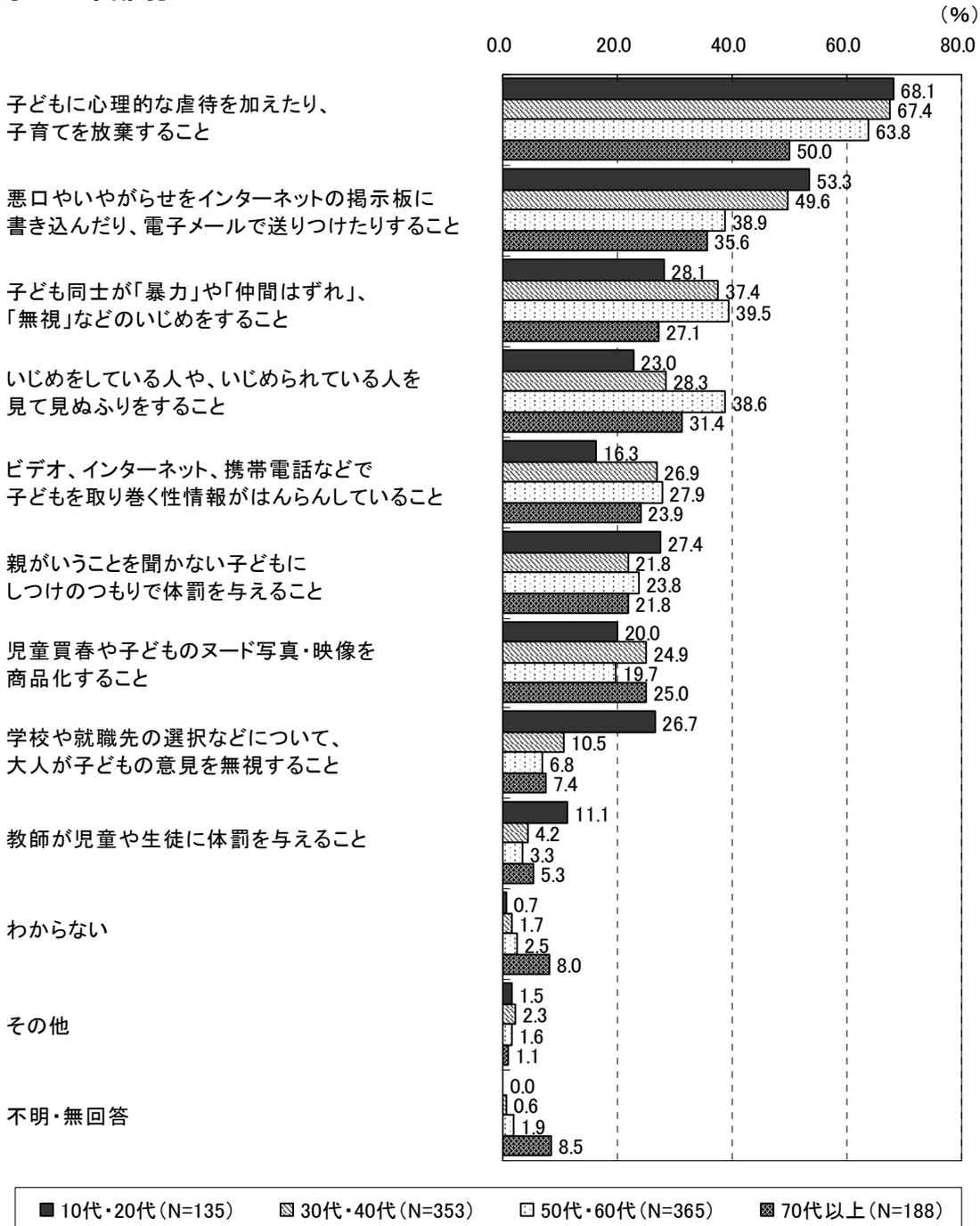
性別に見ると、男女ともに「子どもに心理的な虐待を加えたり、子育てを放棄すること」が最も高くなっています。

問7×性別



年齢別に見ると、すべての年代で「子どもに心理的な虐待を加えたり、子育てを放棄すること」が最も高くなっています。

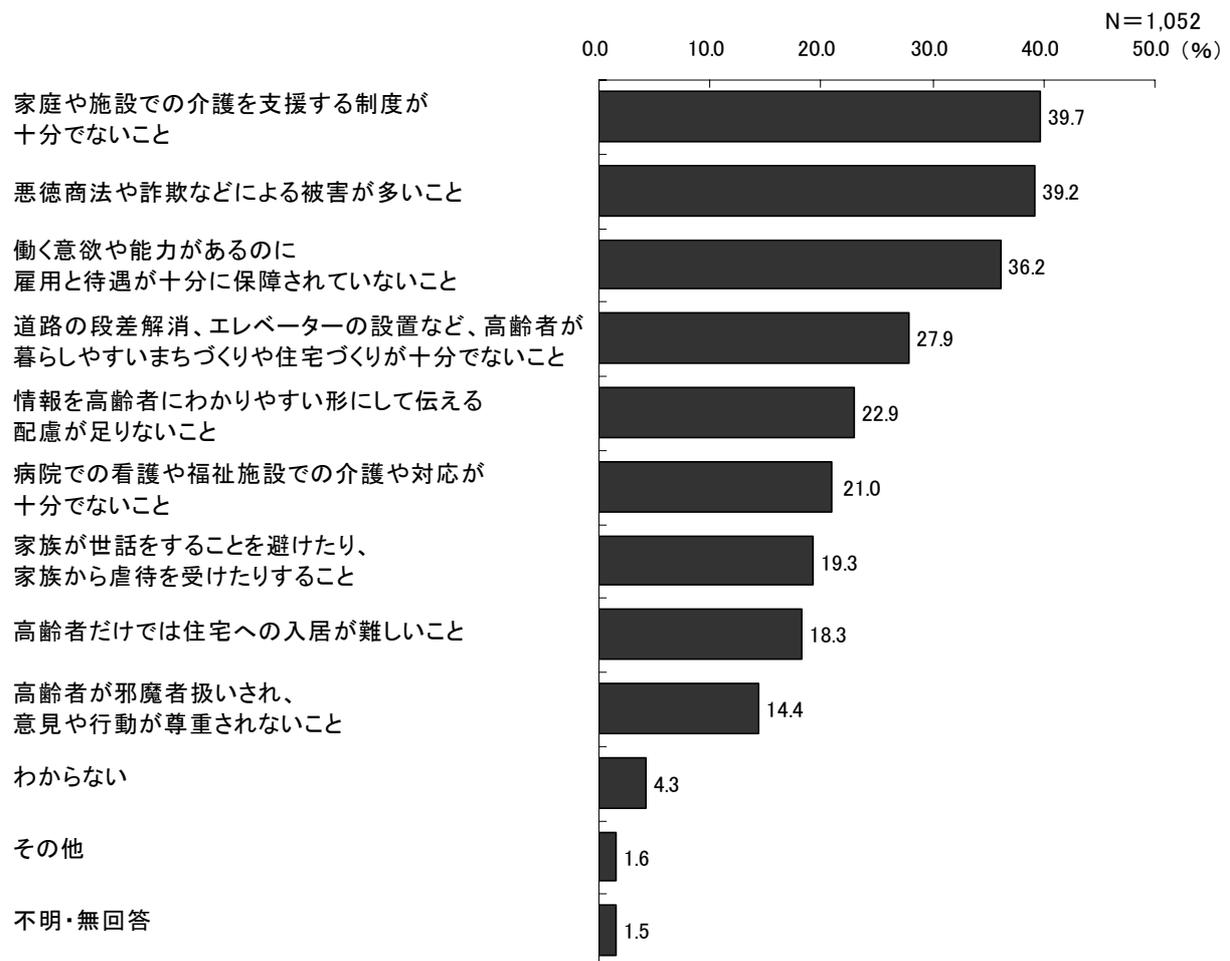
問7×年齢別



5 . 高齢者の人権について

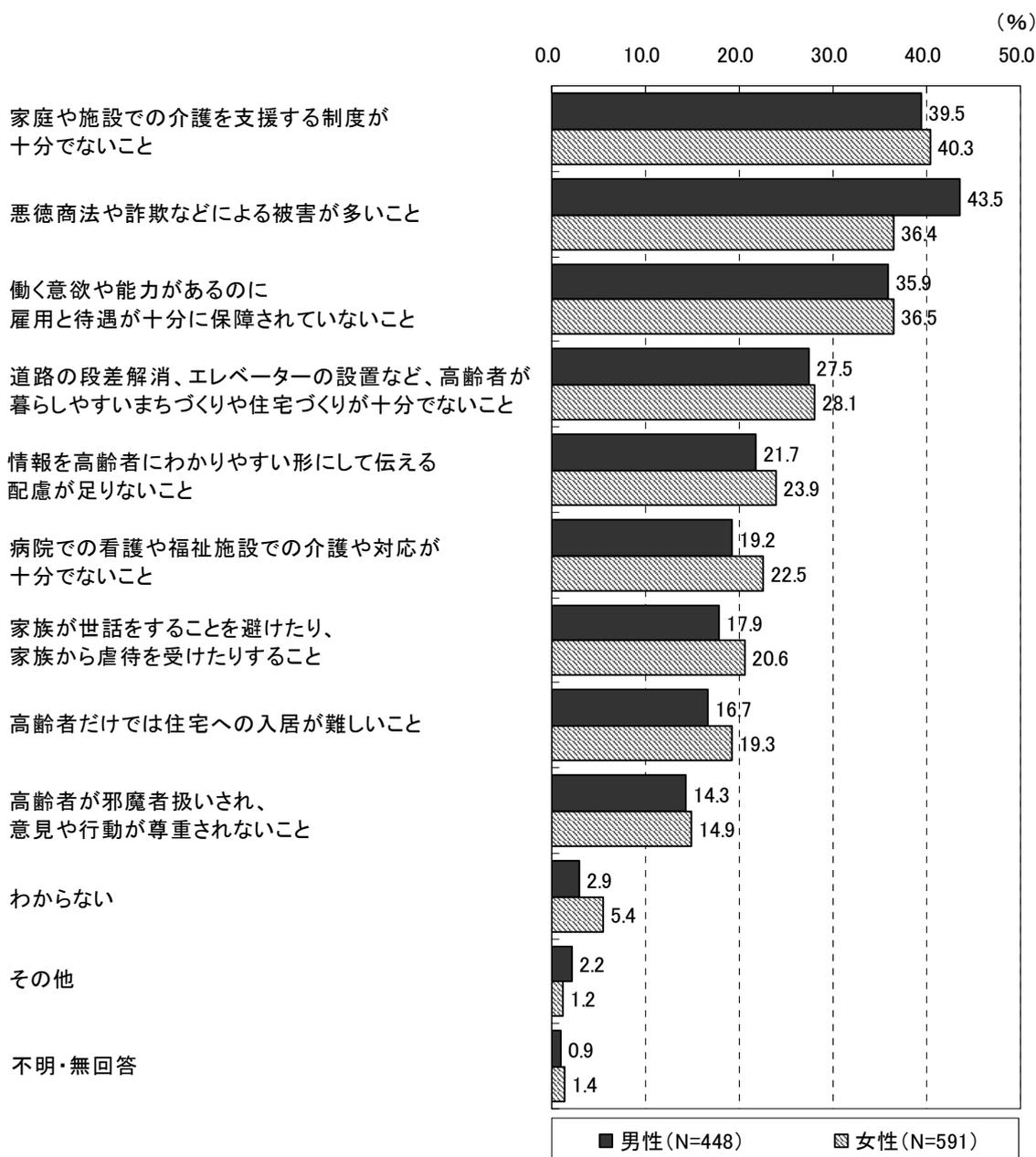
問8 高齢者に関することで、人権上、あなたが特に問題があると思うのはどのようなことですか。(MA)

高齢者の人権で問題のあることについて、「家庭や施設での介護を支援する制度が十分でないこと」が39.7%と最も高く、次いで「悪徳商法や詐欺などによる被害が多いこと」が39.2%となっています。



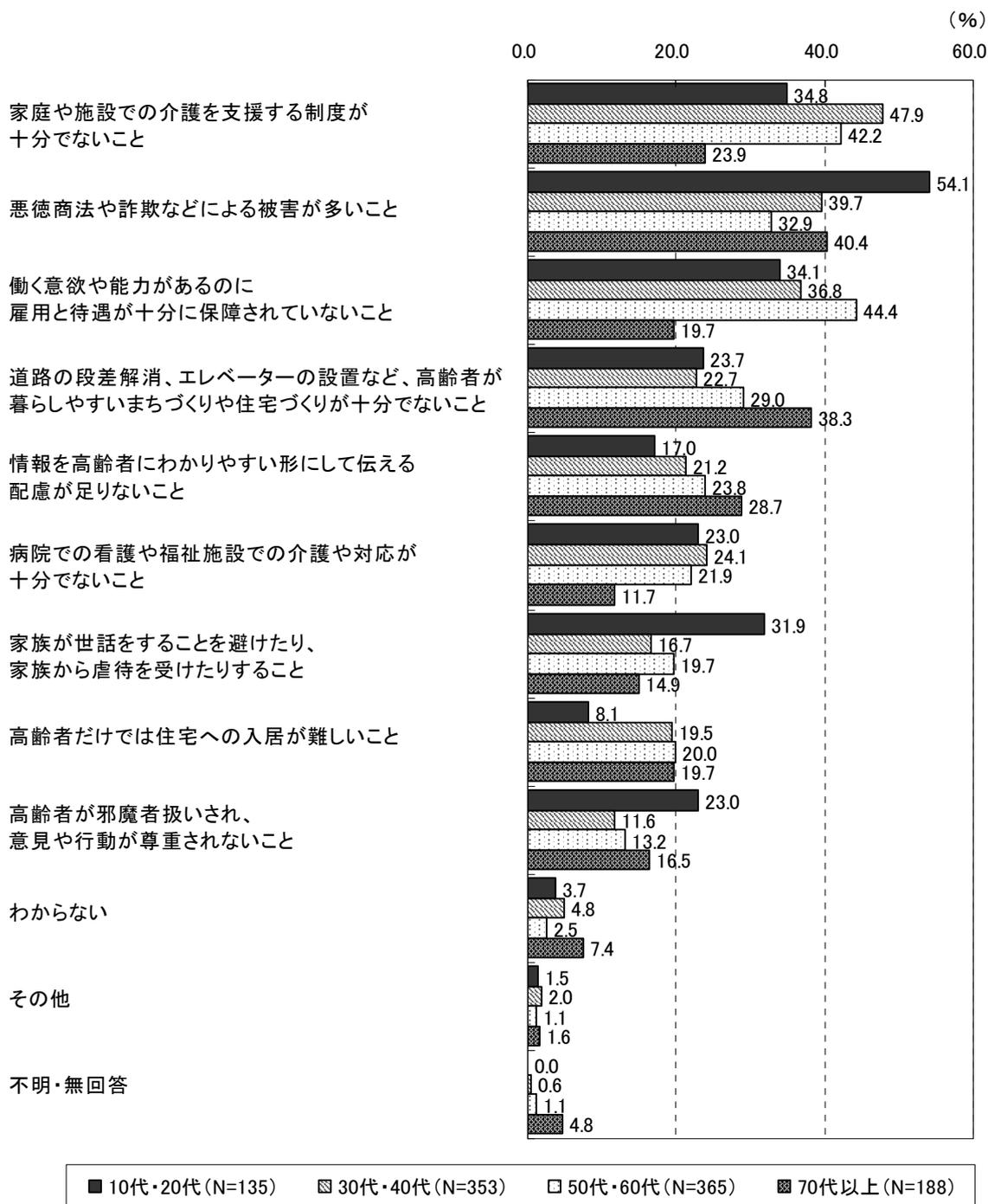
性別に見ると、男性では「悪徳商法や詐欺などによる被害が多いこと」が最も高く、女性では「家庭や施設での介護を支援する制度が十分でないこと」が最も高くなっています。

問8×性別



年齢別に見ると、10代・20代、70代以上では「悪徳商法や詐欺などによる被害が多いこと」、30代・40代では「家庭や施設での介護を支援する制度が十分でないこと」、50代・60代では「働く意欲や能力があるのに雇用と待遇が十分に保障されていないこと」、が最も高くなっています。

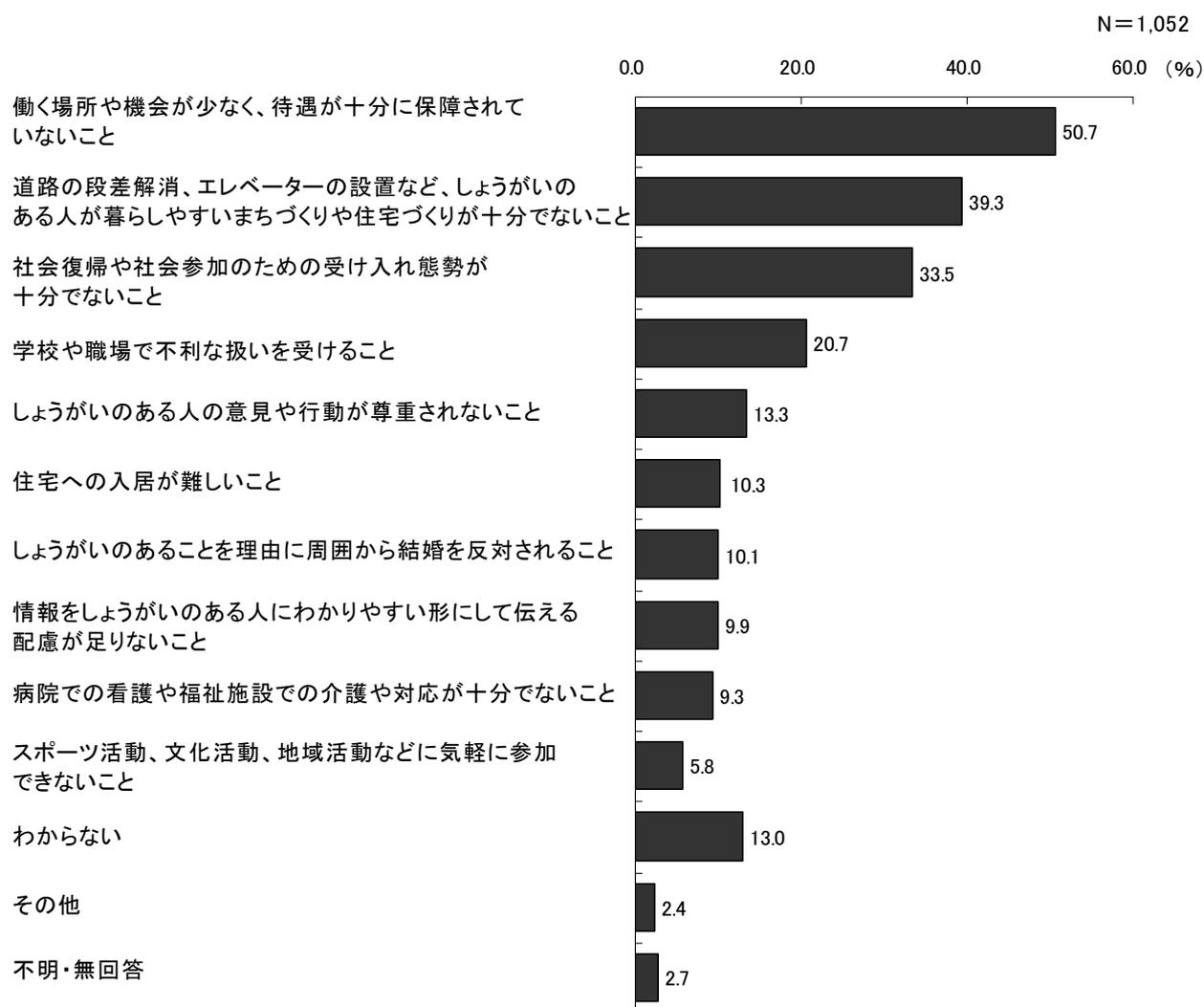
問8×年齢別



6 . しょうがいのある人の人権について

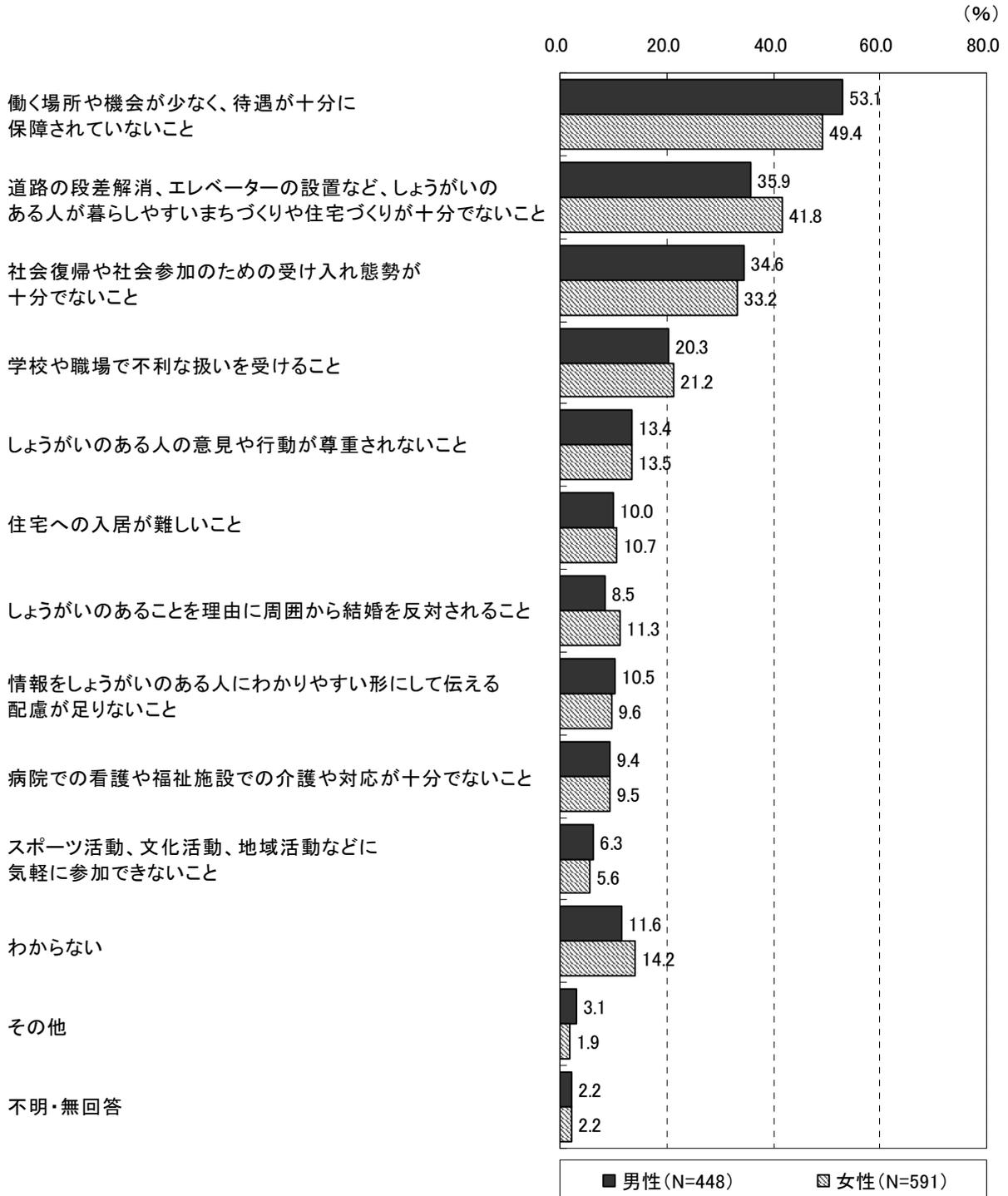
問9 しょうがいのある人に関する事で、人権上、あなたが特に問題があると思うのはどのようなことですか。(MA)

しょうがいのある人の人権で問題のあることについて、「働く場所や機会が少なく、待遇が十分に保障されていないこと」が50.7%と最も高く、次いで「道路の段差解消、エレベーターの設置など、しょうがいのある人が暮らしやすいまちづくりや住宅づくりが十分でないこと」が39.3%となっています。



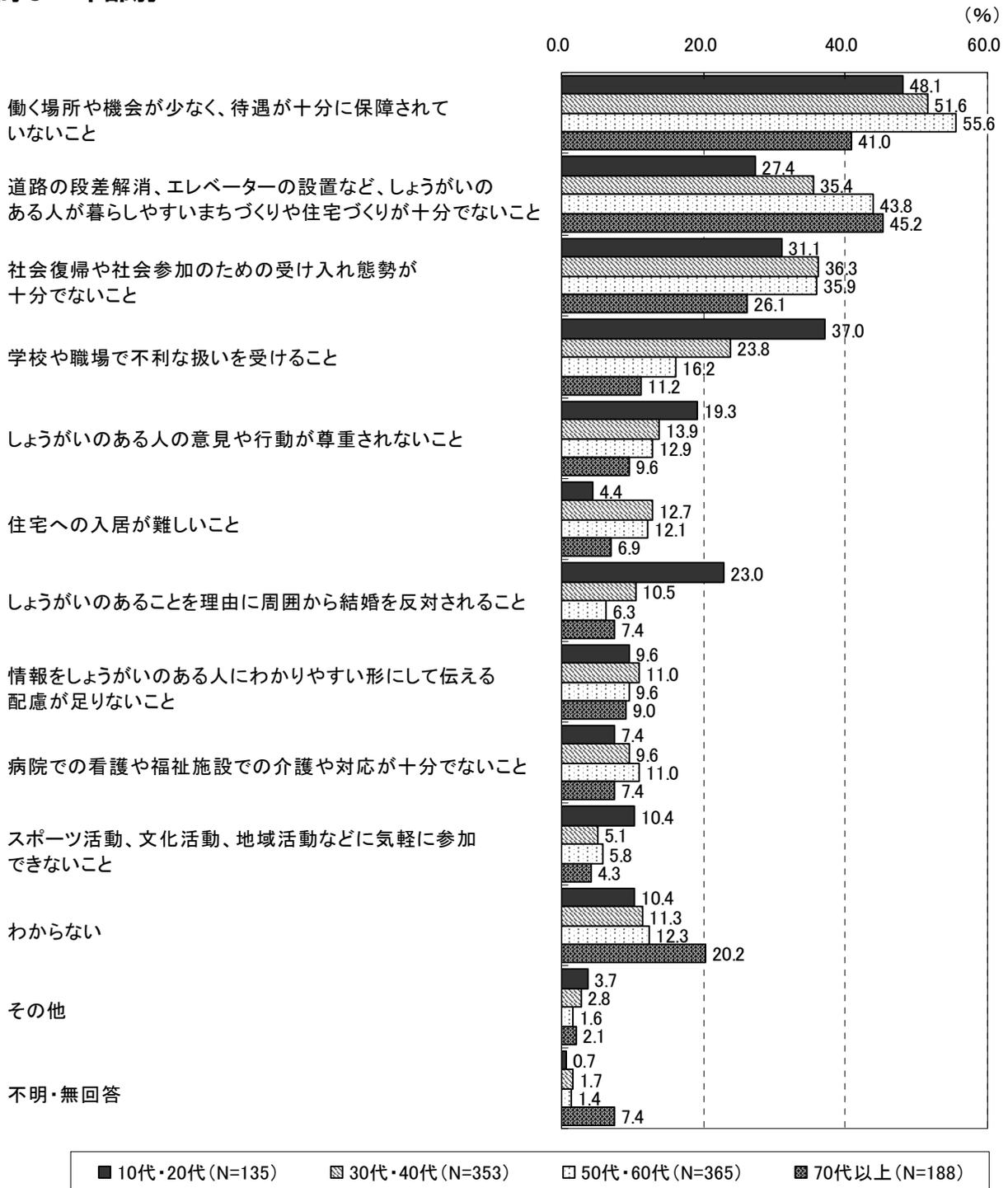
性別に見ると、男女とも「働く場所や機会が少なく、待遇が十分に保障されていないこと」が最も高くなっています。

問9×性別



年齢別に見ると、10代・20代、30代・40代、50代・60代では「働く場所や機会が少なく、待遇が十分に保障されていないこと」が最も高く、70代以上では「道路の段差解消、エレベーターの設置など、しょうがいのある人が暮らしやすいまちづくりや住宅づくりが十分でないこと」が最も高くなっています。

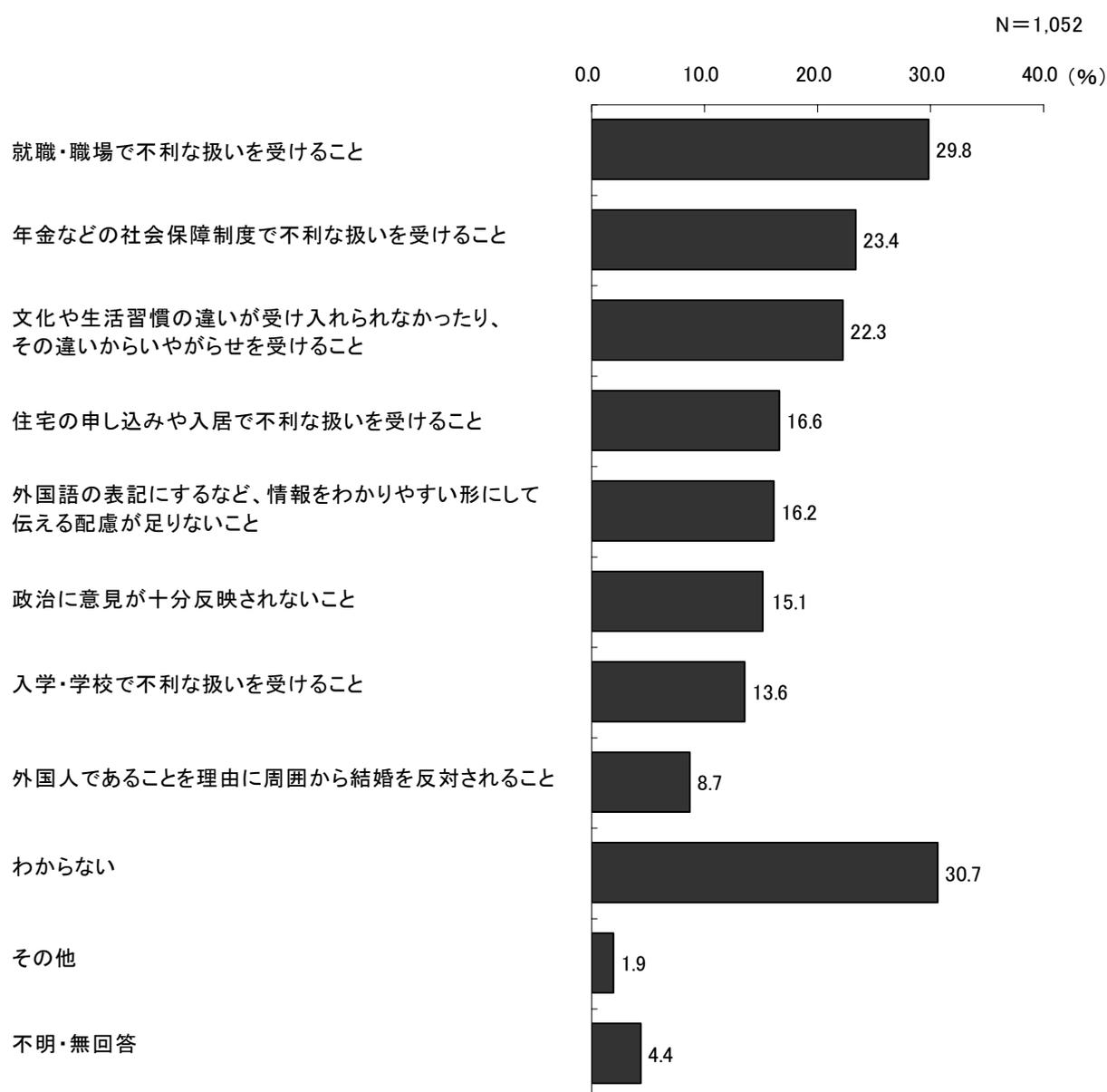
問9×年齢別



7. 日本に暮らす外国人の人権について

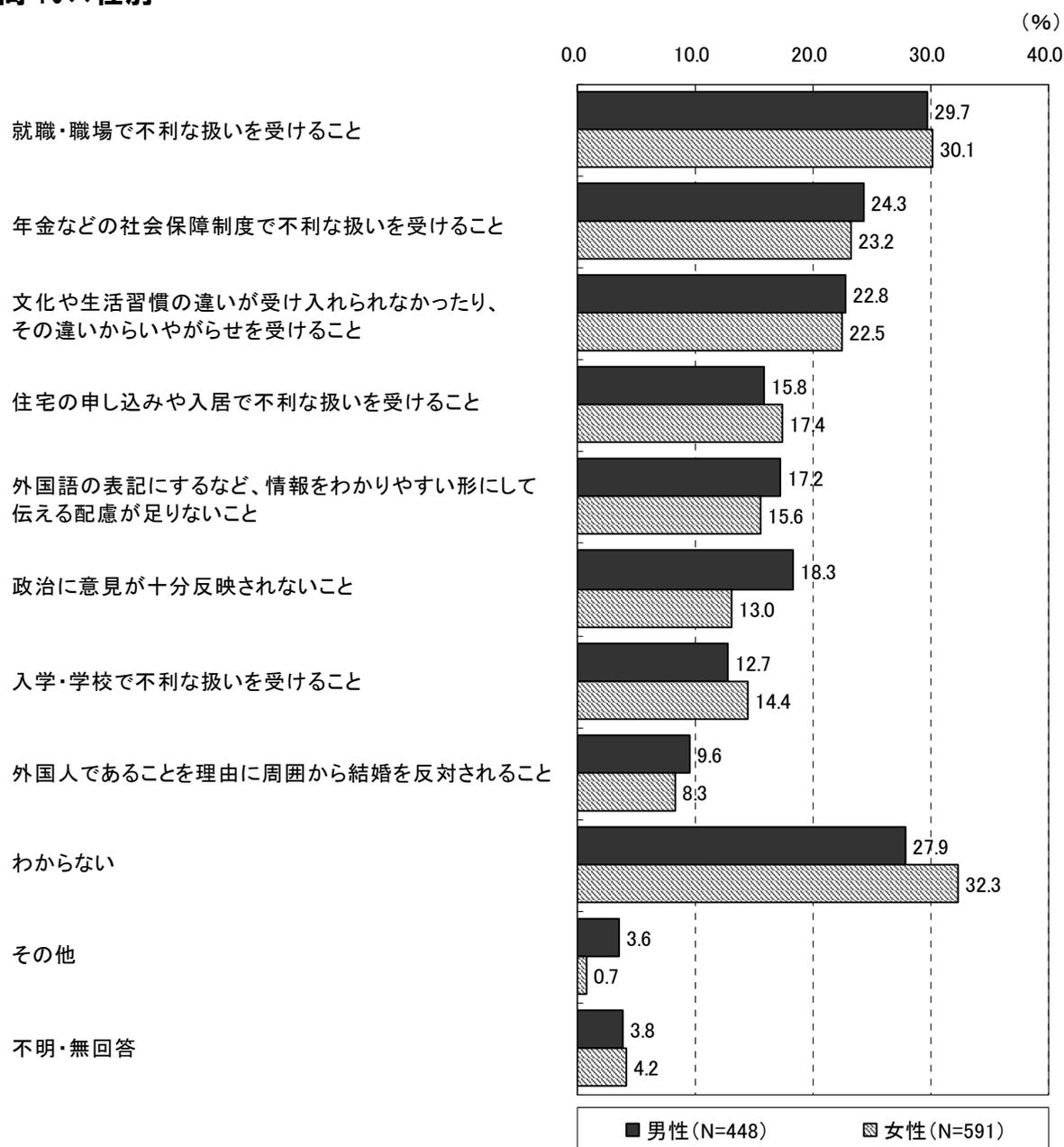
問 10 日本に居住している外国人に関することで、人権上、あなたが特に問題があると思うのはどのようなことですか。(MA)

日本に暮らす外国人の人権で問題のあることについて、「わからない」が 30.7%と最も高くなっています。次いで「就職・職場で不利な扱いを受けること」が 29.8%となっています。



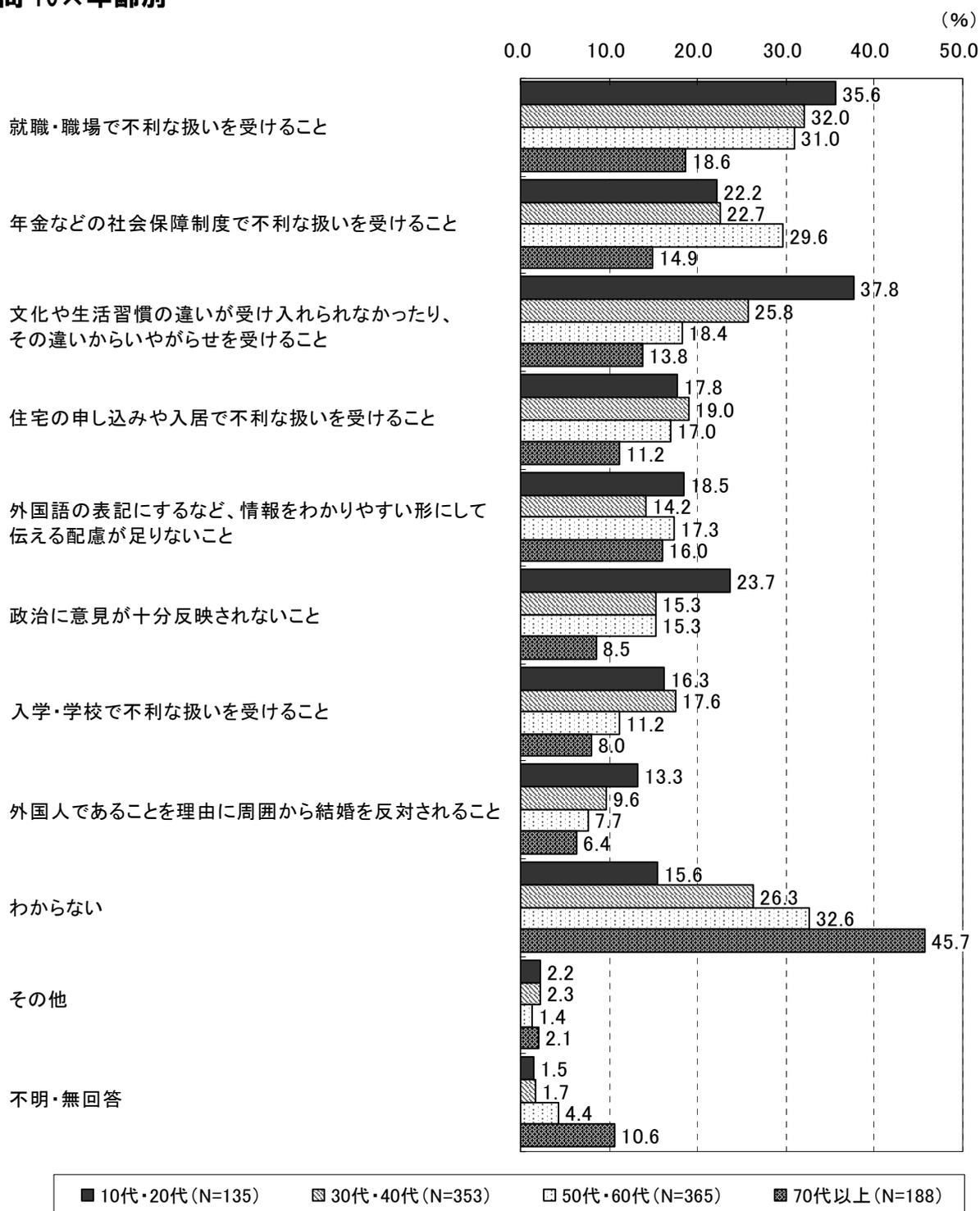
性別に見ると、男性では「就職・職場で不利な扱いを受けること」が最も高く、女性では「わからない」が最も高くなっています。

問 10×性別



年齢別に見ると、10代・20代では「文化や生活習慣の違いが受け入れられなかったり、その違いからいやがらせを受けること」、30代・40代では「就職・職場で不利な扱いを受けること」、50代・60代、70代以上では「わからない」が最も高くなっています。

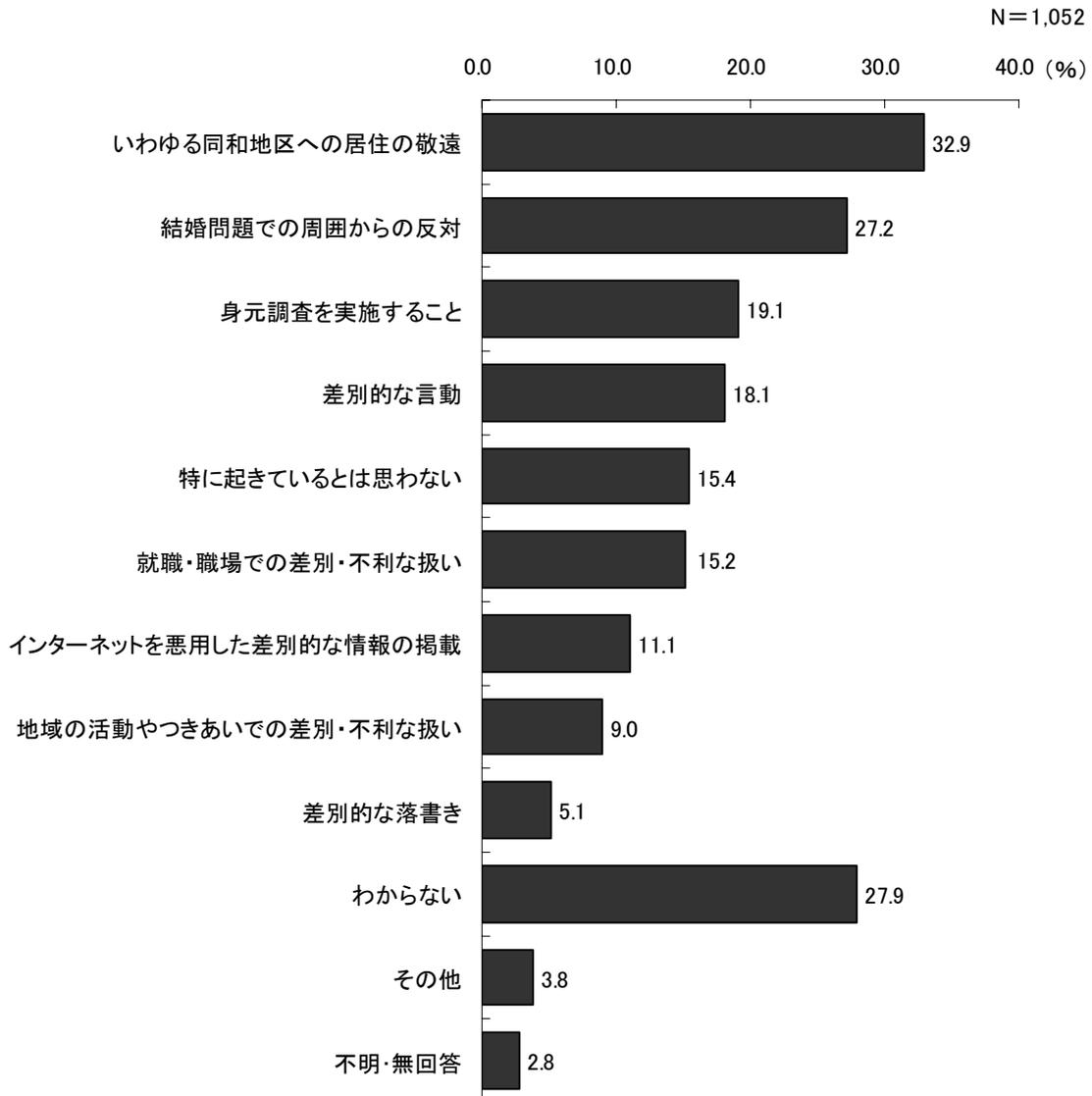
問 10×年齢別



8 . 同和問題について

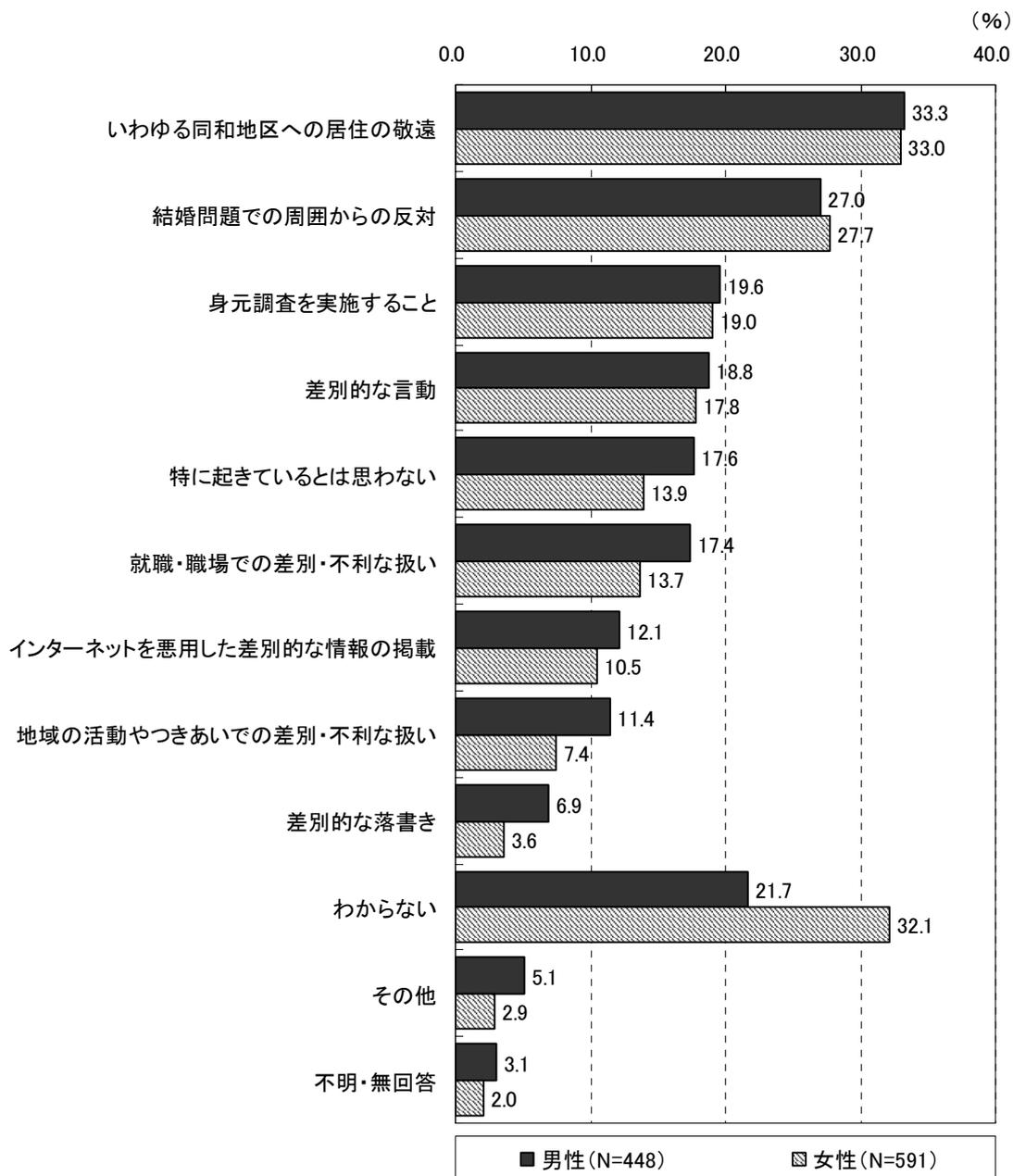
問 11 同和問題に関することで、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。(MA)

同和問題について、「いわゆる同和地区への居住の敬遠」が 32.9%と最も高くなっています。次いで「わからない」が 27.9%と、比較的高い割合となっています。



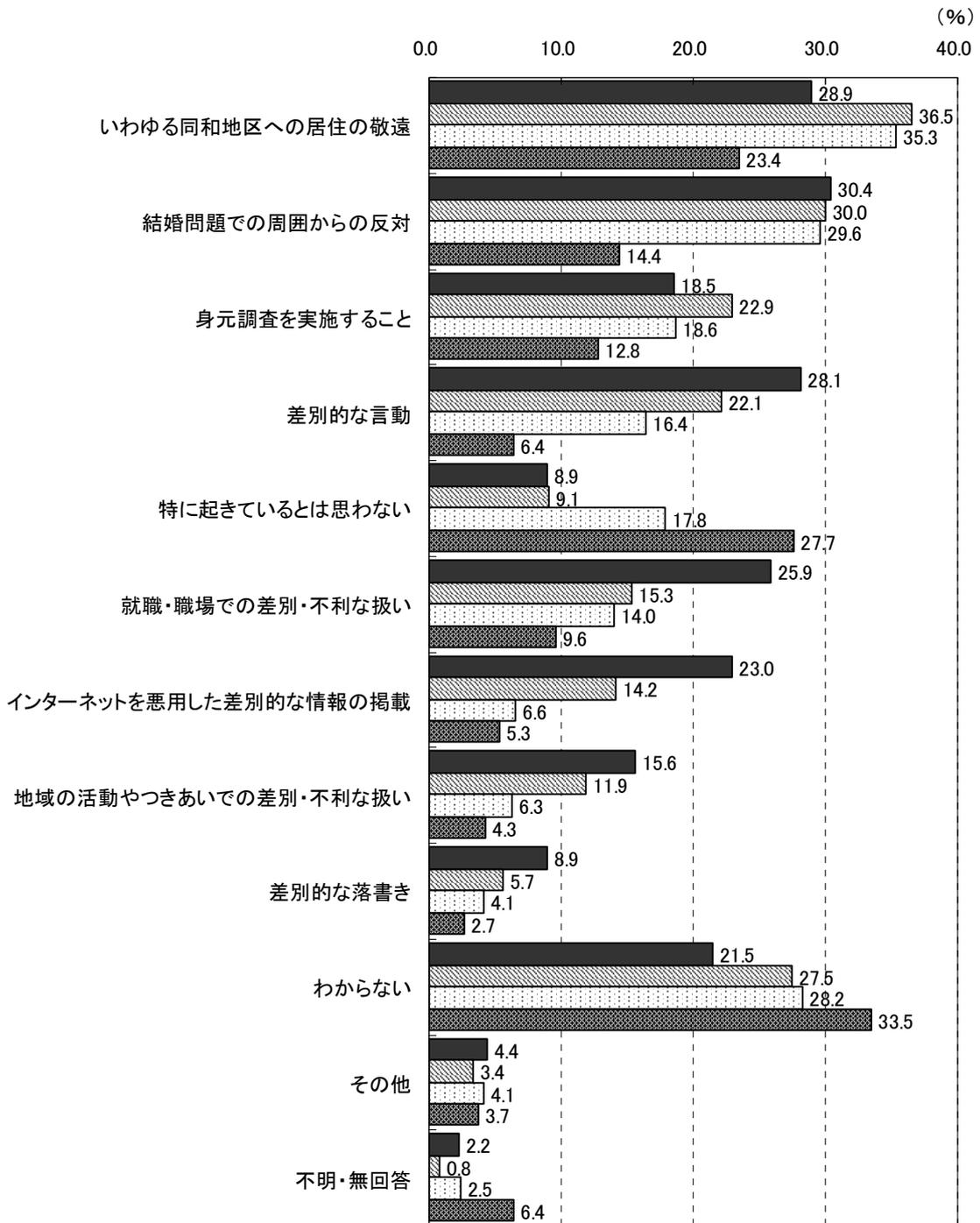
性別に見ると、男女とも「いわゆる同和地区への居住の敬遠」が最も高くなっています。

問 11×性別



年齢別に見ると、10代・20代では「結婚問題での周囲からの反対」、30代・40代、50代・60代では「いわゆる同和地区への居住の敬遠」、70代以上では「わからない」が最も高くなっています。

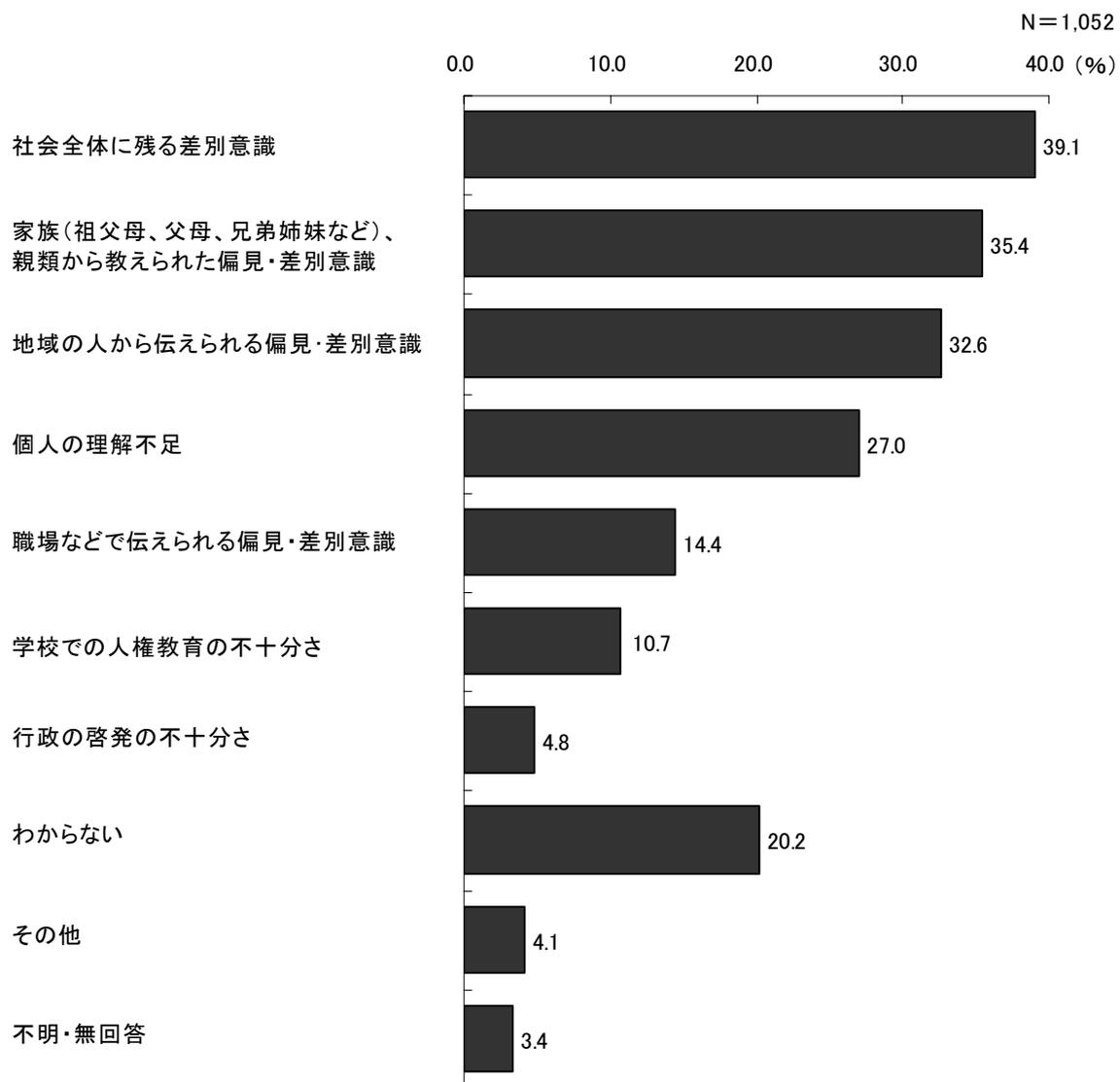
問 11×年齢別



■ 10代・20代 (N=135) ▨ 30代・40代 (N=353) □ 50代・60代 (N=365) ▩ 70代以上 (N=188)

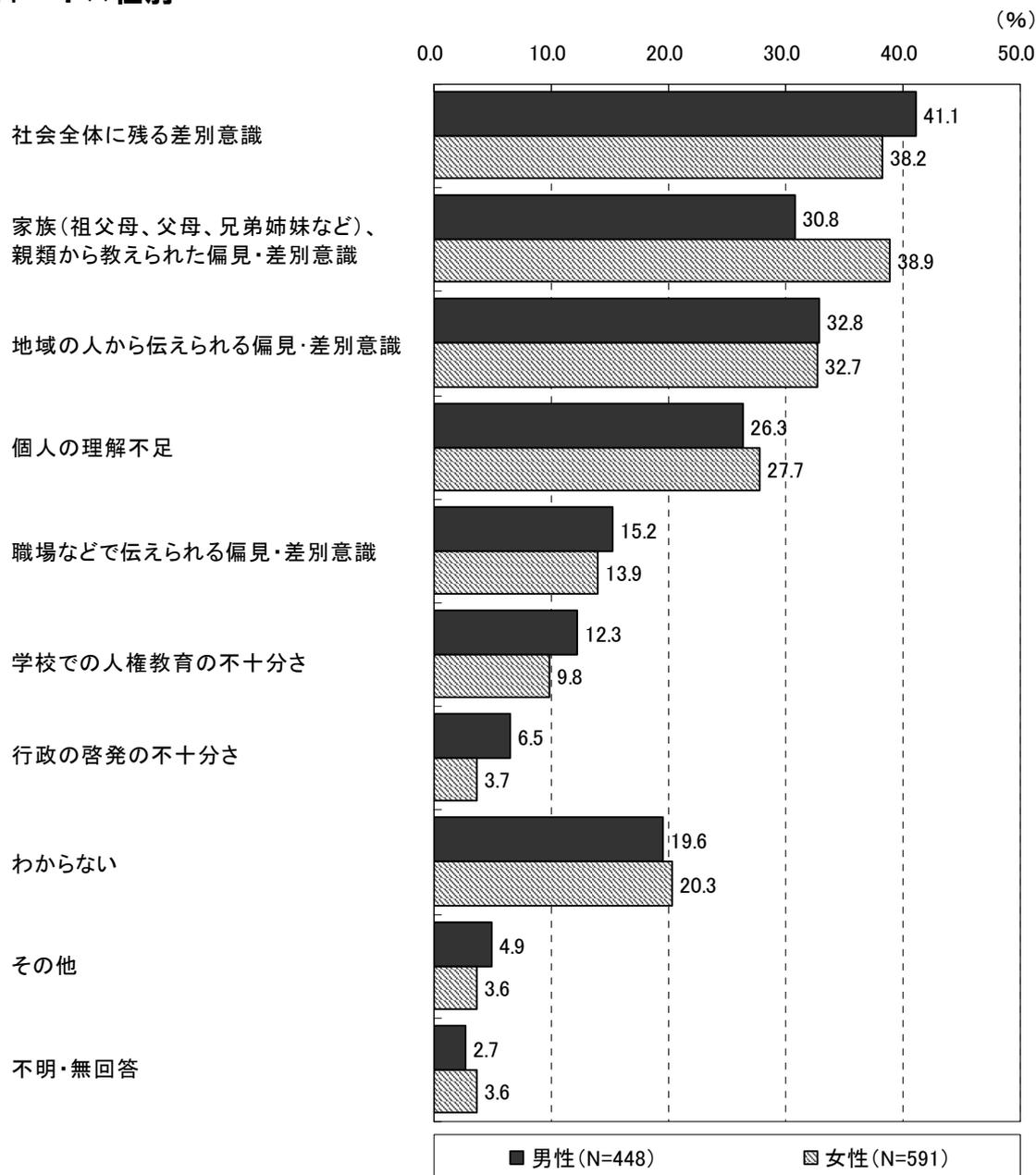
問 11-1 同和問題が生じる原因や背景として、特に思い当たるのはどれですか。(MA)

同和問題が生じる原因や背景について、「社会全体に残る差別意識」が 39.1%と最も高く、次いで「家族、親類から教えられた偏見・差別意識」が 35.4%となっています。



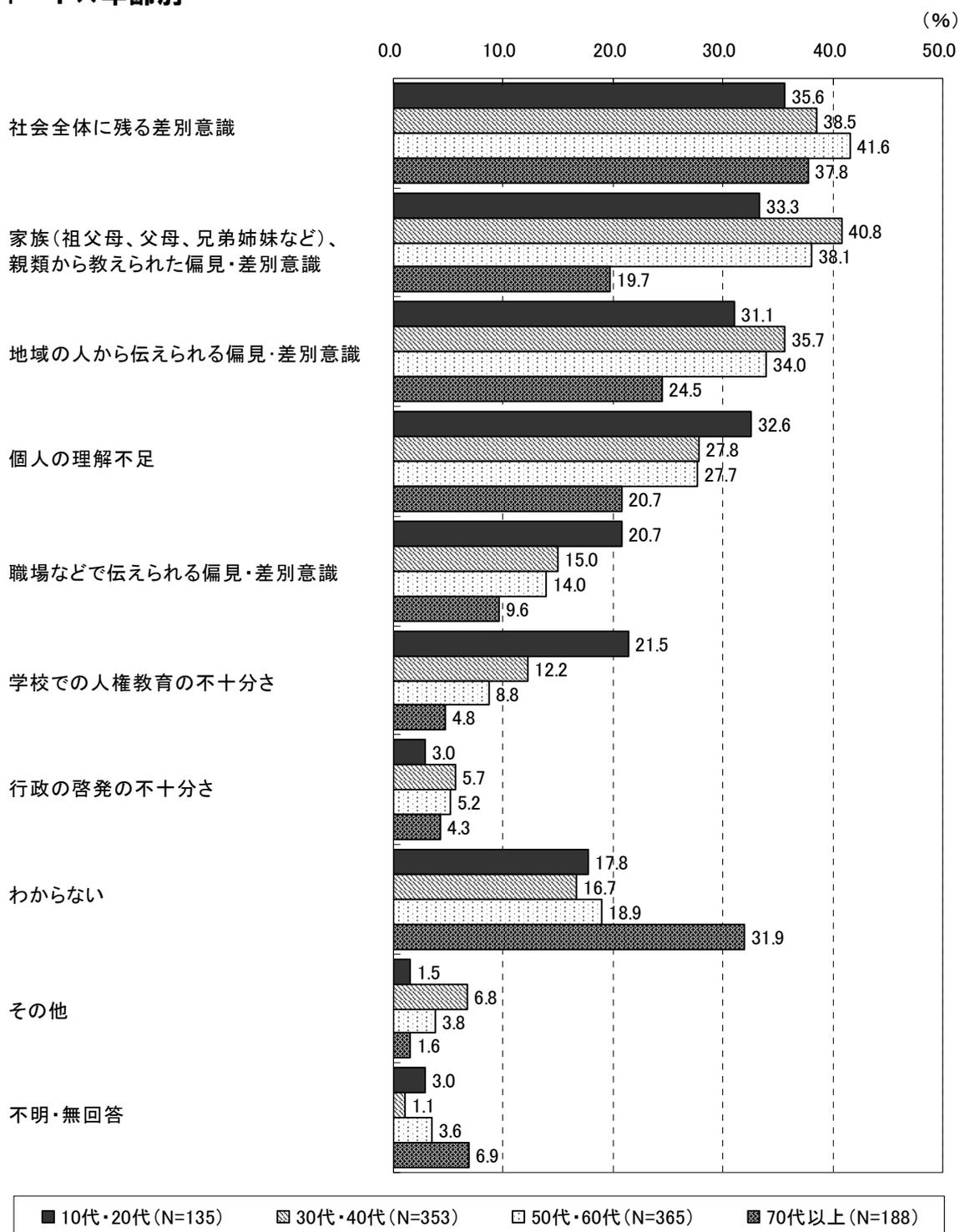
性別に見ると、男性では「社会全体に残る差別意識」が最も高く、女性では「家族、親類から教えられた偏見・差別意識」が最も高くなっています。

問 11-1 × 性別



年齢別に見ると、10代・20代、50代・60代、70代以上では「社会全体に残る差別意識」、30代・40代では「家族、親類から教えられた偏見・差別意識」が最も高くなっています。

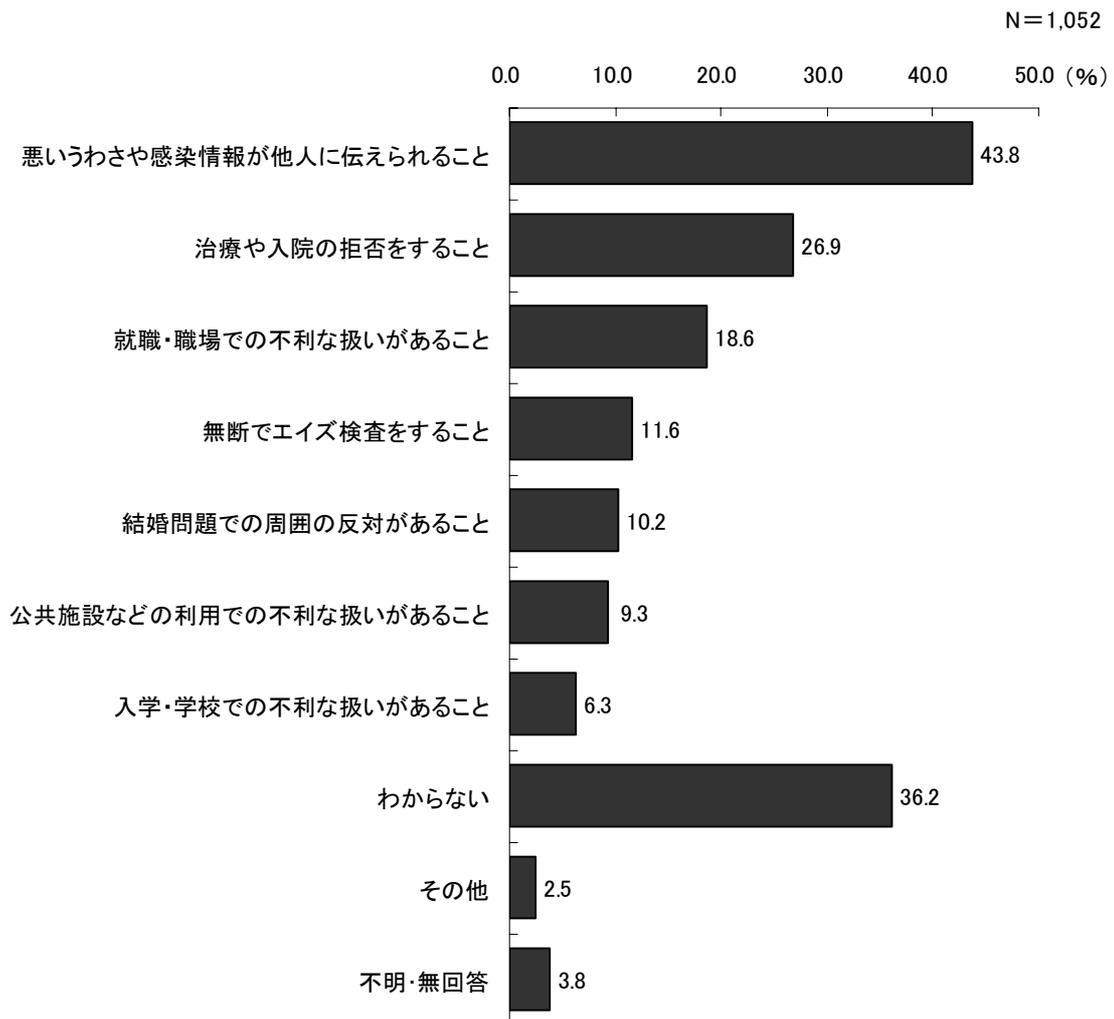
問 11-1 × 年齢別



9 . エイズ患者・HIV（エイズ・ウイルス）感染者の人権について

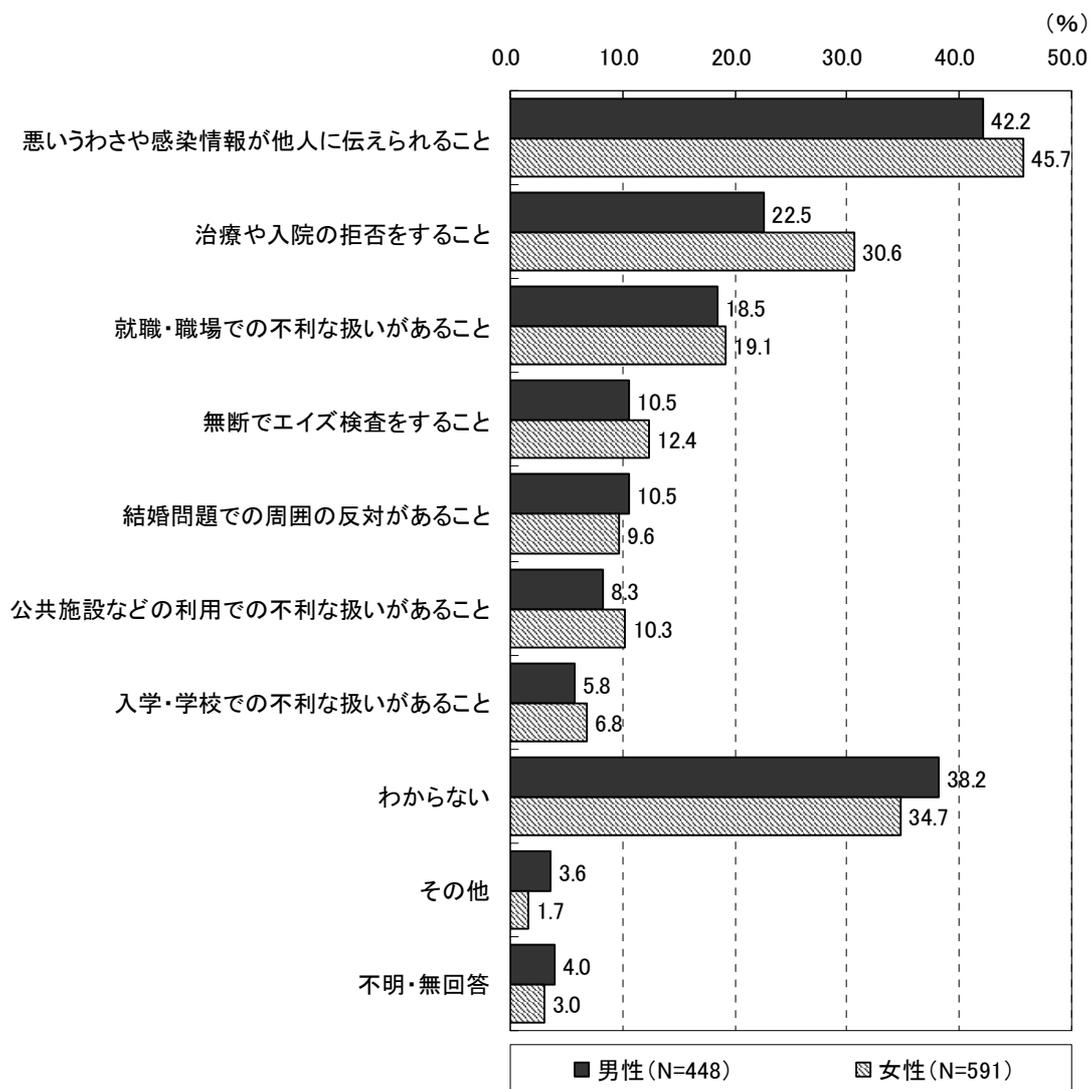
問 12 エイズ患者・HIV（エイズ・ウイルス）感染者の人権侵害について、あなたが特に問題があると思うのはどのようなことですか。（MA）

エイズ患者・HIV（エイズ・ウイルス）感染者の人権被害について、「悪いうわさや感染情報が他人に伝えられること」が43.8%と最も高くなっています。次いで「わからない」が36.2%と、比較的高い割合になっています。



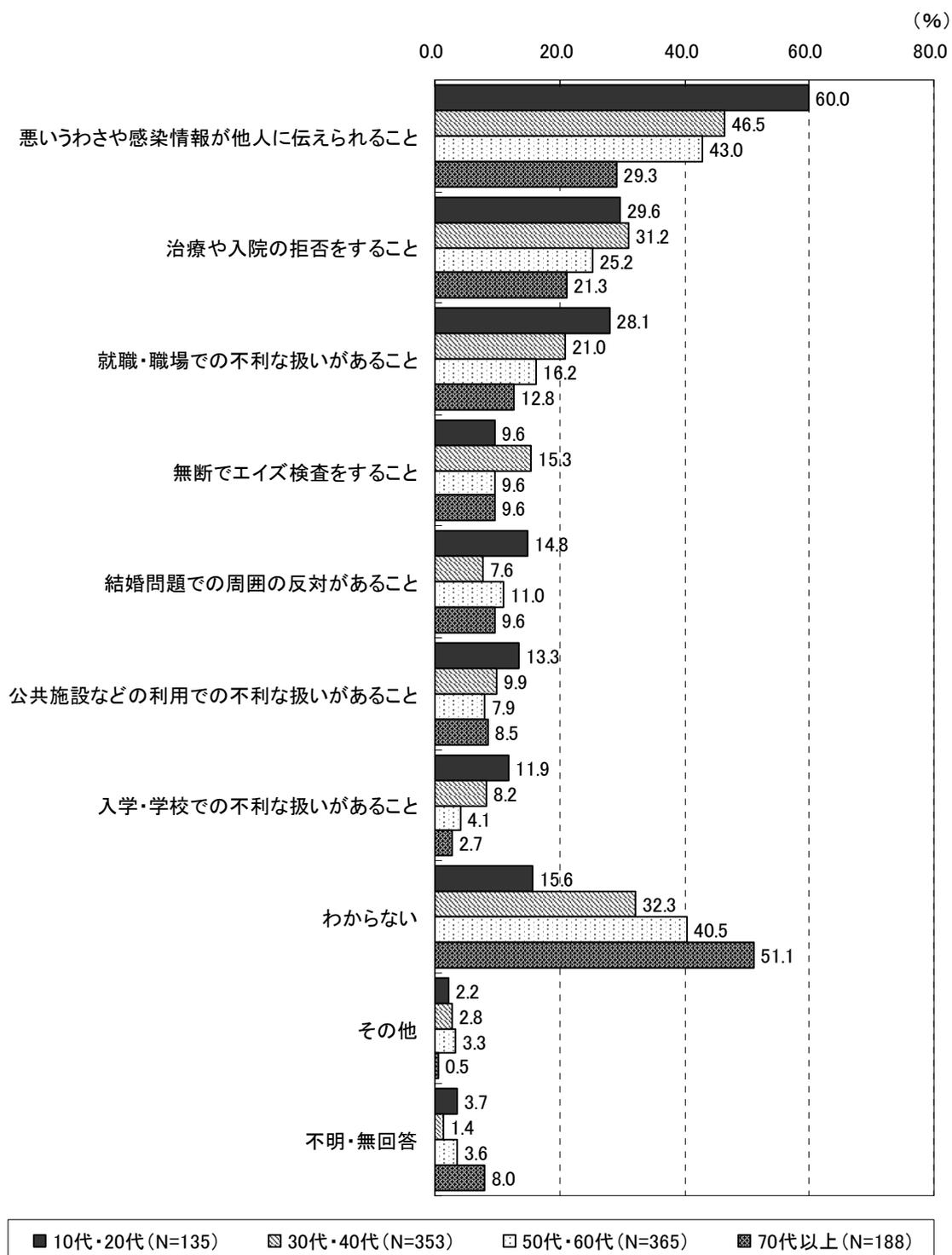
性別に見ると、男女とも「悪いうわさや感染情報が他人に伝えられること」が最も高くなっています。

問 12×性別



年齢別に見ると、10代・20代、30代・40代、50代・60代では「悪いうわさや感染情報が他人に伝えられること」が最も高く、70代以上では「わからない」が最も高くなっています。

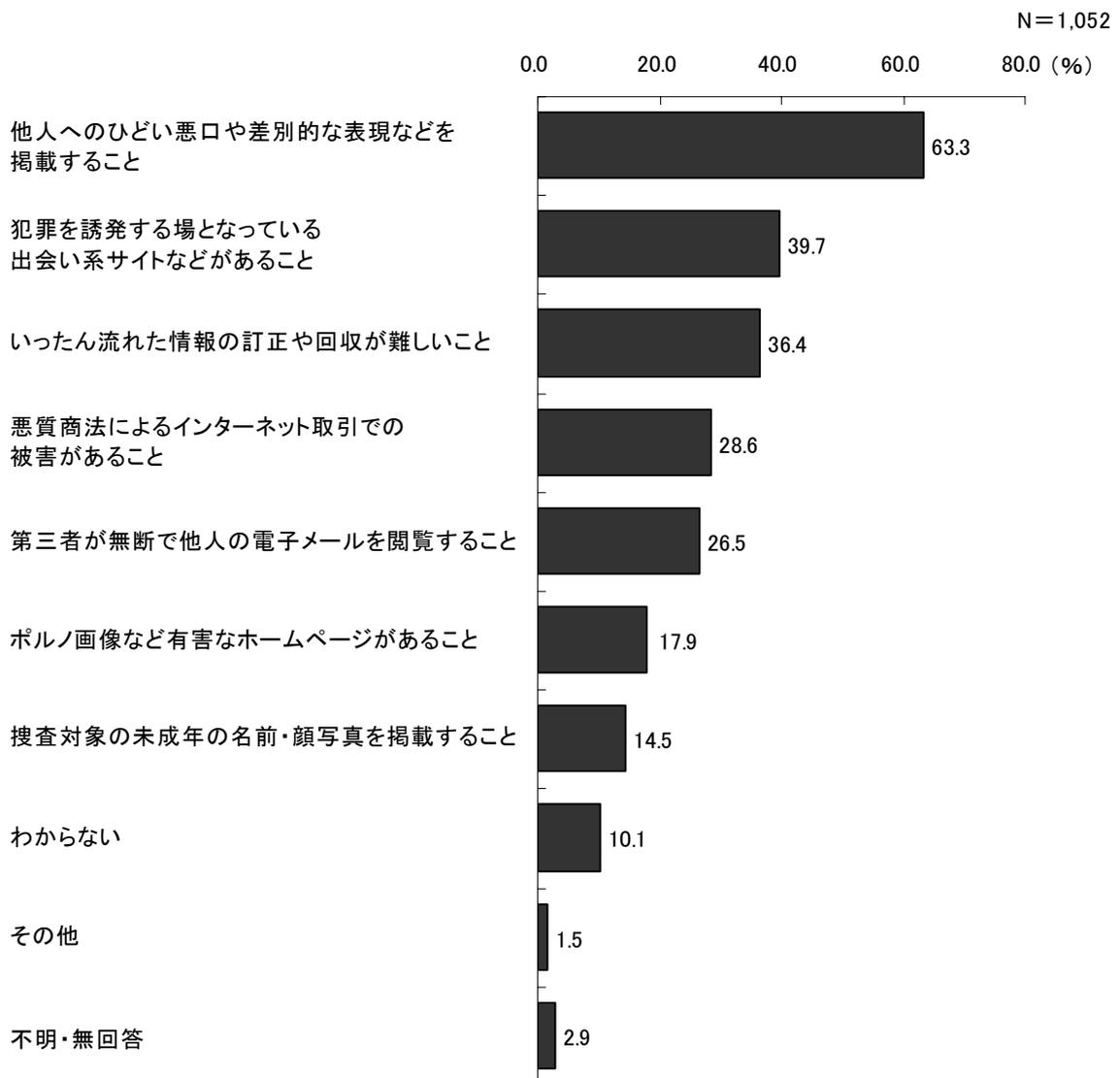
問 12×年齢別



10 . インターネットを悪用した人権侵害について

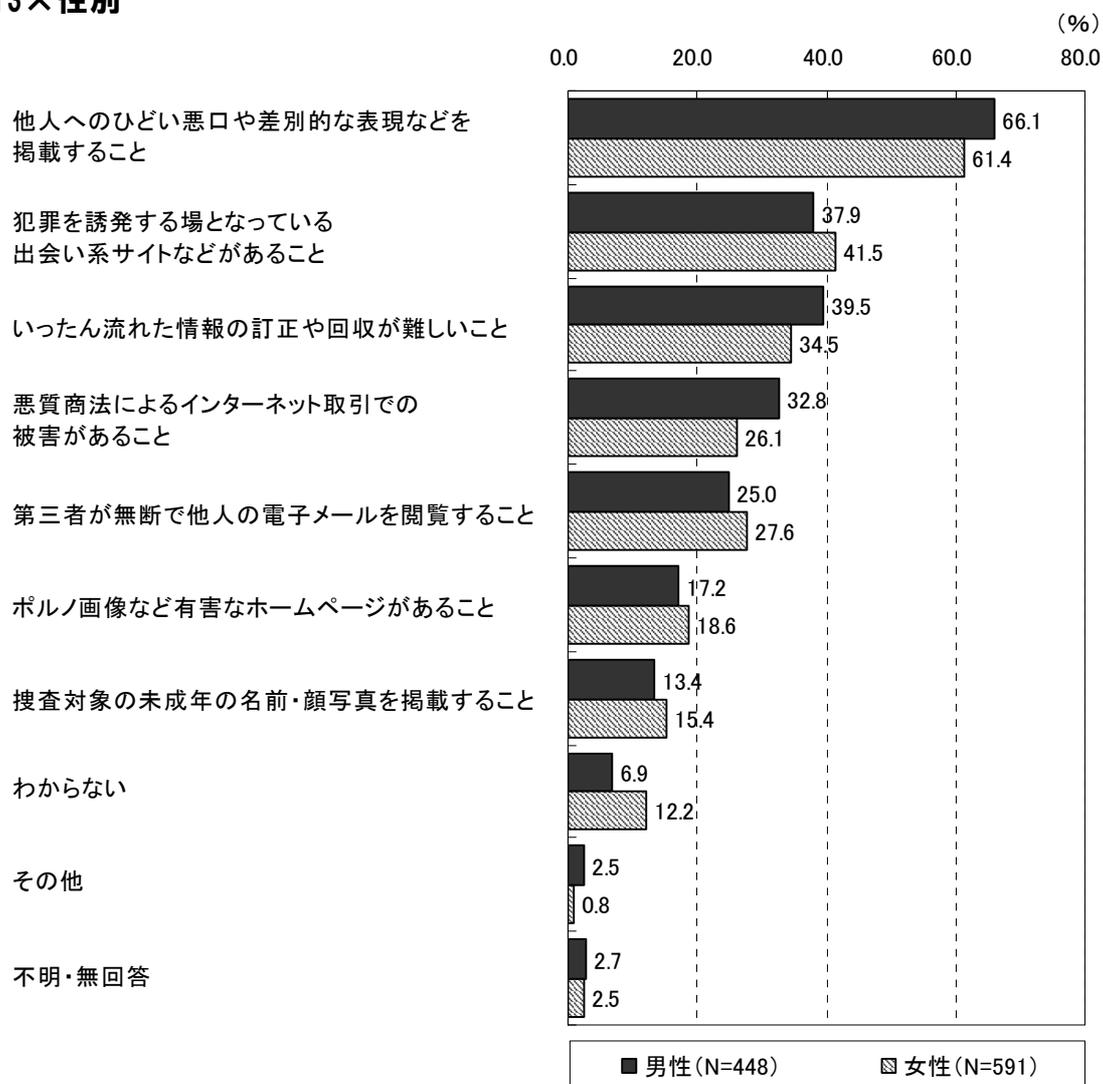
問 13 インターネットを悪用した人権侵害について、あなたが特に問題があると思うのはどのようなことですか。(MA)

インターネットを悪用した人権侵害について、「他人へのひどい悪口や差別的な表現などを掲載すること」が63.3%と最も高く、次いで「犯罪を誘発する場となっている出会い系サイトなどがあること」が39.7%となっています。



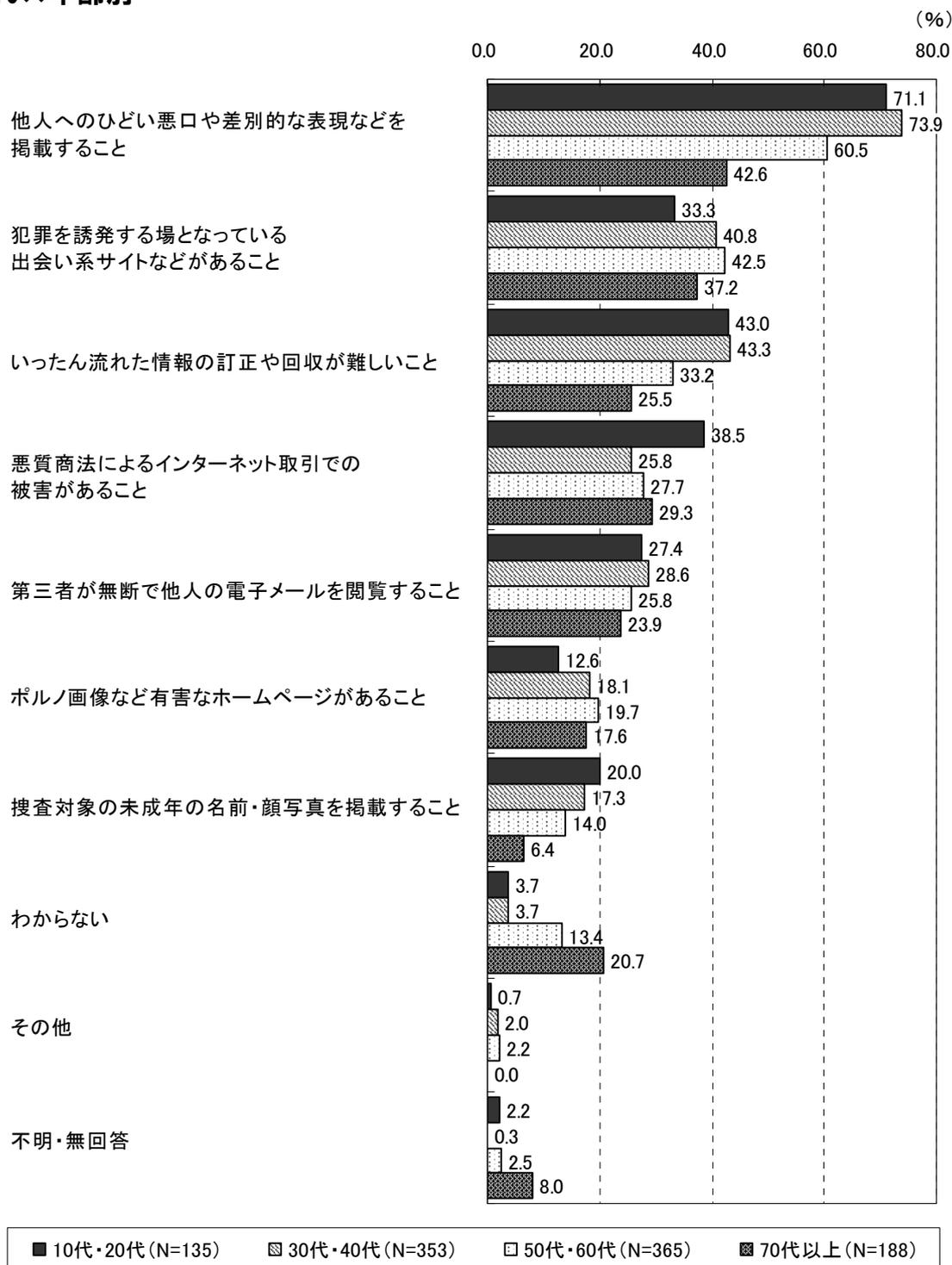
性別に見ると、男女とも「他人へのひどい悪口や差別的な表現などを掲載すること」が最も高くなっています。

問 13×性別



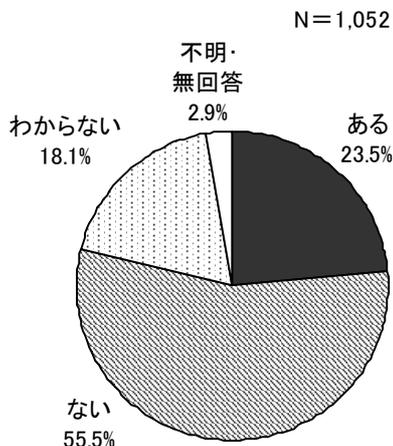
年齢別に見ると、すべての年代で「他人へのひどい悪口や差別的な表現などを掲載すること」が最も高くなっています。

問 13×年齢別



11. つきあい・結婚について

問 14 あなたご自身、外国人やいわゆる同和地区に住んでいる人とのつきあいはありますか。(SA)

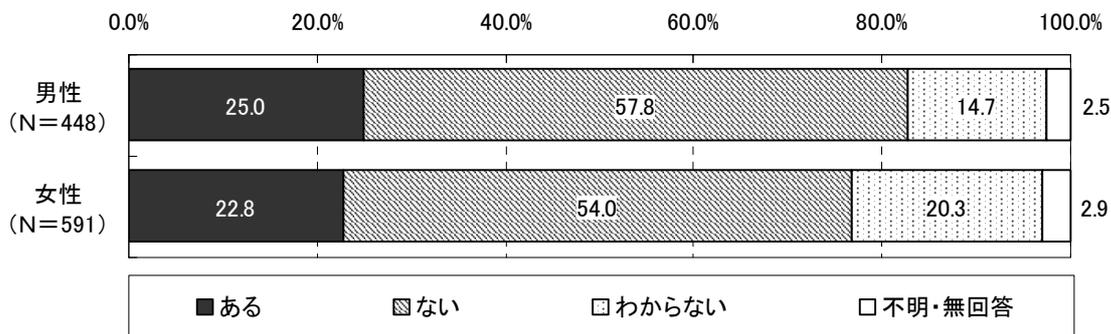


つきあい・結婚について、外国人やいわゆる同和地区に住んでいる人とのつきあいが「ある」が23.5%、「ない」が55.5%となっています。

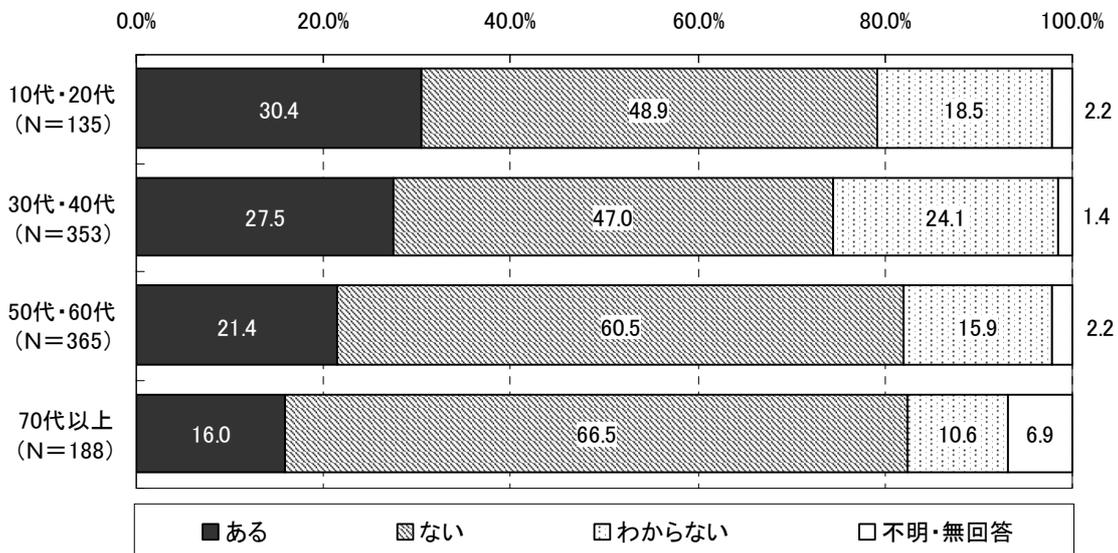
性別に見ると、「わからない」は女性の方が高くなっています。

年齢別に見ると、若い世代ほどつきあいが「ある」が多く、年齢が高くなるほど「ない」が多くなる傾向が見られます。

問 14×性別

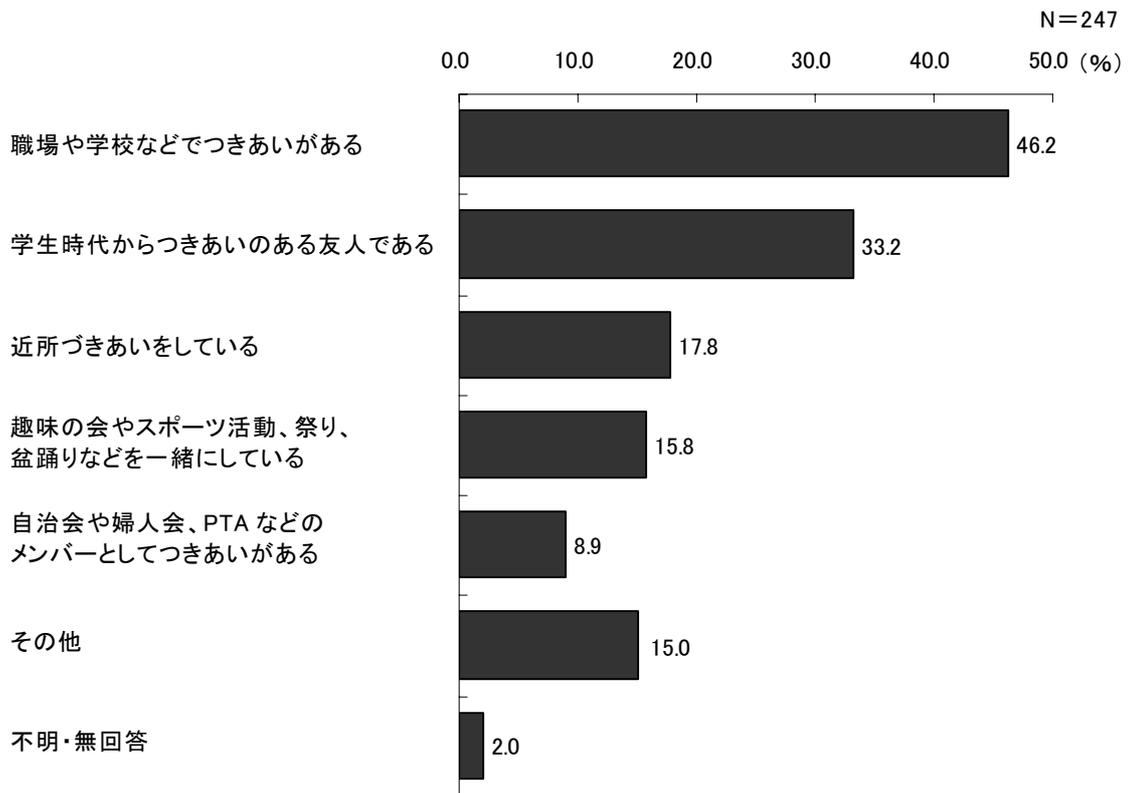


問 14×年齢別



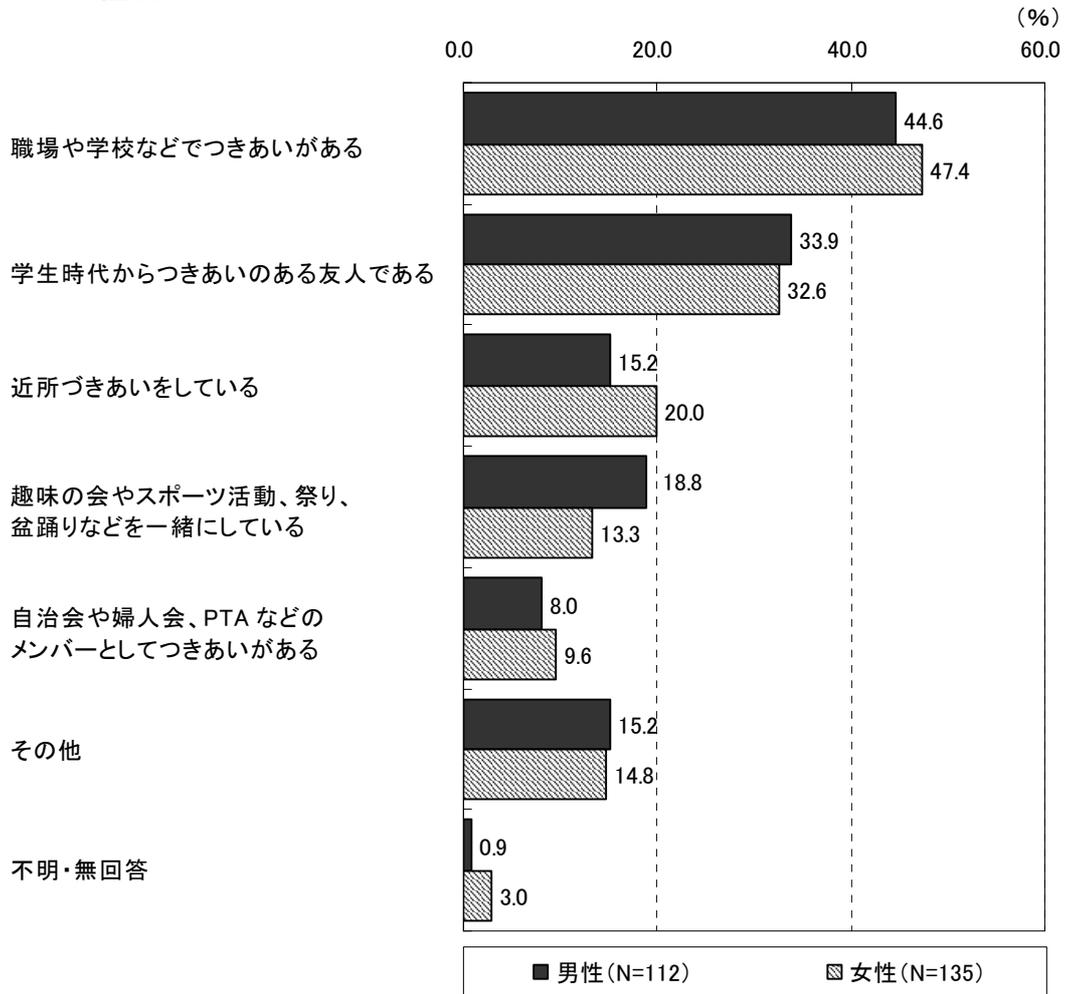
問 14-1 問 14 で「1 ある」を選ばれた方におうかがいします。その方とのつきあいは、どの程度ありますか。(MA)

どの程度のつきあいについて、「職場や学校などでつきあいがある」が 46.2%と最も高くなっています。



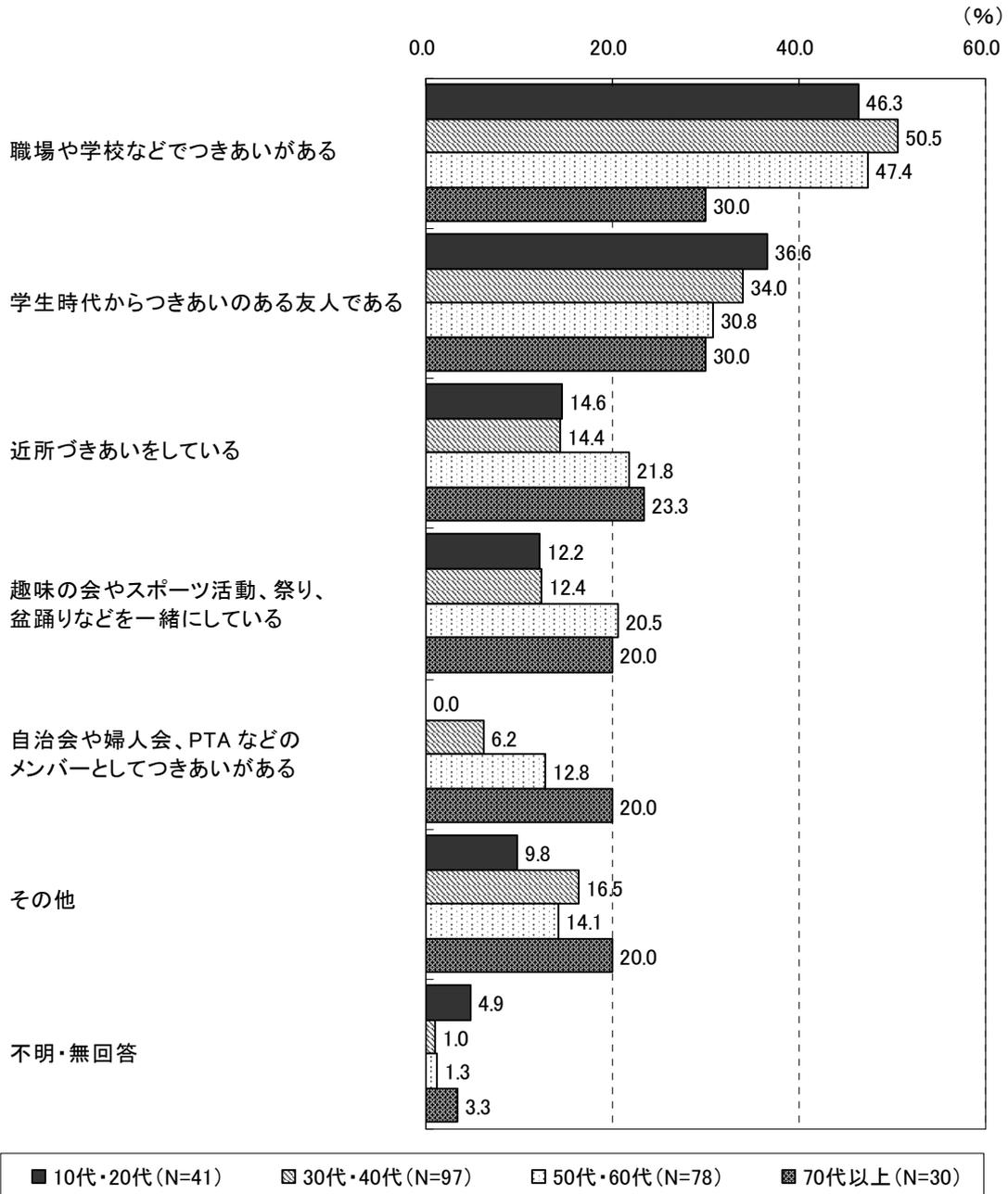
性別に見ると、男女とも「職場や学校などでつきあいがある」が最も高くなっています。

問 14-1 × 性別



年齢別に見ると、10代・20代、30代・40代、50代・60代では「職場や学校などでつきあいがある」が最も高く、70代以上では「職場や学校などでつきあいがある」と「学生時代からつきあいのある友人である」が高くなっています。

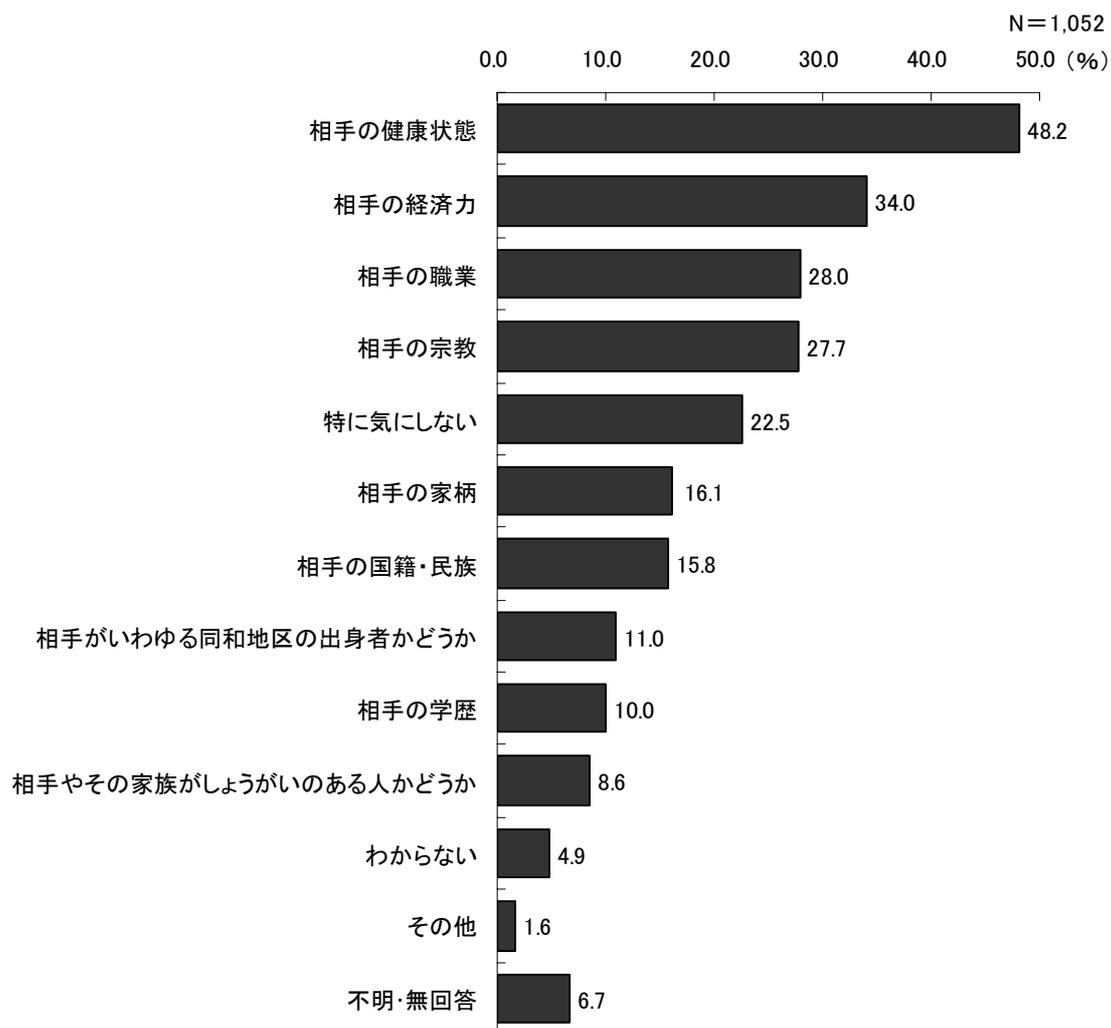
問 14-1 × 年齢別



問 15 結婚についてお聞きします。①、②それぞれにお答えください

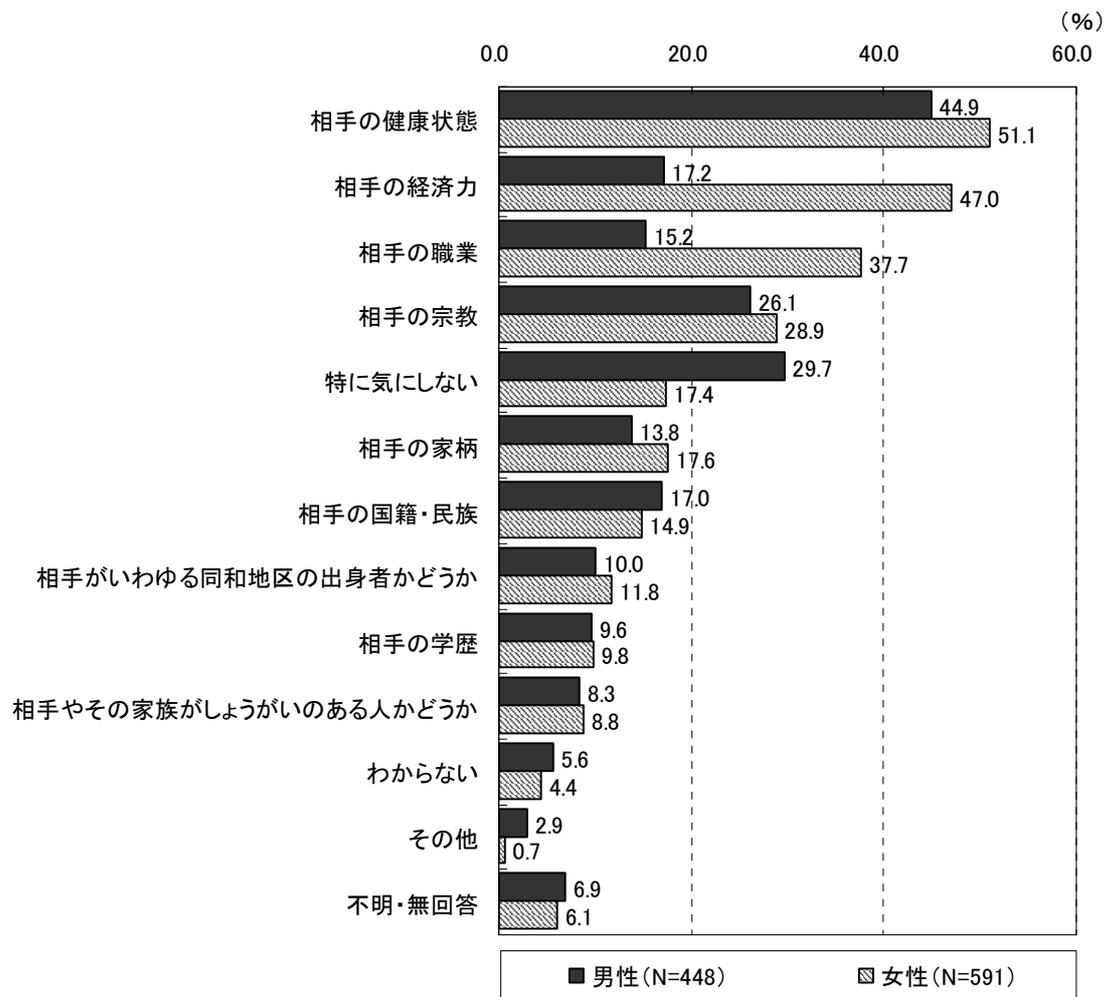
① あなたの結婚相手を考える際、相手の人柄や性格以外で、気になること（気になったこと）は次のどれですか。（MA）

自分自身の結婚相手の気になることについて、「相手の健康状態」が 48.2%と最も高く、次いで「相手の経済力」が 34.0%となっています。



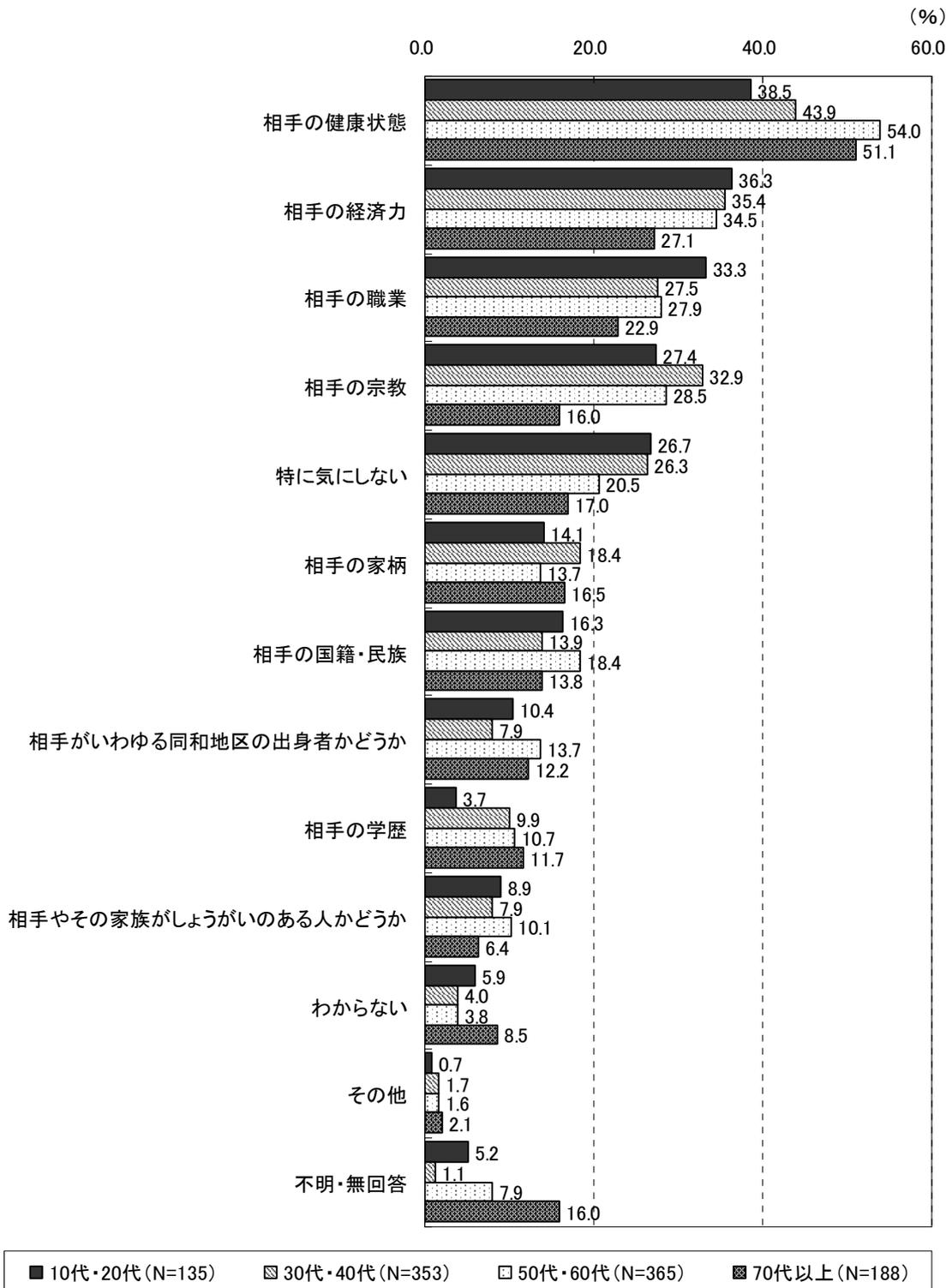
性別に見ると、男女とも「相手の健康状態」が最も高くなっています。

問 15①×性別



年齢別に見ると、すべての年代で「相手の健康状態」が最も高くなっています。

問 15①×年齢別



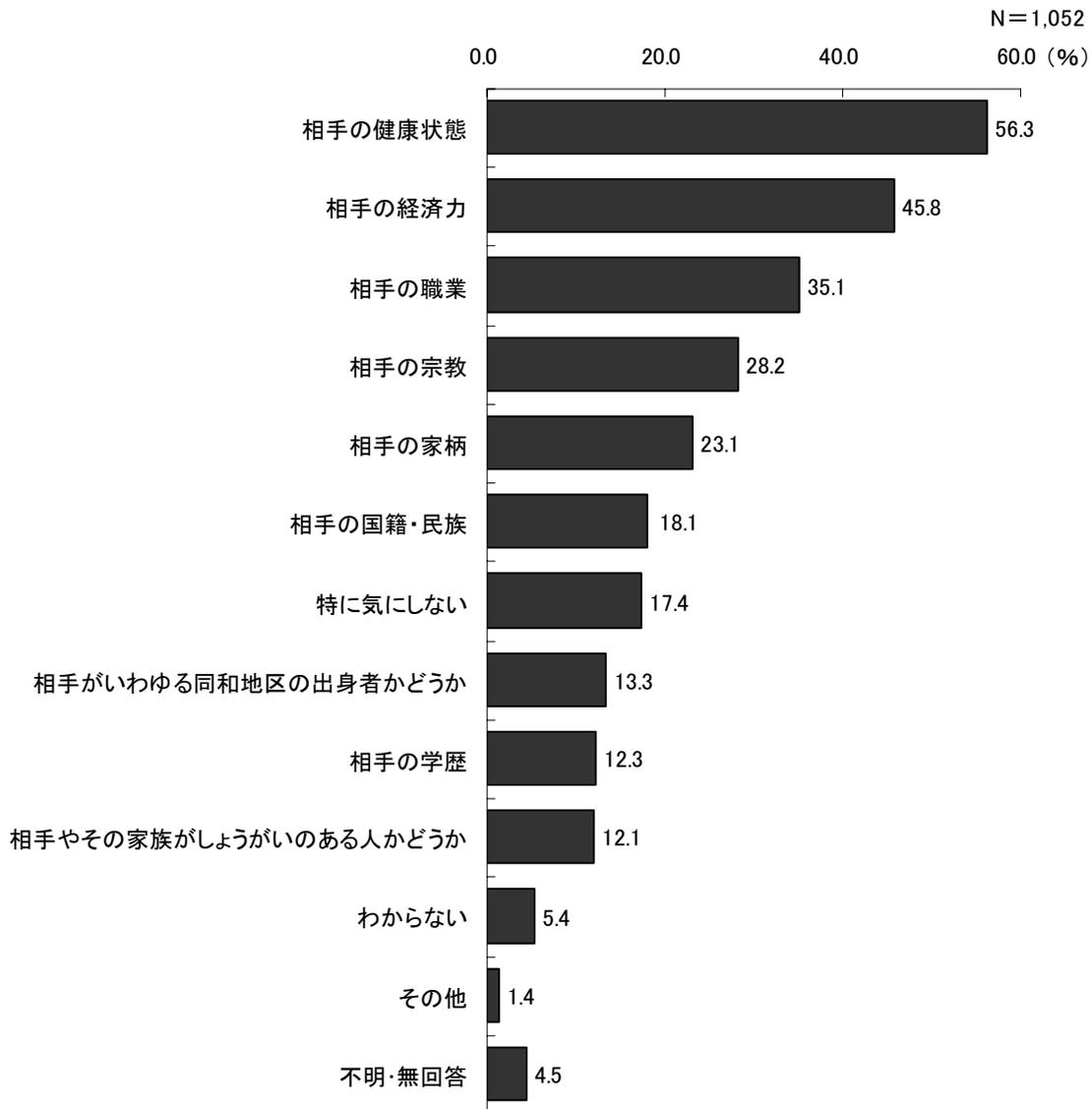
結婚相手を考える際、気になることについて、外国人や同和地区に住んでいる人とのつきあいの有無別に見ると、「相手の国籍・民族」「相手がいわゆる同和地区の出身かどうか」の割合は、つきあいのある人の方が低くなっています。

問 15①×問 14（外国人やいわゆる同和地区に住んでいる人とのつきあいの有無別） =49 頁参照

上段:度数 下段:%	合計	相手の健康状態	相手の経済力	相手の職業	相手の宗教	特に気にしない	相手の家柄
合計	1052 100	507 48.2	358 34.0	295 28.0	291 27.7	237 22.5	169 16.1
ある	247 100	110 44.5	83 33.6	57 23.1	70 28.3	64 25.9	30 12.1
ない	585 100	296 50.6	193 33.0	180 30.8	164 28.0	122 20.9	110 18.8
わからない	190 100	93 48.9	76 40.0	57 30.0	56 29.5	48 25.3	26 13.7
上段:度数 下段:%	相手の国籍・民族	相手がいわゆる同和地区の出身者かどうか	相手の学歴	相手やその家族がしょうがいのある人かどうか	わからない	その他	不明・無回答
合計	166 15.8	116 11.0	105 10.0	90 8.6	52 4.9	17 1.6	71 6.7
ある	26 10.5	23 9.3	18 7.3	18 7.3	7 2.8	6 2.4	20 8.1
ない	125 21.4	83 14.2	68 11.6	65 11.1	32 5.5	8 1.4	31 5.3
わからない	14 7.4	10 5.3	15 7.9	7 3.7	12 6.3	3 1.6	3 1.6

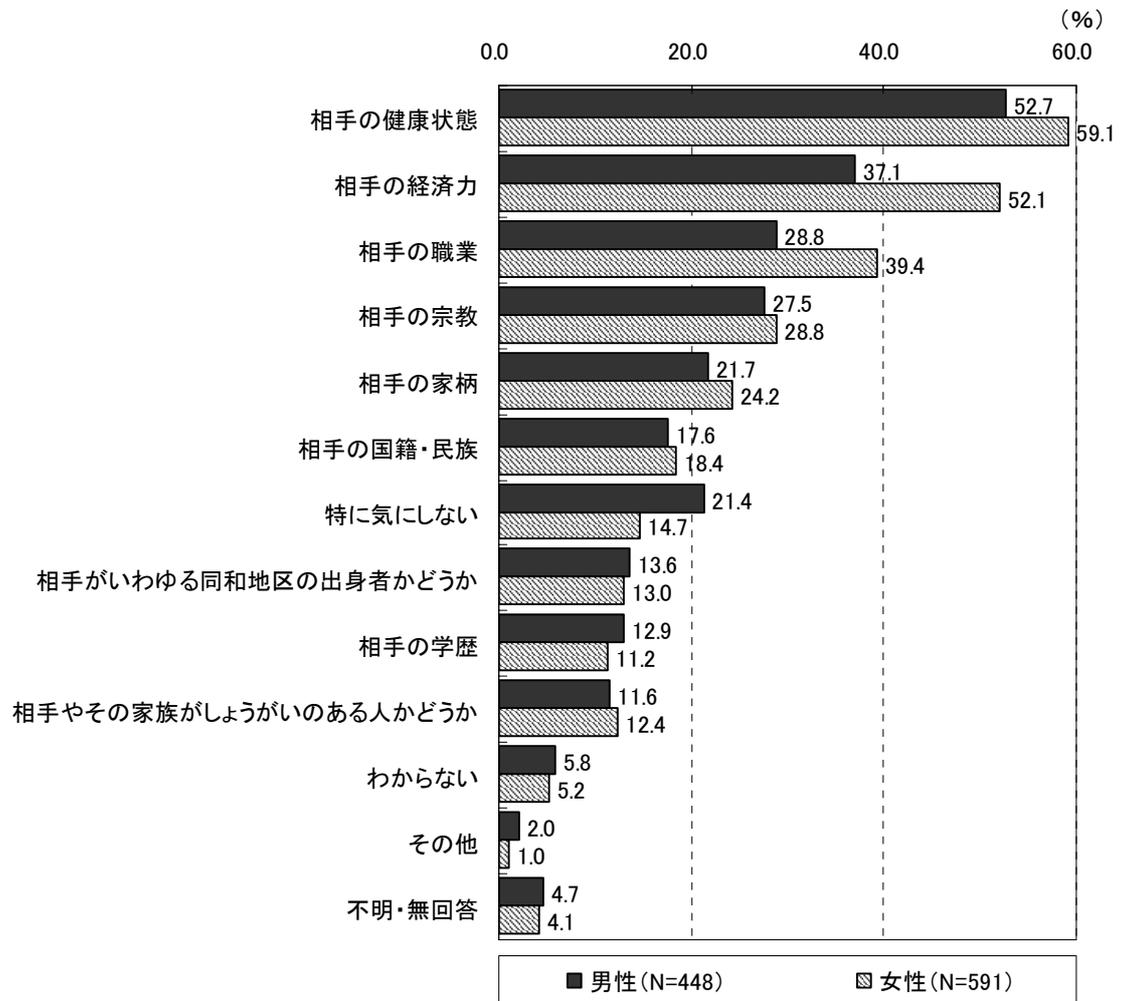
② あなたにお子さんがいらっしゃるとして、子どもの結婚相手を考える際、相手の人柄や性格以外で、気になること（気になったこと）は次のどれですか。（MA）

子どもの結婚相手で気になることについて、「相手の健康状態」が56.3%と最も高く、次いで「相手の経済力」が45.8%となっています。



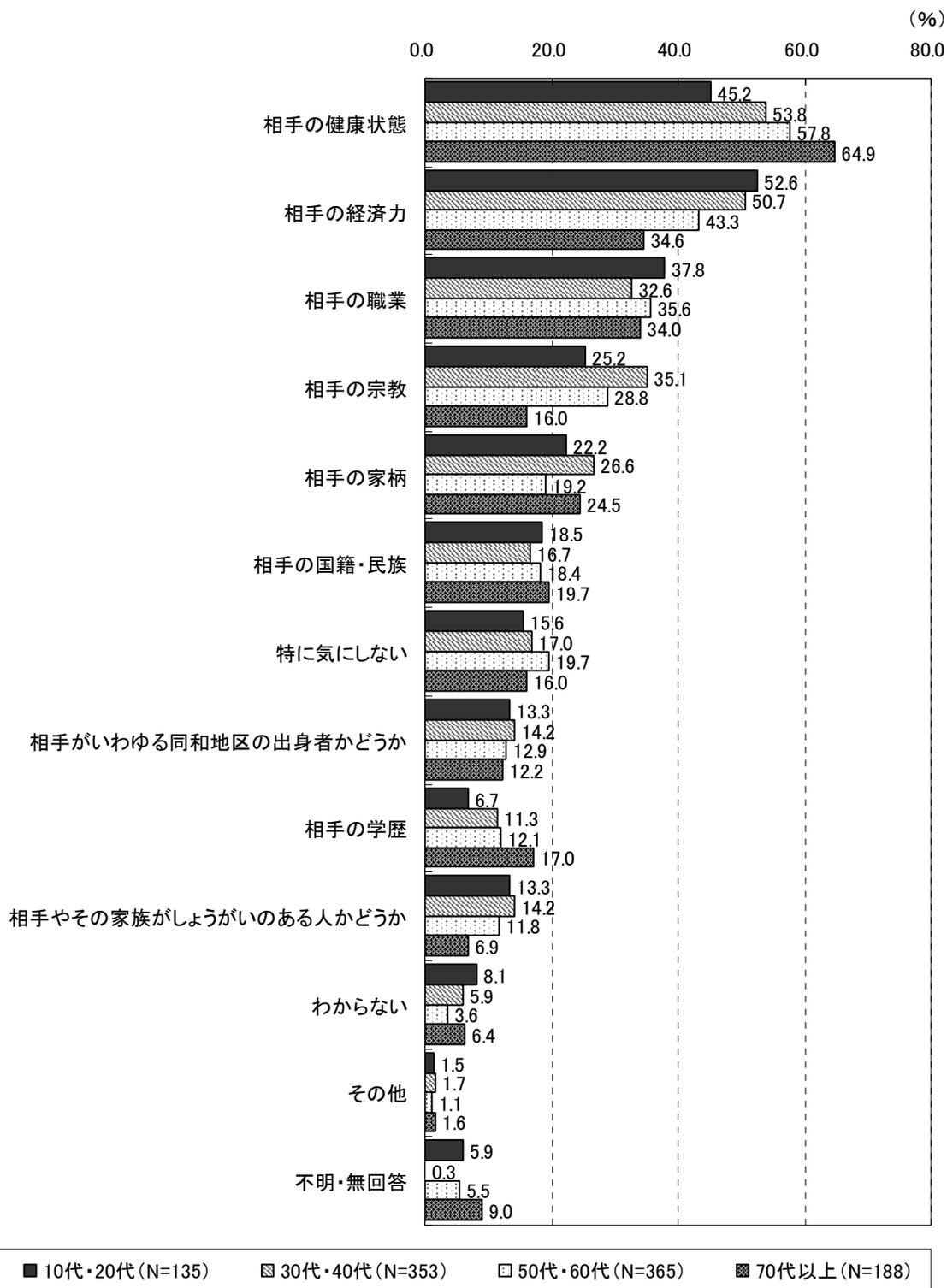
性別に見ると、男女とも「相手の健康状態」が最も高くなっています。

問 15②×性別



年齢別に見ると、10代・20代では「相手の経済力」、その他の年代では「相手の健康状態」が最も高くなっています。

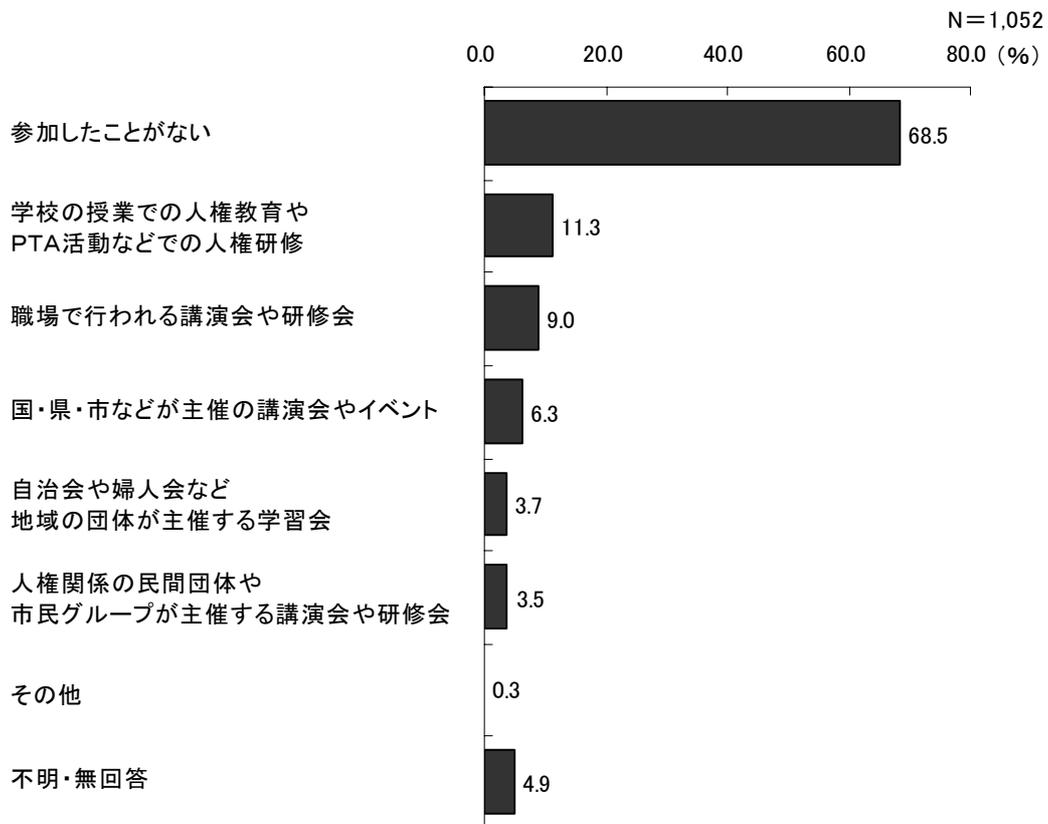
問 15②×年齢別



12 . 人権に関する講演会、イベントなどへの参加について

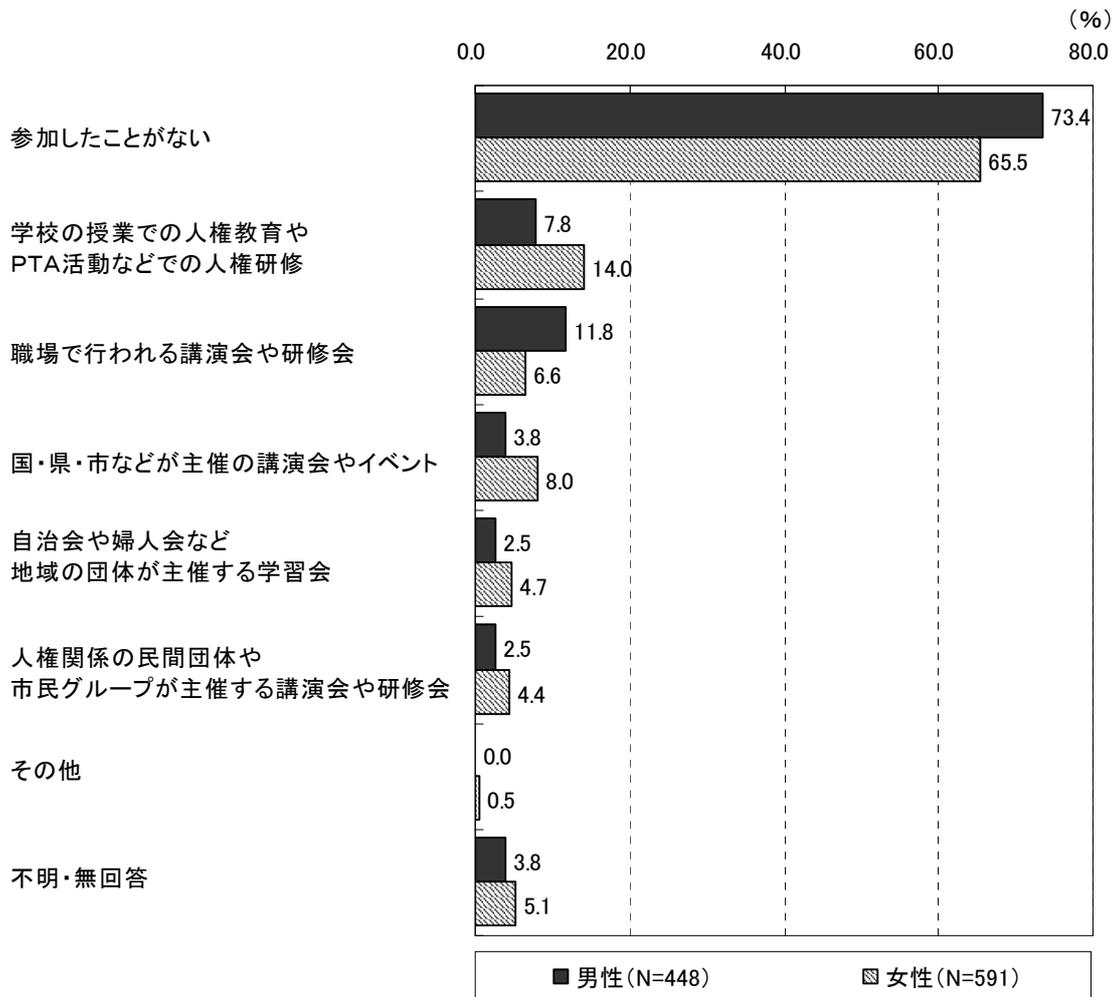
問 16 人権問題に関する授業や研修・講演会、イベントなどについて、あなたがこの5～6年の間に参加したことがあるものは次のうちどれですか。(MA)

人権問題に関する研修・講演会等への参加について、「参加したことがない」が68.5%と最も高く、次いで「学校の授業での人権教育やPTA活動などでの人権研修」が11.3%となっています。



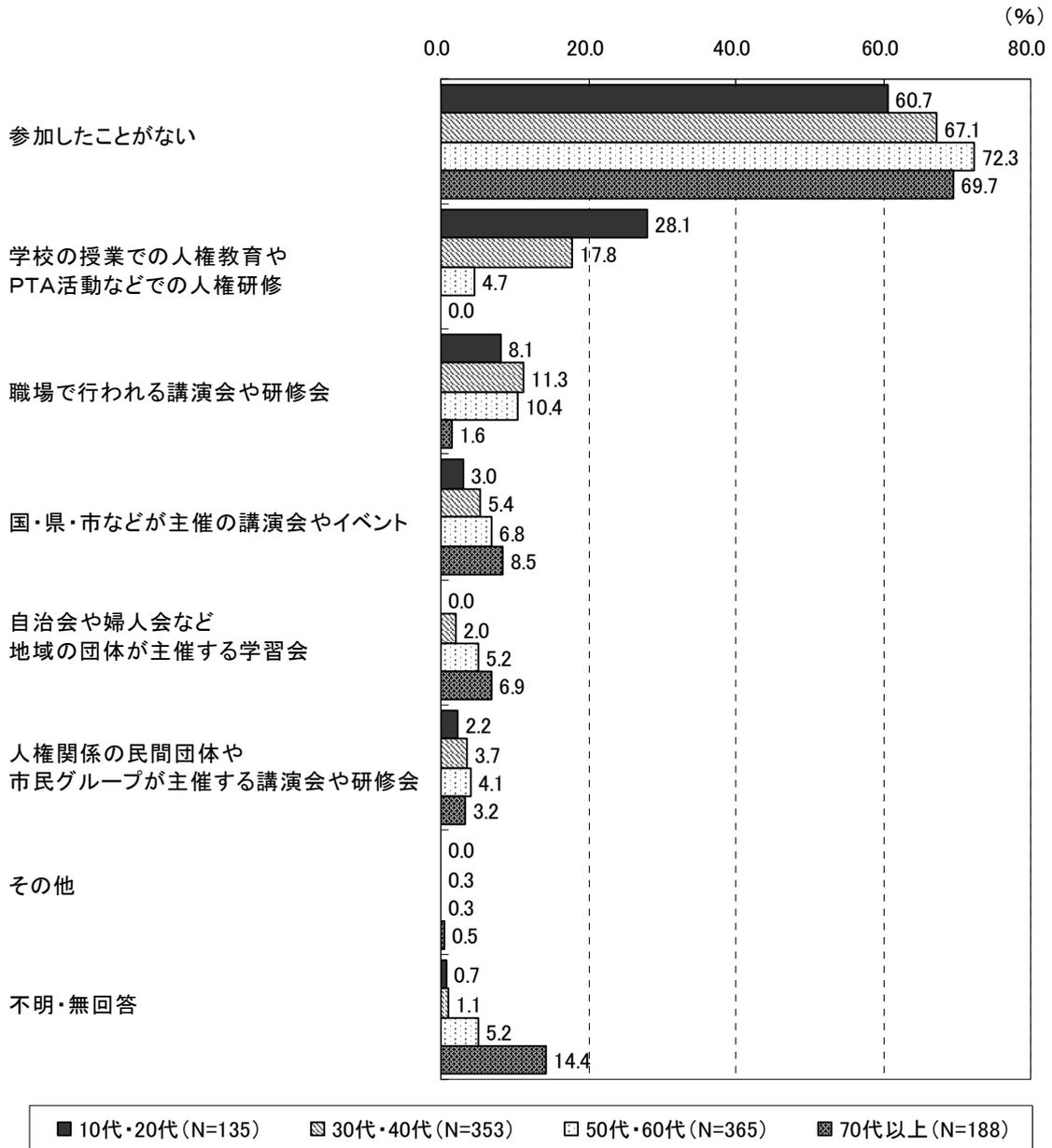
性別に見ると、男女とも「参加したことがない」が最も高くなっています。

問 16×性別



年齢別に見ると、すべての年代で「参加したことがない」が最も高くなっています。

問 16×年齢別

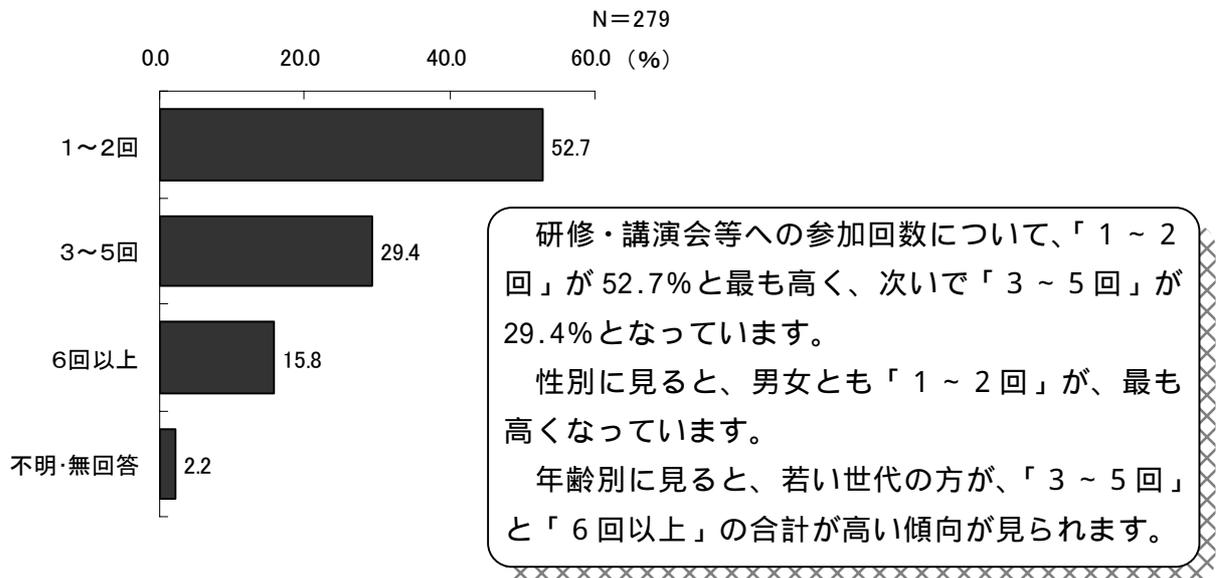


人権を身近に感じている度合別に見ると、『身近に感じる』人の方が「参加したことがない」の割合が低くなっています。

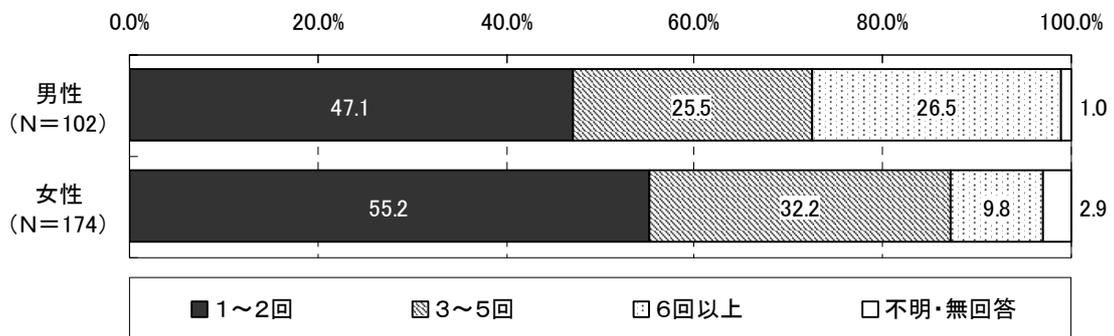
問 16×問 1（人権を身近に感じている度合別）＝5 頁参照

上段:度数 下段:%	合計	参加した ことがない	学校の授業 での人権教育 やPTA活動 などでの 人権研修	職場で 行われる 講演会や 研修会	国・県・市 などが主催の 講演会や イベント	自治会や 婦人会など 地域の団体が 主催する 学習会	人権関係の 民間団体や 市民グループ が主催する 講演会や 研修会	その他	不明・無回答
合計	1052 100	721 68.5	119 11.3	95 9.0	66 6.3	39 3.7	37 3.5	3 0.3	52 4.9
非常に身近 に感じる	106 100	66 62.3	12 11.3	8 7.5	12 11.3	10 9.4	13 12.3	0 0.0	5 4.7
かなり身近 に感じる	270 100	159 58.9	35 13.0	39 14.4	23 8.5	15 5.6	11 4.1	2 0.7	14 5.2
どちらとも 言えない	290 100	213 73.4	36 12.4	23 7.9	11 3.8	7 2.4	6 2.1	0 0.0	10 3.4
あまり身近 に感じない	282 100	208 73.8	28 9.9	19 6.7	13 4.6	7 2.5	6 2.1	1 0.4	10 3.5
まったく 身近に 感じない	36 100	27 75.0	4 11.1	3 8.3	2 5.6	0 0.0	1 2.8	0 0.0	2 5.6
わからない	48 100	37 77.1	2 4.2	0 0.0	3 6.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	6 12.5

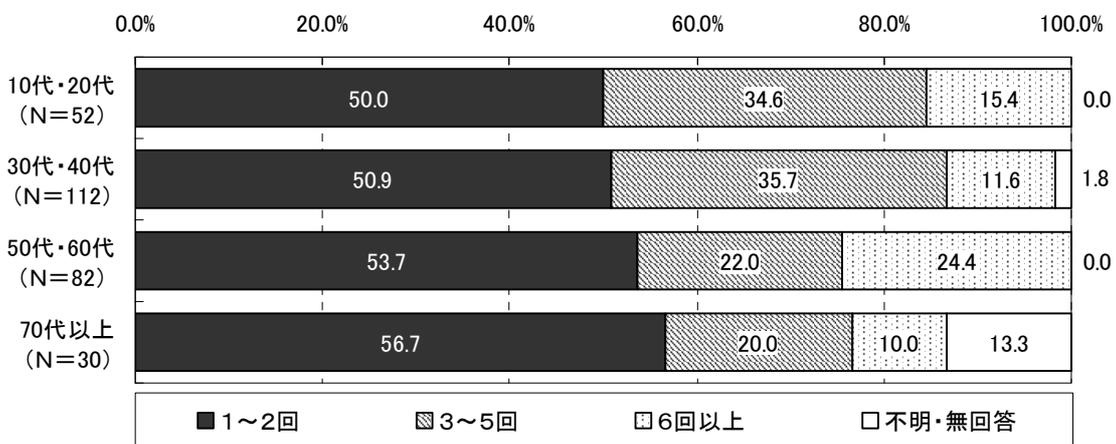
問 16-1 問 16 で「1～6」を選ばれた方におうかがいします。人権問題に関する授業や研修・講演会、イベントなどについて、あなたがこの5～6年の間に参加した回数は次のうちどれですか。(SA)



問 16-1 × 性別

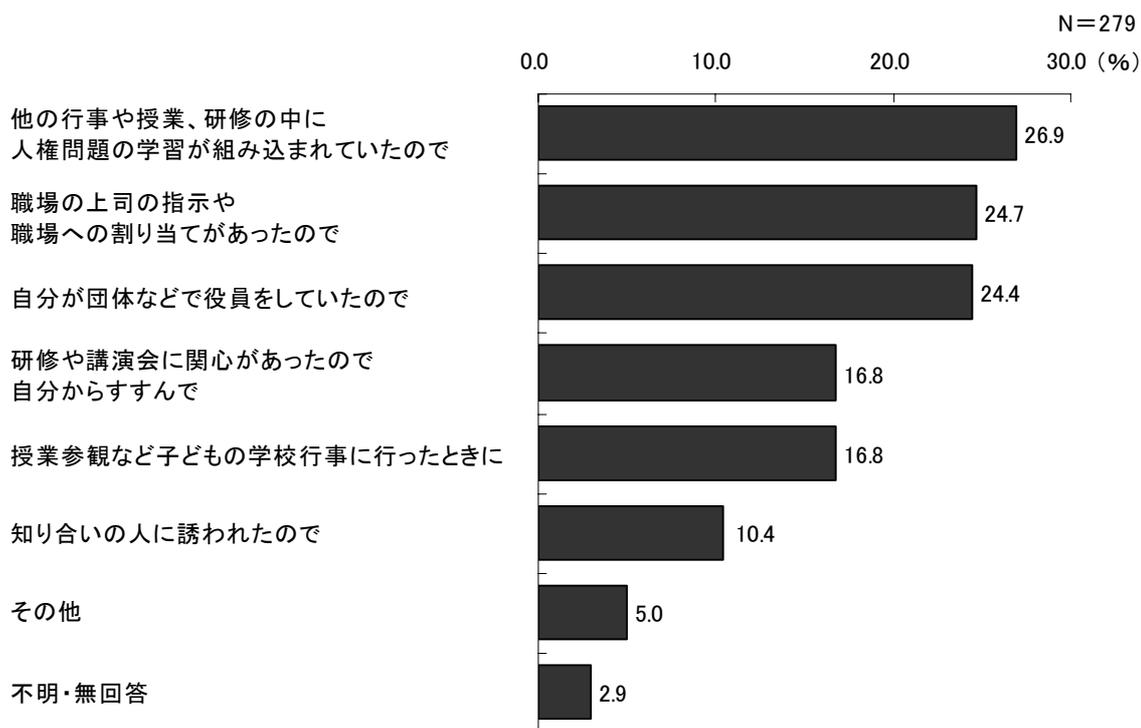


問 16-1 × 年齢別



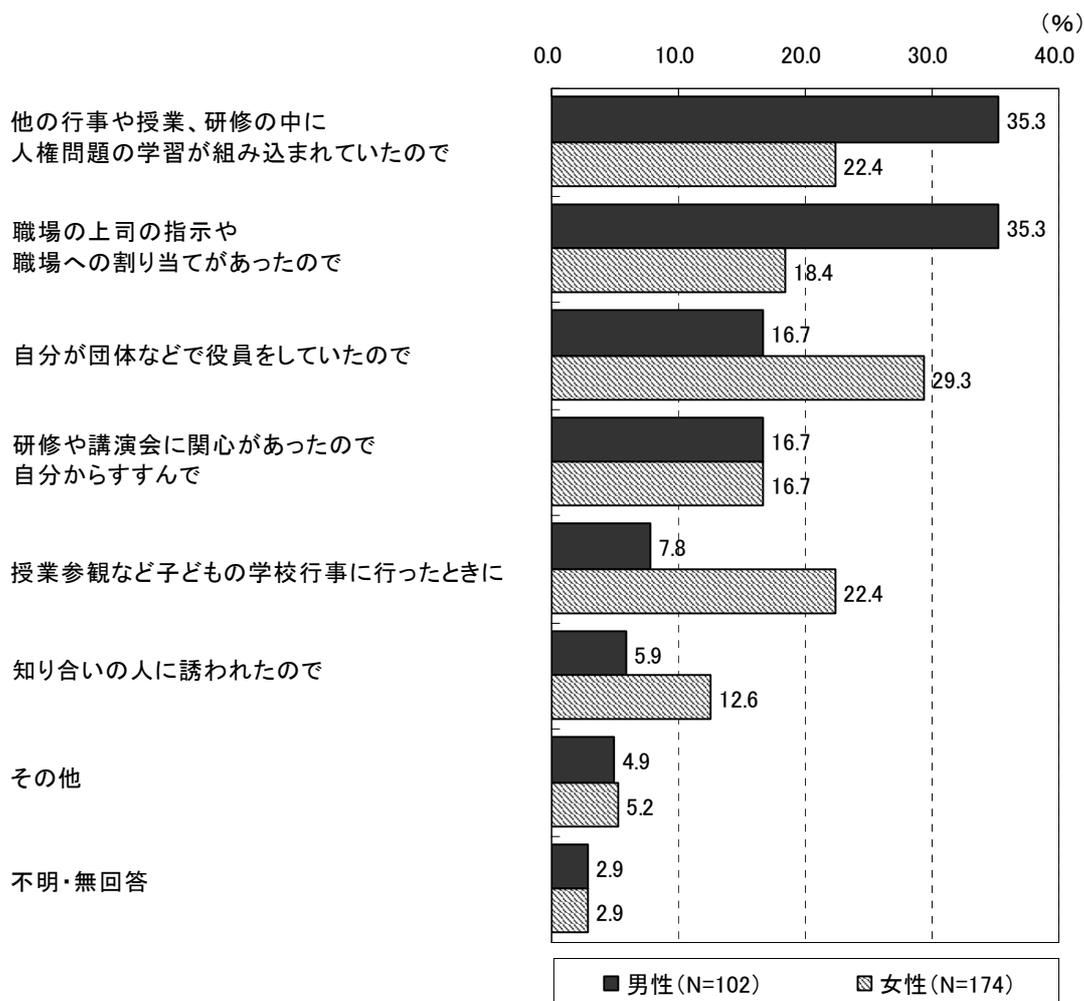
問 16-2 問 16 で「1～6」を選ばれた方におうかがいします。あなたが参加したのは、どのような理由からですか。(MA)

研修・講演会に参加した理由について「他の行事や授業、研修の中に人権問題の学習が組み込まれていたのが」が 26.9%と最も高く、次いで「職場の上司の指示や職場への割り当てがあったのが」が 24.7%となっています。



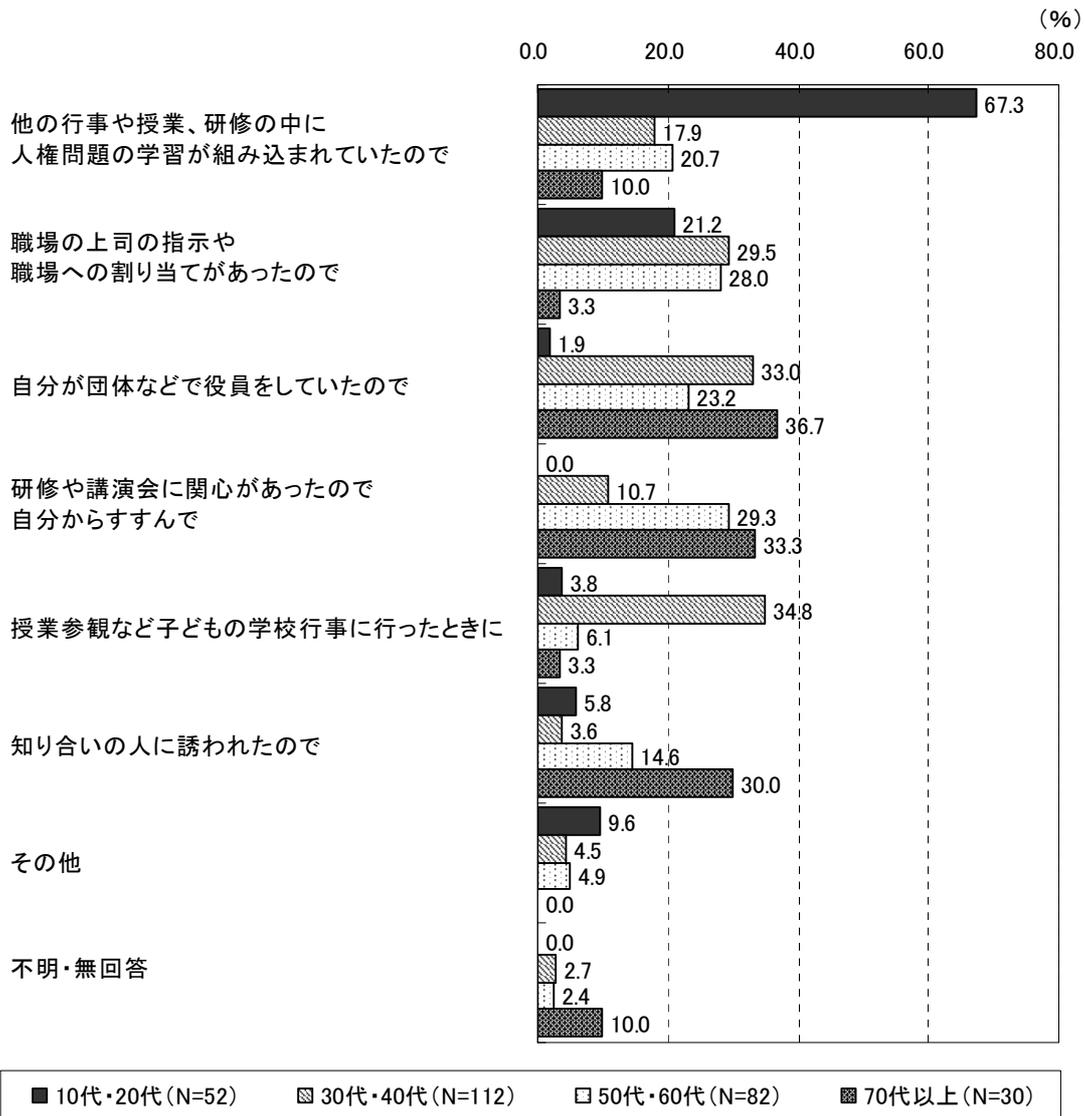
性別に見ると、男性では「他の行事や授業、研修の中に人権問題の学習が組み込まれていたの」「職場の上司の指示や職場への割り当てがあったので」が高く、女性では「自分が団体などで役員をしていたので」が最も高くなっています。

問 16— 2 × 性別



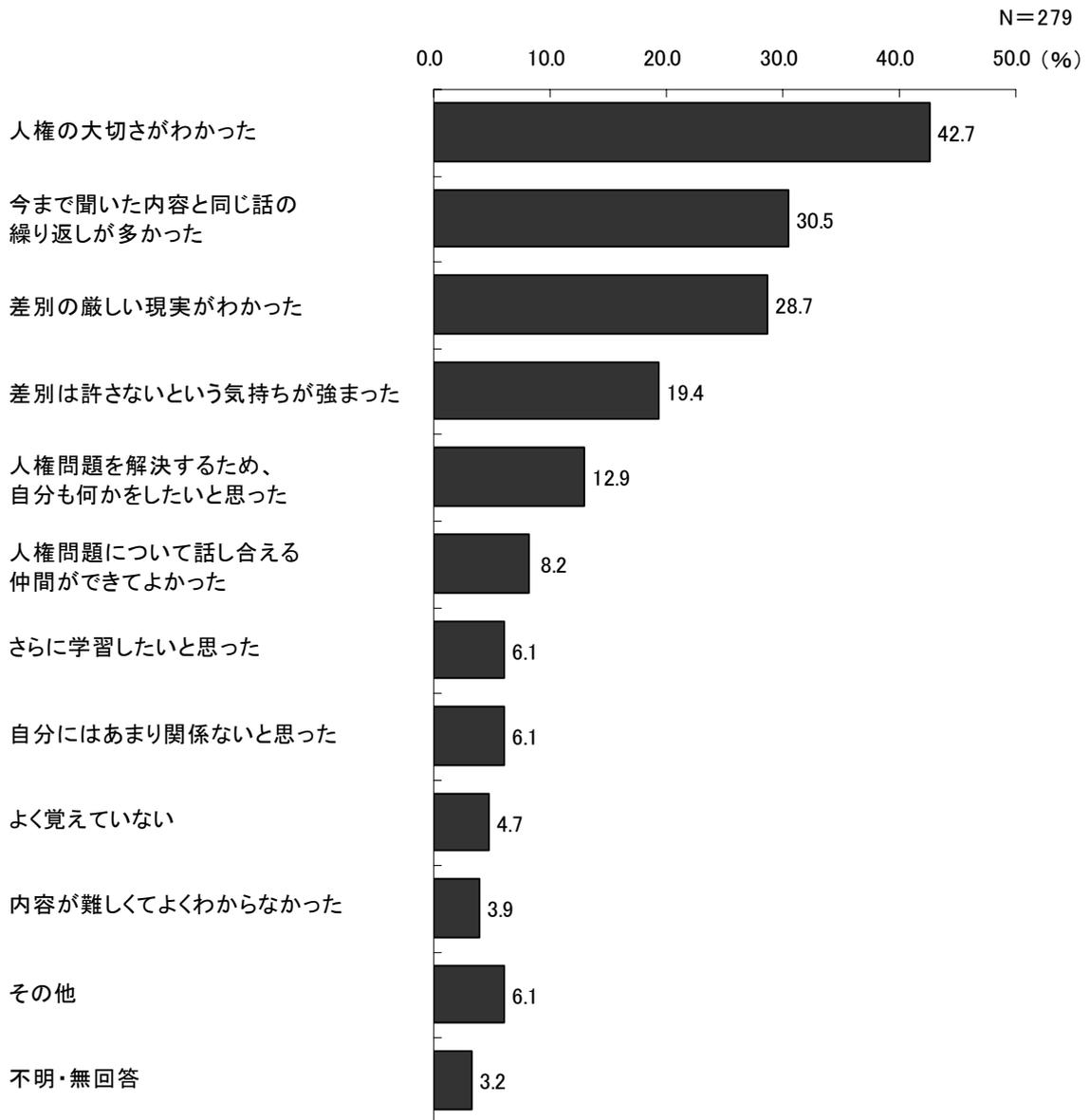
年齢別に見ると、10代・20代では、「他の行事や授業、研修の中に人権問題の学習が組み込まれていたのでは」、30代・40代では「授業参観など子どもの学校行事に行ったときに」、50代・60代では「研修や講演会に関心があったので自分からすすんで」、70代以上では「自分が団体などで役員をしていたので」が最も高くなっています。

問 16— 2 × 年齢別



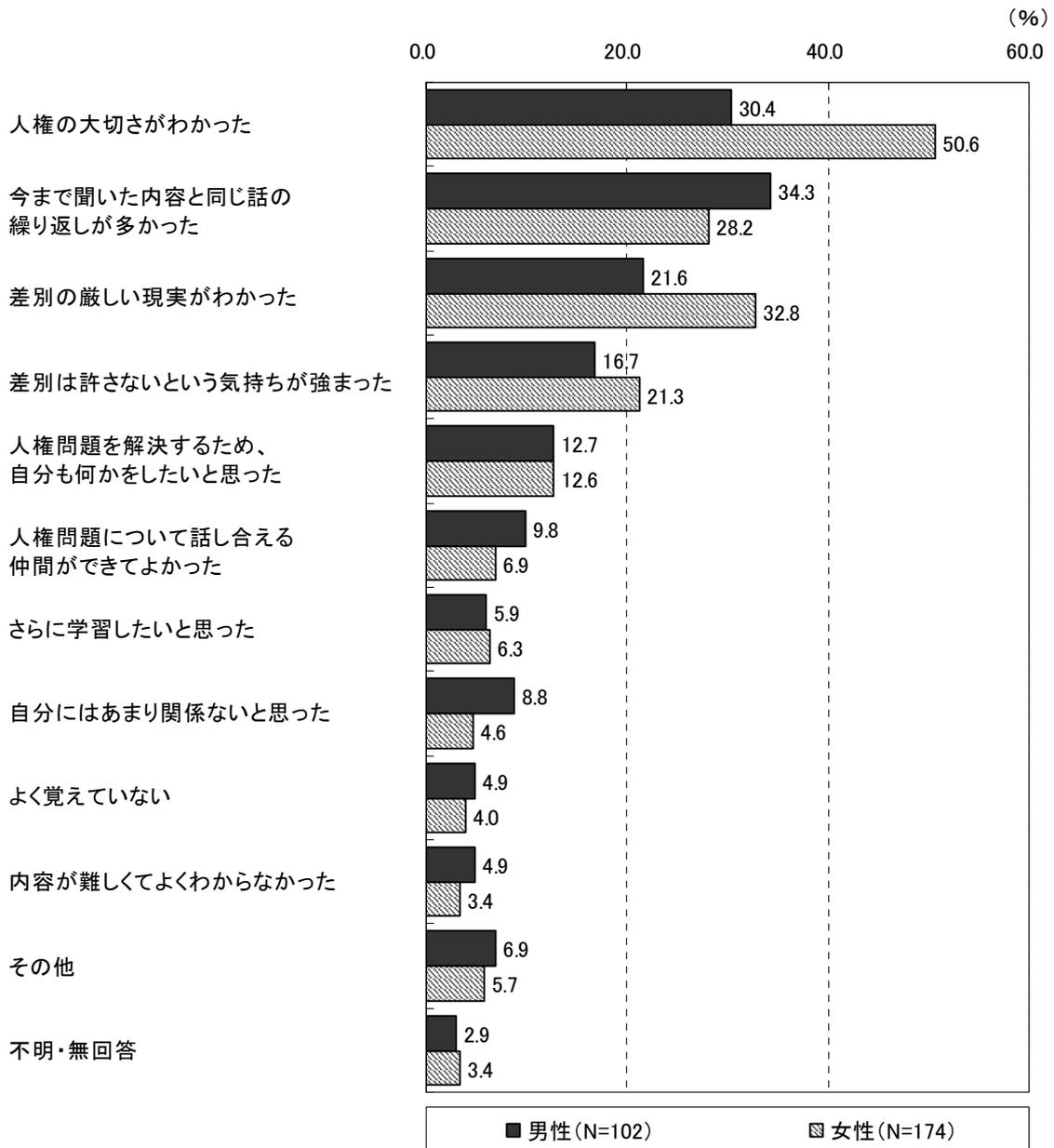
問 16-3 問 16 で「1～6」を選ばれた方におうかがいします。参加してどのような印象や感想を持ちましたか。(MA)

研修・講習会等に参加した感想について、「人権の大切さがわかった」が 42.7%と最も高く、次いで「今まで聞いた内容と同じ話の繰り返しが多かった」が 30.5%となっています。



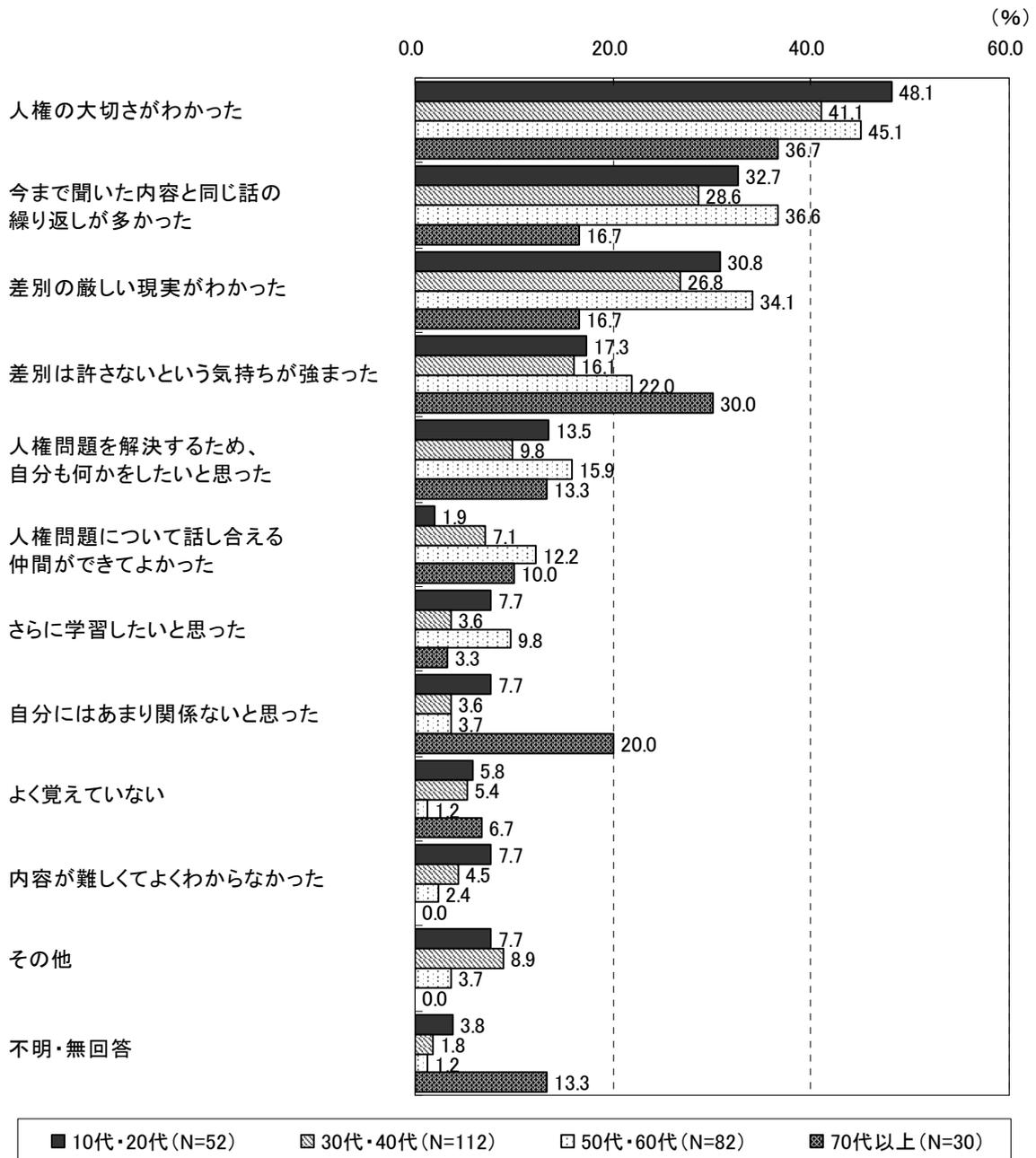
性別に見ると、男性では「今まで聞いた内容と同じ話の繰り返しが多かった」が最も高く、女性では「人権の大切さがわかった」が最も高くなっています。

問 16— 3 × 性別



年齢別に見ると、すべての世代で「人権の大切さがわかった」が最も高くなっています。

問 16— 3 × 年齢別



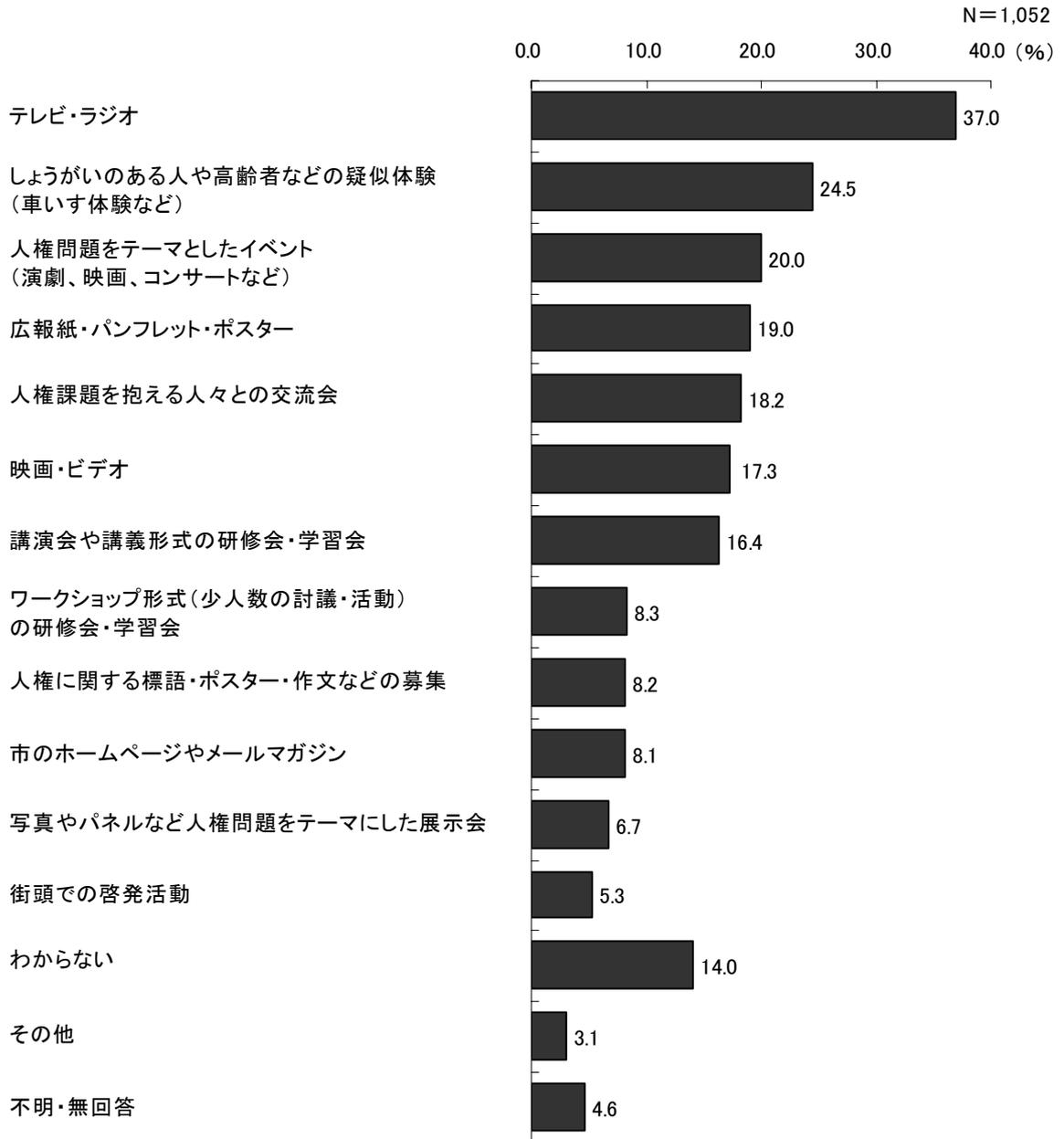
人権を身近に感じている度合別に見ると、『身近に感じる』層では「人権の大切さがわかった」、『身近に感じない』層では「今まで聞いた内容と同じ話の繰り返しが多かった」が最も高くなっています。

問 16—3×問 1（人権を身近に感じている度合別）＝5 頁参照

上段:度数 下段:%	合計	人権の大切さがわかった	今まで聞いた内容と同じ話の繰り返しが多かった	差別の厳しい現実がわかった	差別は許さないという気持ちが強まった	人権問題を解決するため、自分も何かをしたいと思った	人権問題について話し合える仲間ができてよかった
合計	279 100	119 42.7	85 30.5	80 28.7	54 19.4	36 12.9	23 8.2
非常に身近に感じる	35 100	17 48.6	7 20.0	15 42.9	14 40.0	13 37.1	4 11.4
かなり身近に感じる	97 100	48 49.5	31 32.0	26 26.8	18 18.6	11 11.3	11 11.3
どちらとも言えない	67 100	30 44.8	17 25.4	21 31.3	6 9.0	8 11.9	3 4.5
あまり身近に感じない	64 100	23 35.9	25 39.1	17 26.6	15 23.4	3 4.7	4 6.3
まったく身近に感じない	7 100	1 14.3	3 42.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
わからない	5 100	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0
上段:度数 下段:%	さらに学習したいと思った	自分にはあまり関係ないと思った	よく覚えていない	内容が難しくてよくわからなかった	その他	不明・無回答	
合計	17 6.1	17 6.1	13 4.7	11 3.9	17 6.1	9 3.2	
非常に身近に感じる	7 20.0	1 2.9	0 0.0	0 0.0	1 2.9	2 5.7	
かなり身近に感じる	6 6.2	3 3.1	3 3.1	0 0.0	7 7.2	1 1.0	
どちらとも言えない	1 1.5	4 6.0	3 4.5	8 11.9	3 4.5	2 3.0	
あまり身近に感じない	3 4.7	7 10.9	4 6.3	2 3.1	4 6.3	2 3.1	
まったく身近に感じない	0 0.0	1 14.3	1 14.3	0 0.0	1 14.3	1 14.3	
わからない	0 0.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	

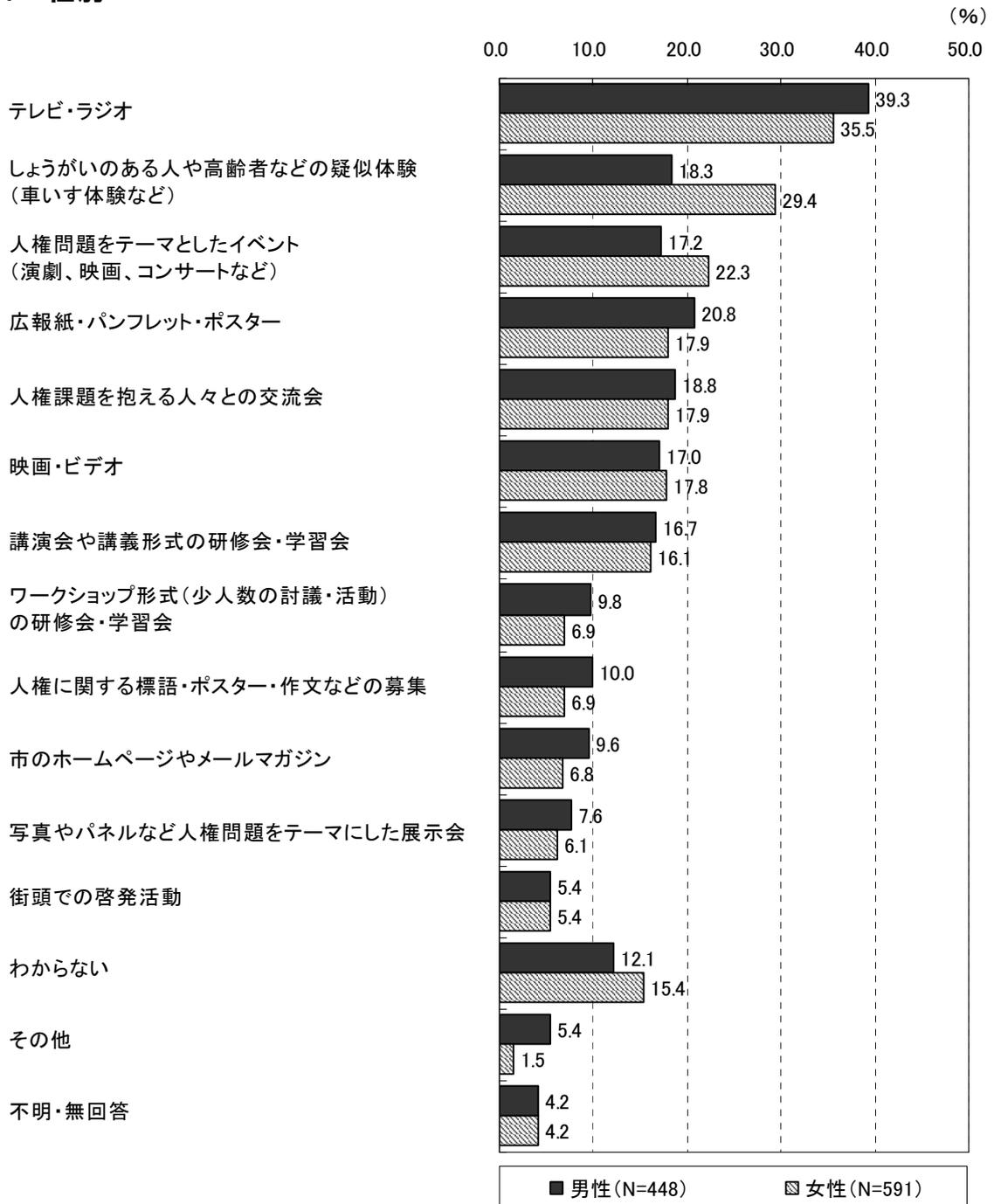
問 17 人権啓発を進めるためには、どのような啓発活動が効果的だと思いますか。(MA)

人権啓発を進めるために効果的な啓発活動について、「テレビ・ラジオ」が37.0%と最も高く、次いで「しょうがいのある人や高齢者などの疑似体験」が24.5%となっています。



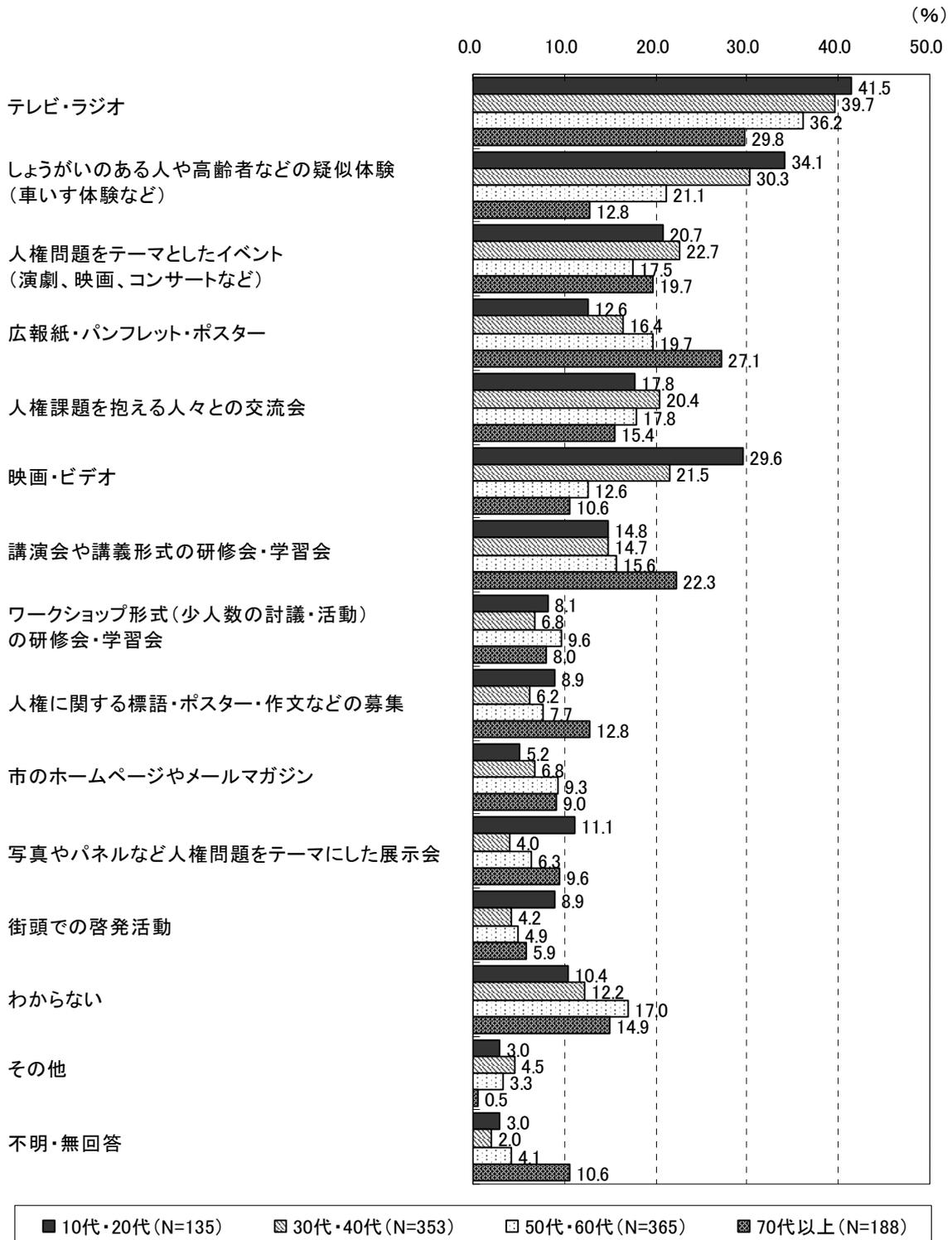
性別に見ると、男女とも「テレビ・ラジオ」が最も高くなっています。次いで男性では「広報紙・パンフレット・ポスター」、女性では「しょうがいのある人や高齢者などの疑似体験」が高くなっています。

問 17×性別



年齢別に見ると、すべての年代で「テレビ・ラジオ」が最も高くなっています。また、「広報紙・パンフレット・ポスター」は年代が上がるほど、「テレビ・ラジオ」「映画・ビデオ」「しょうがいのある人や高齢者などの疑似体験」は若い年代ほど高くなっています。

問 17×年齢別



13 . 自由記述

人権問題に関する自由意見の分類

分 類	件 数
人権全般について	113
女性の人権について	6
子どもの人権について	10
高齢者の人権について	6
しょうがいのある人の人権について	9
外国人の人権について	11
同和問題について	49
働く人の人権について	4
インターネットに関する人権について	6
犯罪に関する人権について	6
人権教育について	20
アンケートについて	15
意見数	255
回答者数 (N)	1,052

人権に関する自由意見では、255件が寄せられました。

人権全般及びさまざまな分野における人権擁護や差別解消への前向きな意見が多くありました。また、今回の市民意識調査を通じて、さまざまな人権問題に対する認識や人権意識の高揚につながったようにうかがえる意見も多く見られました。

自由意見の内容については次頁以降に分類別に例示します。(なお、個々の意見については、そのまま記載することを基本としましたが、紙幅の関係で抜粋している場合があります)

◆人権全般について

自由回答	性別	年代
人と話していて相手が差別的な発言をしたり、そういう考えを持っていると、嫌な気分になる。注意したとしても、その人自身が考え方を改めない限りどうしようもないので難しい。	女性	20代
公正な社会とは努力が評価され、認められること。努力しても報われない社会は遠からず破綻する（最近の新卒の就職状況を見るにつけ、不公平な社会になりつつある。）そのような中で努力したくてもできない人に対しては配慮があって当然。思いやりのない社会は住みにくい社会なので何らかの保障をすべき。	男性	50代
差別を受けている人に直面した時に、その人がどのように思っているか今でも理解していなかったという痛い思い出がある。そういう気持ちを皆がわかるように努めていってほしいと思う。	女性	50代
差別のない社会や人権の尊重される社会は理想ではあるが現実としてはありえない。どんな世の中になっても差別はなくならないと思う。少なくしていく努力をすることは必要ではあるが難しいと思う。行政としてそのためにあまり財源や労力を使っていくのはいかがなものか。	女性	20代
従来からの差別に加え、経済的な格差から新しい形の差別が生まれているように感じる。教育においても、親の収入により学習の機会は均等ではなく、その差は大きくなっている。制度的に作られた従来の差別は水面下で根強く残り、この世の中からすべての差別はなくならない。	男性	40代
知らず知らずのうちに他人の人権を侵害していないかわからない。きちんとした意識を理解する必要がある。	男性	40代
子どもが学校に通っている間は、人権について触れる事もあったが、身近に困っている人がいないと、活動に参加するまでには至らない。相手に自分がされてイヤな事、悲しい事はしないよう、優しく接するようにと考えて行動している。子ども達にもそのように話している。いじめなどがなくならないのは、価値観が変わって来ているのでは。善・悪がわかっていないのか。自分の子は問題ないと思ってしまい、見過ごしてしまうのか。家族で考えてみようと思った。	女性	40代
権利ばかり主張し世の中が悪いのは政治や他人のせいという人が多いのは小さい時から家庭で親が子どもに躰や人間の尊さ、生きる事の大切さ等を教えていないため、自分自身の有利に成る事だけが人権とは思わない。	女性	60代
人権問題があるのは、皆が人権について理解していない、考えようとしなからであって、皆が人権についてわかるまで人権問題は無くならない。自分の人権について考えるのも大切だが、他人の人権について考える事は（難しいけれども）もっと大切な事だと思う。他人の人権を尊重し、他人に思いやりを持って接する事が一人一人ができるようになったら、人権問題はなくなる。大変な事だが、人権問題をなくす事は絶対に大切な事だと思う。	女性	10代
同和問題、障害者の問題は永久に変わらないと思う。それでは前に進まないで、同和問題は昔のようにクラスや職場で話し合いを持つ。そこから少しずつ解決していかなくてはならないと思う。障害者問題は、もっとたくさんの人々と交流する場を設けてほしいと思う。どちらの問題も「かくす」のではなく、オープンにして皆で声を上げて話し合う事が大切だと思う。役所及び市の建物（公民館・ホール）学校を多めに利用すべきだ。夏休み等、子どもたちに理解を求めるにはとても良い機会ではないか。	女性	40代
肩肘張らず、例えばビデオ鑑賞からワークショップなどのできる「人権問題」をもっと生活レベルで語り合える場を創出していく事が大切だと思う。手法は市民グループにもいるんなアプローチ（きっかけづくり）ができる団体を起用し、幅広く取り組む、長く継続する事が大事。ゲストティーチャーを活用し、市民を巻き込むユニバーサル社会実現のプロジェクトチームが発足するとよい。	女性	50代

大人や社会、国が正しい知識を持ち、次の世代へ伝えて行かないといけない。学校や家庭、社会での教育が不十分のように思う。1人1人が関心を持ち伝えていく必要がある。	女性	30代
過度に“人権を守る”と言う事が、学校や職場など社会生活において逆にマイナスの効果や新たな問題を生むことがあると思う。さまざまな人が暮らす中で、すべての人の人権を平等に保護するというのは非常に難しいこと。社会生活をスムーズに進めるために、どのレベルまで“人権”を考えるか各自のバランス感覚が問われる。	女性	30代
基本的には相手の立場になって物事を判断できる人である事。誰もがそういう心を忘れないでいる事と思う。たくさん問題はあがるが、生活が安定していてこそ人にも思いやれる、そして協力できる事だから、いろんな面で落ち着いた社会生活を送れる事を望む。	女性	50代
利他的な物の考え方を大事にすれば、他人の人権を見つめなおす事になると思う。義と公正があるかが問題。	男性	70代以上
同じ日本人(人間)として、生まれているにもかかわらず、偏見と差別によって苦しんでいる方がいるのは悲しい事。今後はあらゆる機会を捉え、行政・地域・企業などが積極的に人権啓発活動を推進し、人々が正しい認識の下、責任ある行動を取る事が大切。私なりに差別のない明るい社会の実現に向け頑張りたいと思う。	男性	70代以上
人権はだれにとっても身近であるべき。また当事者になりうるので、尊厳をもって生きる上で不可欠なもの。にもかかわらず、意識している人とそうでない人のギャップが大きすぎる。「人権=大切」とわかってないまでも、具体的に当事者が抱える問題については知らなさ過ぎるケースが多いように思う。自分自身の事、足元の地域の事、日本の事、世界の人権問題についても丁寧に学び、気付く機会の提供が必要だと思う。学校でも、もっとそのような授業をしては(地域でも)と思う。伊丹市は残留孤児の人達も多いのに、その事がアンケートに出ていないのはなぜか。外国人や外国にルーツを持つ子どもも確実に増えている。きめ細やかなサポート、情報提供、彼らのエンパワーメントを勧める事が必要ではないか。周囲の意識啓発もしかり。	女性	30代
人の意識を変えるのが最も重要な事だが、一番難しいと思うので、地道な運動が大切。設備面や環境面で手助けできる事は早くできれば良いと思う。	男性	40代
人権ばかりが先立つが、もっと謙虚に生きる事を学ぶと自然に人権はついて来るのではないか。	女性	60代
伊丹市における色々な人権問題の取り組みを感じているが、今後とも一層の人権教育・啓発を期待したい。お互いの人権が尊重される平和都市『伊丹』であってほしいと願っている。(私自身が身近な問題に知らない振りをするのは絶対に止め、回りの人達にも話を広げるよう努力したい)	女性	70代以上
どうゆう事が人権なのかわからない人がたくさんいらっしゃると思うので誰にでもわかる説明が必要ではないか。	女性	30代
身の回りで人権問題が起きていないため、意識する機会がほとんどない。今までに受けた研修でも一般論を教えてもらったただけなので印象にあまり残らなかった。講演会を多く設け、実体験を聞く機会があると、問題意識が高まるのではないかと思う。	女性	20代
行政が行なってきたソフト面とハード面の支援を振り返り、これからの人権問題に取り組みばどうか。色々な人と係る機会を設けることで、その国の人たちを知る事ができる。言葉の習得など、交流をすることで自分の気付きや思い込みなど、差別性について感じたり反省する場が必要。	男性	20代
昨年、人権(P T A 役員)と多くかかわる事があり、普段は見過ぎてきた事などを立ち止まり見直し、考える機会をもらい、人権を身近に感じた。	女性	30代
市民一人一人の人権を尊重してもらいたい。それぞれの事情で本当に困っている人やどうすれば良いのかわからなくて悩んでいる人達の力になってほしい。	女性	30代

仕事が忙しく、人権について考える余裕が無い。身近なものとして捉える人は少ないと思う。	男性	50代
人権尊重が平和の基盤である事は難しいと思う。せめて日頃の生活の中で人権について考える一つの「きっかけ」となれば幸い。	女性	40代
人権についての問題と人権そのものの理解とどうなのか、どうするつもりなのか不明確なのが問題。人権の問題と大きく捉えて無くす事はできるのか。無くならないとすれば目的・目標はどうするかを明確にすべき。	男性	40代
まだ十分に社会の裏側、実際にどういうことが起こっているのか知らないのでここでの回答はひどい・ひどくないでつけた。いじめと同様に人権問題も自分が正しいと思えば何とか耐えられるという事。すべては自分の心のあり方で耐えられる。だからこういった問題で命は捨てないでほしい。	男性	10代
人権については非常に重要であり、バランスのとれた教育をすべきである。特に報道などにおいては反対意見を封じ込める傾向があり、賛成・反対の双方の意見についても平等の対応が望ましい。事件などに際し、人権を無視した感情を意見にしてしまう人が多く、個人の人権を踏みしめる現象が社会全体に散見されることを危惧している。	女性	70代以上
今の時代、“自由”という権利が1人歩きしてしまっていると思う。「子どもの自由」とか「生徒の自由」とか「自由」という言葉で“ほったらかしている”事実を隠しているように思う。大人(親や先生)がきちんと子どもたちを育てていかなくは人権問題も含めさまざまな事が未来にはほったらかしになってしまうのではないかと不安に思う。大人が正しく変わっていかればと思う。	女性	30代
人権問題と聞くと難しく自分には関係ないと思っていた。自分が結婚して親になることで社会の中での母親の役割のイメージや子どもの人権といった問題が次々と出てきた。身近に感じるが結局自分には何ができるのか。何をしたらいいのかもわからないのが問題だと思ふ。	女性	20代
人権問題に直接出くわす機会がないので具体的に問題の中味がわかっていない。このことが自分自身を含め問題であると思う。人権啓発の活動を盛んにやって頂きたいと思う。参加したいと思う。	男性	70代以上
人権問題について学校、勤務先、家庭生活において直面した事がなかったため、新聞・TVなどの報道に接しても意識が希薄だった。今後は関心を持ち啓発活動等にも参加したい。	男性	60代
普段の生活の中で問題意識のない者にとって、知る手段がないとか、少ない環境だと思ふ。一般のメディアを介するには固すぎる内容と感じるが、伝える必要もあると思うので、さまざまな啓発活動を行なって頂く事が必要。特に弱者を支える社会であって頂きたいが、不平等・不利益を甘んじている方がいるのも事実として存在する。深刻かどうかではなく、事実をありのまま伝える努力をして頂きたい。	男性	30代
格差社会現象が進み、至るところで人権が軽視されていると常日頃感じる。互いに尊重しあうことが年々少なくなれる。	男性	50代
以前よりも人の命の大切さが軽く思われている。殺人、特に無差別殺人が多くなっているのはそのためではないか。命の重さが基本にあつてこそ女性・子ども・高齢者、その他の人権が考えられるのではないか。	男性	30代
調査票を記入するにあたり、人権問題があつてはならないと頭の中ではわかっているも自分の結婚相手の時には、気にならなかった相手の条件が、自分の子どもの事になるとすごく気になり、自分の中での矛盾を強く感じた。“人権”というものを、もう一度よく見つめなおしたいと思う。	女性	40代
必要な情報を拾っていけば悪い事にはならないが、調べもしないで偏見や思い込みだけで考えたり判断する人も多い。マスコミに流され過ぎ。ニュースも無駄にあおる事はするくせにフォローしない無責任な内容も多い。何事も流される事無く正確な情報をきちんと広げる事が一番だと思ふ。	男性	20代

人権というものは自分が侵害されていない時は気付かなかったり、考える事をしないとすることが通常である。侵害されて始めてその重大さを実感するという事が大きな問題である。家族から（特に目上の祖父母や父母）の影響が大きく、その層への人権啓発を行わなければなくなるものではないと思う。日々、家族で話し合うという状況が今の日本に欠落しているという所からの啓発が必要であり、これは、政治、学校、家庭が手をたずさえなければ不可能な事であると思う。	女性	50代
---	----	-----

◆女性の人権について

自由回答	性別	年代
働く女性への支援制度の不備が少子化をまねいている。	女性	40代
女性差別と言うが、女性専用車両、レディースデーなどあるが、これこそが差別的な事。同じように男性専用車両、メンズデーなどあるべき。	男性	30代

◆子どもの人権について

自由回答	性別	年代
いろいろな面で現代の日本は人権が尊重されているとは決して言えない社会だと思う。特に親が子どもに虐待を加えたり子育てを放棄するなど想像する事のできない悲しいニュースが多く我が身に置き換え、心が痛む。	女性	60代
子どもの人権が気になる。ニュースで見るとは幼い子どもが親から虐待を受け近所の住民などが気付いて声を上げているにも関わらず、親にシャットアウトされると何も言えない。そして最悪な事件が起きてから、対応に問題はなかったと言い訳する。このような事が何度繰り返されるのか、子どもも一個人として人権を尊重されるべきであり、外国のように強制的に保護できる制度を早く作ってほしい。法律がない限り市も無茶な事はできないかも知れないが、できる限り向き合ってもらいたいし、伊丹市という大好きな地域で悲しい事件が起こらないよう市民一人一人の繋がりを大切にしていきたい。	女性	20代
昔のような近所付き合い（あいさつなど）ができる地域づくりができれば子どもへの犯罪や安全なまちづくりができると思う。	女性	30代

◆高齢者の人権について

自由回答	性別	年代
高齢者が外出を気軽にできるようにしてほしい。車イスなどで出かけるのにも困難。段差やバスなど、とても難しい。一度、体験するとわかる。年を取ると、介護を受けるのもお金など、ヘルパー利用の制限、年々難しくなっている。外へ出ると健康な人の基準で作られている事が多い。	女性	40代
最近は随分段差も少なくなり高齢者も外出しやすくなったが狭い歩道を高齢者が一步一步確かめながら歩いているのに自転車横をスピードつけて走っていく。一時立ち止まって、また改めて歩く次第です。もっと安心して歩けるようになることを願う。	女性	70代以上
高齢者が多くなっている社会。介護（施設面の受け入れ体制等）問題について関心を持っている。高齢者も自立は必要とは思いますが、地域でのコミュニケーションを大切に暮らしている。	女性	70代以上

◆しょうがいのある人の人権について

自由回答	性別	年代
私自身、障害を持つ子どもの母親だが、生活の中でさまざまな形で生き難さを実感している。住みにくい世の中だと思いながら過ごしているが、少しずつでも良い方向に進んでいけばと切に願っている。	女性	30代

障害のある本人、家族への支援や理解不足を解消して、小さくても仕事場を与え、障害者の方が全く1人になった時にみんなで暮せるような支援が(国が税金で作る)があれば一生困らなくて日本に移住できるのではと思う。	女性	50代
父も障害者となり1日のほとんどを車椅子で過ごしている。腰が極度に曲がった母が面倒を見ている。行政に大変世話になっている範囲もあるが、反面制度の不十分さも目の前で経験している。生活というか生きることで毎日精一杯なので客観的に人権について考える時が両親には無いように思える。口には出さないが悔しい事もあるようだが、楽しかった事、嬉しかった事を話す親の顔は素晴らしい笑顔である。すべては地域のコミュニケーションが大きく影響する事を強く感じる。	男性	60代

◆外国人の人権について

自由回答	性別	年代
歴史が現状を生んでいると思う。(私は韓国人2世)戦後処理をキチンとしなかった政府の責任は大きい。今さらこんな事を言った所で仕方がないが、子どもの頃の差別はひどかったが、私達の子ども(3世)の時代はだいぶ差別は薄れて来たように思う。時代と共に無くなってくと思う。欧米を美化し、東南アジアなどを卑下する、日本人の潜在的な意識の問題が女性、同和、外国人、高齢者、障害者、感染者などすべての人権問題につながっていると思う。根気良く意識改革を続ける事が重要では。	男性	60代
知人に国籍の違いで結婚ができない方がいた。普通に日本語も話せ、日本人と何の変わりもなく生活しているのに、ただ国籍が違うというだけで差別をするという事は絶対にあってはいけない事だと思った。人権問題をもっと身近に感じられる機会があるといいと思う。	女性	20代
南アフリカ共和国から音楽を通じて人種差別を訴える青少年グループのコンサートの手伝いをした。日本国内の人権についてのみでなく、世界にも目を向けていきたい。「人権」と一言で言うと難しくピンとこないが、具体的に身近な所で参加できる活動に目を向けて、また政府は働きかけてほしい。	女性	30代

◆同和問題について

自由回答	性別	年代
同和問題について、物質的・経済的にはある程度解決したかもしれないが、人々の心の奥底には深く潜んでいる。長い時間をかけて心の闘いを続ける必要がある。	男性	70代以上
同和問題にしても、その土地では根強く残っていると思うので、社会全体で意識が無くなるように1人1人が考えていかなければいけないと思う。人間らしい生活をするために人権を守っていかなくてはならない。	女性	30代
小学校の時に同和問題について勉強した覚えはあるが、実際に同和地域に住んでいる方が差別を受けているのを見た事も聞いた事もないし、そもそも伊丹市のどの辺が同和地区か知らないで、今回のアンケート調査で同和問題が取り上げられているのを見て、「まだ、そんな問題あるんだ」とびっくりした。そういった地区に住んでいるからと言って差別する人はおかしいと思う。	女性	20代
同和問題については特に意識をした事がない。	女性	50代
同和問題は年々解決していっていると思う。若年層はそのようなことにこだわりを持っていない。	男性	30代
住宅を購入する際、不動産会社の方から同和地区などの話を聞いたというのを聞いた事がある。こういった所から広まっていくのでは。そういう資料を持っているというのは恐ろしい事。	女性	40代

小学生の頃から道徳・同和問題の授業に力を入れていたように思う。人権や同和問題には何のとまどいもなく、対応する事ができる。ゆとり教育と言われているが、土曜日でも授業を再開し、子ども達に同和問題の事や色々な事を教える方が将来の子ども達のためになると思う。	女性	30代
---	----	-----

◆働く人の人権について

自由回答	性別	年代
私自身、就業差別で経済的に苦しい思いをさせられているので、人権一般について真剣に考える余裕がない。企業における就業、就労差別は公然の事実、不況に名を借りたこのような不当な取り扱いの是正を行政にお願いしたい。	男性	40代

◆インターネットに関する人権について

自由回答	性別	年代
ネットでの誹謗・中傷がひどい。今では簡単に多くの人がネットを閲覧できるので、ある事・ない事、正しい情報かわからない人権についての事が書かれていて、間違った情報を信じてしまっている人も多いかもしれない。	男性	10代
最近インターネットを悪用した人権侵害が目立つ。学校教育の中で人権学習の充実と行政として人権尊重の精神を1人1人の市民に確立していくようにさらなる推進が必要。学校現場では仕事が多忙で教師間で十分話し合いの場を持たないと聞く。教師自身の人権感覚を高めていくのも必要ではないか。	女性	60代

◆犯罪に関する人権について

自由回答	性別	年代
加害者と被害者の認識の違いがあるようにも感じる。差別なのか区別なのか。お互いの立場や環境の違いを思いやりを持ってわかりあえるといいのだが。	女性	40代
被害者の人権も大変大事だが刑期を終えて社会復帰した人の人権、その家族の人に対しての配慮も大事だと思う。社会の目を気にするあまり再度罪を犯す事もあるし、家族の人も十分な言葉遣いができないまま、周囲を気にして人生を送る人、自殺に走る人も以前住んでいた地域であった。一般の人には理解するのは難しい事だが何か彼らを手伝う方法は無いか。	男性	60代

◆人権教育について

自由回答	性別	年代
小学生の頃は人権に関する授業を受けていたので意識していたが、社会人になると人権について考えることが減った。学生向けの取り組みも必要だが、社会人向けの取り組みも積極的に行ってもらえればと思う。	女性	20代
情報を取り入れる手段や媒体が急速に広がり、手軽に得られる分、誤報等も訂正される事なく氾濫しているのも事実で、人権に対しての真意があやふやになっているのではないかと思う。正しい情報を提供できる環境整備が必要ではないかと思う。	男性	30代
人権は個人が持っている権利であるため、尊重しなければいけないと思う。それには相手を思いやるという気持ちが必要。その気持ちを持たせ考えさせる教育や啓発などが必要だと思う。	女性	40代
人権啓発活動も大切だが、この問題で苦しんでいる人たちに対して相談等の受け入れ態勢、支援の充実を希望する。子どもがこのような問題について家庭や学校でしつけ、教育が行なわれたらと思う。	女性	60代

今、高校生で以前と比べると人権についての知識も増えたが、知らないことも多く、教科書や親の意見だけではなく、色んな人の視点から人権問題に関する意見が知りたい。学生の得る知識というのは、普通の学生生活や家庭など、狭い範囲で得たものばかりだと思うので、もっとテレビやラジオなどで多くの人の意見に触れることのできる環境づくりをしていただきたい。	女性	10代
小・中・高校で、さまざまな面から「差別」を学んだが、小さい時には「自分には関係ない」という意識があり、高校生くらいの時にしっかり学習した方が良かったと思った。実際にその問題を身近な人や自分が抱えた時がきっかけで人権をまじめに考えると思う。	女性	20代
これまでの人権・同和教育の積み重ねで成果が上がっていると思うが、個々の人権意識がより向上するためにさらなる取り組みが必要。	男性	60代
特に女性、子ども、高齢者に対する問題については、テレビなどでよく聞くが、その他の人権問題についてはほとんど耳にする事が無い。学校の授業では習ったが、社会に出て日常生活の中では意識しないと、よほど関心が無い限り、気付かず素通りしていると思う。また、それらの人権問題について知識も乏しいと思う。私を含めそういった方は多いのではないかと感じる。それが大きな問題であり、より多くの人々にさまざまな人権問題についての理解を深めてもらう事がまずは必要な事だと思う。	男性	20代
人権侵害や差別は、個人の意識の持ちようによって解決できる。なぜ差別するのかは、その人が育って来た環境が差別を許す、差別を促す環境だったからだと思う。親が差別をしたら子ども差別をするようになると思う。大切なのは、子どもの頃から差別はいけないという意識を伝えること。学校での教育も大切だと思う。	女性	10代
学校の授業で人権について多くの事を学んできたが、真剣に取り組んでいる生徒は少ないように思う。難しいところだが、自分自身におきていることさえ、人権問題だと気付いていない人も多いのではないかと。その上、自身が気付かないうちに人を傷つけている事もある。人権についてもっと身近な所からの授業や取り組みで個人の意識をあげる必要があると思う。	女性	10代
学校からのお便りで人権についての話を書いてほしい。PTAからのお便りはあるが活動内容の報告ばかりで人権問題を考える内容のものではない。1年ごとに変わる役員では人権問題を他の保護者に訴えることは難しいと思う。	女性	30代

◆アンケートについて

自由回答	性別	年代
日頃はあまり気にしてないが、アンケートで考えさせられる事が多々あった。	男性	70代以上
「障害者・外国人市民・同和問題等」の人との関わりはなく、学校では一通り人権について学んだが、身近に感じることはできない。そういった事が大きな問題ではないのかと改めて考えさせられた。	女性	30代
私の時代は人権といえば同和問題でした。このアンケートによって色々な人権問題がある事を知った。老後を生きてゆくために高齢者に関する事を身近な問題として考えていこうと思う。	女性	60代
身近に人権を侵害されたという事がなかったせいか、あまり深く考えた事がなかった。この調査で改めて色々な人権問題があると思った。	女性	40代
人権問題について、中学・高校の頃は勉強したが、それをピークに人権問題について考える機会が激減することが問題だと考える。今回、久々に人権について真剣に考える機会ができ、アンケートに選ばれた事はいいきっかけになったと思う。	男性	20代

Ⅲ 調査結果から見る現状と今後の方向性

1 . 人権全般について

調査結果から見る現状

「人権」を身近な問題と感じるかについて、『身近を感じる』が 35.8%となっている一方、『身近に感じない』が 30.2%を占めており、「人権」に対する意識が高い人とそうでない人で二極化していることが推測されます。

「人権侵害」が減少しているかについて、『思う』が 33.2%となっているとともに、「どちらとも言えない」と回答する人が 40.4%を占めており、さまざまな分野で人権問題への取り組みが進む一方、新たな人権侵害が発生するなどして、判断がつかないという状況がうかがえます。

特に関心がある人権問題については、「高齢者に関する問題」が最も高く、高齢化が進む中での人権問題を反映した結果となっています。また、「しょうがいのある人に関する問題」や「子どもに関する問題」と合わせて「インターネットを悪用した人権侵害の問題」が上位にあり、情報化社会の新たな人権問題として浮かび上がってきている状況がうかがえます。

人権を侵害された経験の有無については、20.9%が「ある」と回答しています。また、他人の人権を侵害した経験の有無については、「ないと思う」が 43.6%である一方、「自分では気づかなかったが、あるかもしれない」が 42.8%あり、無意識のうちに人権侵害を引き起こされている可能性があることを示しています。

人権侵害を受けたときの対応について、「何もしなかった」が 33.2%となっており、身近に相談できる場所の確保や周知が必要であることがうかがえます。

調査結果から見る今後の方向性

- さまざまな機会を通じて、全市民を対象に人権尊重の意識を高める教育・啓発を推進する
- 人権侵害をなくしていくための取り組みと併せて、人権相談の機会について一層の周知を図るとともに、相談内容を啓発に生かす工夫を行う

2 . 女性の人権

調査結果から見る現状

女性の人権問題について、「昇給・昇進の格差、職場での男女の待遇の違い」(37.3%)、「性別による固定的な役割分担意識(男は仕事、女は家庭など)」(35.6%)などが上位の項目となっており、職場及び地域・家庭両面での人権問題があることがうかがえます。

性別に見ると、「性別による固定的な役割分担意識」「女性の社会進出のための支援制度の不備」「女性のヌード写真や映像の商品化」などの項目で女性の方が回答割合が高くなっており、男女間での意識の差があることがうかがえます。また、年齢別に見ると、「配偶者・恋人からの暴力(DV)」「セクシュアル・ハラスメント」「ストーカー行為」など最近の社会問題については、若い年代ほど関心を持っている傾向がうかがえます。また、「性別による固定的な役割分担意識」についても、若い年代ほど関心が高く、年代間の意識の差も見られます。

以上のとおり、女性の人権問題については、性別、年齢別に意識格差があることを踏まえた上で取り組んでいくことが必要です。また、特に制度面については職場、地域において男女共同参画等の推進に関する取り組みを進める必要があります。

伊丹市における現行の主な取り組み

事務事業名	担当課
職場人権研修	人事課
男女共同参画推進市民フォーラム / 男女共同参画出前学習会	男女共同参画課
女性のための相談 / DV相談員配置	男女共同参画課
女性交流サロン	男女共同参画課
男女共生教育の推進	学校教育担当
差別を許さない都市宣言制定記念集会	人権教育室
地区別・対象別人権研修	人権教育室
伊丹市人権・同和教育研究協議会全体研修会・研究大会	人権教育室

調査結果から見る今後の方向性

- 学校・家庭・地域・職場などあらゆる場で、男女平等について教育・啓発を推進する
- 特に制度面では職場・地域において男女共同参画等の推進に関する取り組みを進める

3 . 子どもの人権

調査結果から見る現状

子どもの人権問題について、「子どもに心理的な虐待を加えたり、子育てを放棄すること」(63.3%)が最も高い割合となっており、近年における全国的な虐待問題への関心の高さがうかがえます。一方で、「悪口やいやがらせをインターネットの掲示板に書き込んだり、電子メールで送りつけたりすること」や「子ども同士が暴力や仲間はずれ、無視などのいじめをすること」など、子ども同士の問題についても高い割合となっています。年齢別に見ると、「虐待や子育ての放棄」「インターネットを使いたいやがらせ」など、最近、社会問題化しているものについて、若い年代で高い割合となっています。

子どもの人権問題については、大人による子どもへの虐待や、子ども同士でのいじめや暴力など、事象に応じた教育・啓発を講じていく必要があります。

伊丹市における現行の主な取り組み

事務事業名	担当課
子どもの居場所づくり事業	人権啓発センター
地域に学ぶ体験学習支援事業(小学生・中学生ジョイントクラブ)	人権啓発センター
育児・ともに語る広場事業	健康福祉課
地域活動・育児相談事業	保育課
こんにちは赤ちゃん事業	子育て支援課
伊丹市要保護児童対策地域協議会	子育て支援課
家庭教育アドバイザー事業	家庭教育課
伊丹市2分の1成人式	学校教育担当
スクールカウンセラー活用事業	学校教育担当
不登校児童生徒の学校復帰支援事業	総合教育センター
相談活動 / 環境浄化活動	少年愛護センター
差別を許さない都市宣言制定記念集会	人権教育室
地区別・対象別人権研修	人権教育室
伊丹市人権・同和教育研究協議会全体研修会・研究大会	人権教育室

調査結果から見る今後の方向性

- 発達段階に応じた心の教育を推進するとともに、さまざまな人権課題についての人権教育を推進する
- 家庭・学校・地域が一層の連携を図りながら虐待の防止や子育て支援を推進する

4 . 高齢者の人権

調査結果から見る現状

高齢者の人権問題については、「家庭や施設での介護を支援する制度が十分でないこと」(39.7%)、「悪徳商法や詐欺などによる被害が多いこと」(39.2%)、「働く意欲や能力があるのに雇用と待遇が十分に保障されていないこと」(36.2%)などが高い割合となっています。

性別に見ると、「病院での看護や福祉施設での介護や対応が十分でないこと」「家庭や施設での介護を支援する制度が十分でないこと」「家族が世話を避けたり、家族から虐待を受けたりすること」など、介護等に関する項目については女性の方が回答割合がやや高くなっています。また、年齢別に見ると、50代・60代で「働く意欲や能力があるのに雇用と待遇が十分に保障されていないこと」の割合が高くなっており、将来の経済的不安を反映していることがうかがえます。

高齢者の人権については、さまざまな面で関心が高い項目となっており、今後の高齢社会に向けた人権施策の展開が求められます。

伊丹市における現行の主な取り組み

事務事業名	担当課
家族介護講座（市民介護ワンポイント教室）	人権啓発センター
シルバー人材センター運営補助・委託事業の発注	高年福祉課
市や介護支援センターの高齢者相談、施設への入所措置	高年福祉課
成年後見制度の普及、利用支援、審判請求	高年福祉課
老人クラブ活動補助金・運営補助	高年福祉課
高齢者虐待防止ネットワーク事業	高年福祉課
介護保険相談	介護保険課
公営住宅ストック総合活用事業（高齢者向住宅改造事業）	住宅課
差別を許さない都市宣言制定記念集会	人権教育室
地区別・対象別人権研修	人権教育室
伊丹市人権・同和教育研究協議会全体研修会・研究大会	人権教育室

調査結果から見る今後の方向性

- 高齢者が地域や家庭の中で孤立せず、いきいきと暮らすことができるよう、高齢者の人権について理解と認識を深める教育・啓発を推進する
- 介護についての制度や支援策を周知するとともに、介護放棄や高齢者虐待等の事態を未然に防ぐなど、介護家族や高齢者の人権尊重の取り組みを推進する

5 . しょうがいのある人の人権

調査結果から見る現状

しょうがいのある人の人権問題については、「働く場所や機会が少なく、待遇が十分に保障されていないこと」(50.7%)という雇用の面や、「社会復帰や社会参加のための受け入れ態勢が十分でないこと」(33.5%)という地域における理解の面での問題の割合が高くなっています。

また、「道路の段差解消、エレベーターの設置など、しょうがいのある人が暮らしやすいまちづくりや住宅づくりが十分でないこと」(39.3%)というバリアフリー整備に関する面についても回答割合が高くなっています。

しょうがいのある人の人権については、社会参加と自立を促進する教育・啓発が必要です。

伊丹市における現行の主な取り組み

事務事業名	担当課
福祉の「気づき」体験研修	人事課
社会福祉大会	地域福祉課
障害者フェスティバル	障害福祉課
雇用促進連絡会・就労支援センターの設置など障害者雇用の促進	障害福祉課
要約筆記奉仕員派遣事業、手話奉仕員派遣事業	障害福祉課
障害者相談支援事業、障害者総合相談	障害福祉課
統合保育事業	保育課
なかよしキャンプ	学校教育担当
伊丹市中心身障害児就学指導委員会	学校教育担当
特別支援教育相談（発達相談）	総合教育センター
差別を許さない都市宣言制定記念集会	人権教育室
地区別・対象別人権研修	人権教育室
伊丹市人権・同和教育研究協議会全体研修会・研究大会	人権教育室

調査結果から見る今後の方向性

- しょうがいのある人の社会参加を促進するため、市民の理解と認識が広まるよう教育・啓発を推進する
- 身体・知的・精神・発達障害などそれぞれの障害に対応しながら、地域生活や仕事の面で、しょうがいのある人の自立を支援する

6 . 外国人の人権

調査結果から見る現状

外国人の人権問題については、「わからない」が最も高く、30.7%を占めている一方、「就職・職場での不利な扱いを受けること」(29.8%)、「年金などの社会保障制度で不利な扱いを受けること」(23.4%)などについても、高い割合となっています。

性別では女性が、年齢別では年齢が上がるほど、「わからない」が多くなっています。また、10代・20代では、「文化や生活習慣の違いが受入れられなかったり、その違いからいやがらせを受けること」の割合が高くなっています。

外国人の人権問題については、わが国の歴史的経緯に由来する在日韓国・朝鮮人のほか、ニューカマーと呼ばれる外国人をめぐってもさまざまな人権問題が発生しており、市民意識の面で啓発を行い、多文化共生のまちづくりを進める必要があります。

伊丹市における現行の主な取り組み

事務事業名	担当課
伊丹マダン	国際・平和課
日本語講座（日本語学習サロン）の開催	国際・平和課
外国語講座（中国語）の開催	国際・平和課
国際理解講座の開催	国際・平和課
多言語生活情報紙の発行	国際・平和課
在日外国人教育の推進	学校教育室
外国人児童生徒等受入事業	学校教育室
差別を許さない都市宣言制定記念集会	人権教育室
地区別・対象別人権研修	人権教育室
伊丹市人権・同和教育研究協議会全体研修会・研究大会	人権教育室

調査結果から見る今後の方向性

- 民族や文化の違いを認め合い、多文化共生を進める教育・啓発、交流活動を推進する
- 外国人市民に対する各種情報提供などの取り組みを推進する

7 . 同和問題

調査結果から見る現状

同和問題に関しては、現在、起きていると思う人権問題について、「いわゆる同和地区への居住の敬遠」(32.9%)、「結婚問題での周囲からの反対」(27.2%)が上位にある一方、「わからない」とする回答が27.9%となっており、同和問題を自分のこととして受け止め理解する意識啓発が求められます。

「わからない」とする回答は、性別では女性が高くなっており、また、年齢の高い層の方が「わからない」が高い傾向が見られ、若い世代との差異が見られます。

同和問題が生じる原因については、「社会全体に残る差別意識」や「家族、親類から教えられた偏見・差別意識」などが高い割合となっています。同和問題の現状を認識し、偏見や差別意識を解消する教育・啓発が求められます。

伊丹市における現行の主な取り組み

事務事業名	担当課
新規採用職員研修	人事課
職場人権研修	人事課
人権講演会	人権啓発センター
地域に学ぶ体験学習支援事業(小学生・中学生ジョイントクラブ)	人権啓発センター
公正採用人権啓発推進研修	商工労働課
人権教育研修会(新規採用及び2年目教員対象)	学校教育室
差別を許さない都市宣言制定記念集会	人権教育室
地区別・対象別人権研修	人権教育室
伊丹市人権・同和教育研究協議会全体研修会・研究大会	人権教育室

調査結果から見る今後の方向性

- 同和問題の現状を認識し、偏見や差別意識を解消するための教育・啓発を推進する
- 地域・世代間での交流活動や協働の取り組みを推進する

8 . その他の人権

調査結果から見る現状

エイズ患者・HIV（エイズ・ウイルス）感染者の人権問題については、「悪い噂や感染情報が他人に伝えられること」（43.8%）が最も高くなっている一方、「わからない」とする人も36.2%に上ります。年齢別に見ると、年齢が高くなるほど「わからない」が高くなっています。こうした状況を踏まえ、正しい知識の普及が必要です。

情報に関する人権問題については、インターネットを悪用した人権侵害として、「他人へのひどい悪口や差別的な表現などを掲載すること」（63.3%）が高くなっており、書き込みなどに対するモラルの向上などが求められています。また、「犯罪を誘発する場となっている出会い系サイトなどがあること」が39.7%、「悪質商法によるインターネット取引での被害があること」が28.6%となっており、インターネットを利用した犯罪について懸念していることがうかがえます。

こうしたインターネットに関する人権侵害や犯罪については、子どもたちが関与している場合も多く、学校教育等を通じた、情報化社会におけるモラル教育を推進する必要があります。

伊丹市における現行の主な取り組み

事務事業名	担当課
労働相談	商工労働課
エイズ教育・性教育研修会	保健体育課
社会を明るくする運動	地域福祉課
差別を許さない都市宣言制定記念集会	人権教育室
地区別・対象別人権研修	人権教育室
伊丹市人権・同和教育研究協議会全体研修会・研究大会	人権教育室

調査結果から見る今後の方向性

- 講演会やイベントを通じて、エイズ患者等の人権に関する教育・啓発を推進する
- インターネットや携帯電話等に関わる情報モラルの向上に向けた取り組みを推進する

9 . 人権啓発について

調査結果から見る現状

人権教育について、人権に関する講演会、イベントなどへの参加経験は「参加したことがない」が 68.5%を占めています。参加したことがある人の中では、学校や職場における研修等への参加が多く、性別に見ると、男性では職場で、女性ではPTAを通じた参加が多くなっています。

参加した感想については、「人権の大切さがわかった」が 42.7%と高くなっている一方で、「今まで聞いた内容と同じ話の繰り返しが多かった」が 30.5%となっており、参加を促すだけでなく、内容面についても充実を図る必要があります。

人権啓発を進めるために必要なこととして、「テレビ・ラジオ」が最も高く、メディアを活用した啓発が支持されていることがうかがえます。また、「しょうがいのある人や高齢者などの疑似体験」や「人権問題をテーマとしたイベント（演劇、映画、コンサート）」など、体験を通じた啓発が効果的であるとの結果となっています。

調査結果から見る今後の方向性

- メディアや体験的学習活動等を効果的に活用した人権教育・啓発に取り組む
- 女性・子ども・高齢者・しょうがいのある人・同和問題・外国人などさまざまな分野の人権について、学校・地域・家庭・職場等あらゆる場を活用して人権教育・啓発を推進する

IV 調査票

伊丹市 人権に関する市民意識調査

<調査にご協力をお願いします>

伊丹市では、市民一人ひとりの個性や人権が尊重され、豊かな自己実現を図ることができる社会づくりに努めていますが、このたび、今後の人権教育・啓発の施策を進める上で参考とさせていただくため、「人権に関する市民意識調査」を行うことといたしました。

この調査は、伊丹市にお住まいの満15歳以上の方2,000人を無作為に選ばせていただき実施するもので、そのお一人としてあなたに回答をお願いすることになりました。

お忙しいところ恐れ入りますが、このアンケート用紙にご回答いただき、無記名のまま、同封の返信用封筒（切手は不要）に入れて、

7月7日（火）までに

ご投函^{とうかん}くださいますようお願いいたします。

この調査は無記名でご回答いただき、調査の結果は集計し、統計的に処理いたしますので、個人の回答内容が外に漏れたり、ご迷惑をおかけすることは決してありません。アンケートの趣旨^{しゆし}をご理解の上、ご協力くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成21（2009）年6月

伊丹市

【ご記入にあたってのお願い】

- 1 封筒のあて名のご本人がご回答くださいますようお願いいたします。
- 2 設問によって、回答が「〇は1つだけ」「〇は3つまで」などと限定されている場合がありますので、その指示に従って回答してください。
- 3 「その他」にあてはまる場合は、（ ）内に具体的な内容を記入してください。
- 4 設問によっては回答していただく方が限られる場合がありますので、矢印や注意書きにそってお答えください。

【調査についての問い合わせ先】

伊丹市市民部同和・人権室 人権推進課
電話 072-784-8077(直通)

この調査票の文章^{ちやうさひょう ぶんしょう}を読むことがむずかしい方は、どなたか親しい方^{かた}にお手伝い^{てつだ}をいただくか、「読むことがむずかしいので回答^{かいとう}できない」という内容^{ないよう}のメモを添^そえてご返送^{へんそう}くださいますようお願い^{ねが}いたします。

人権に関する市民意識調査

日本国憲法では、基本的人権として、個人の尊重、生命・自由・幸福追求の権利、法の下
の平等などが保障されています。この調査でおたずねする「人権」は、それらのことを指
しています。

人権全般について

問1 あなたは、「人権」を、身近な問題として感じていますか。(は1つだけ)

- | | |
|---------------|--------------|
| 1 非常に身近に感じる | 2 かなり身近に感じる |
| 3 どちらとも言えない | 4 あまり身近に感じない |
| 5 まったく身近に感じない | 6 わからない |

問2 次の ~ のそれぞれについて、あなたはどのように思いますか。(はそ
れぞれ1つだけ)

今の日本は、人権が尊重されている社会である

- | | |
|-------------|-------------------|
| 1 そう思う | 2 どちらかと言うとそう思う |
| 3 どちらとも言えない | 4 どちらかと言えばそうは思わない |
| 5 そうは思わない | |

市民一人ひとりの人権意識は5～6年前に比べて高くなっている

- | | |
|-------------|-------------------|
| 1 そう思う | 2 どちらかと言うとそう思う |
| 3 どちらとも言えない | 4 どちらかと言えばそうは思わない |
| 5 そうは思わない | |

5～6年前に比べて人権が侵害されていることは減っている

- | | |
|-------------|-------------------|
| 1 そう思う | 2 どちらかと言うとそう思う |
| 3 どちらとも言えない | 4 どちらかと言えばそうは思わない |
| 5 そうは思わない | |

問3 日本の社会には人権にかかわるさまざまな問題がありますが、あなたが特に関心のあるものはどれですか。(はいくつでも)

- 1 女性に関する問題
- 2 子どもに関する問題
- 3 高齢者に関する問題
- 4 しょうがいのある人に関する問題
- 5 同和問題
- 6 日本に居住している外国人に関する問題
- 7 エイズ患者・HIV(エイズ・ウイルス)感染者に関する問題
- 8 ハンセン病患者・回復者等に関する問題
- 9 犯罪被害者等に関する問題
- 10 性同一性障害者(心と身体の性が一致しない人)に関する問題
- 11 インターネットを悪用した人権侵害の問題
- 12 ホームレスの人に関する問題
- 13 性的指向(異性愛・同性愛・両性愛)を理由とした人権侵害の問題
- 14 北朝鮮拉致被害者に関する問題
- 15 刑を終えて出所した人に関する問題
- 16 アイヌの人々に関する問題
- 17 人身取引(性的搾取・強制労働等を目的とした人身取引)に関する問題
- 18 働く人の権利に関する問題
- 19 特にない
- 20 その他()

*「障害」の表記について：障害の「害」の字には否定的な意味があるので、好ましくないという意見があり、この調査では、障害のある人を、直接的に示す場合には「しょうがいのある人」などと表記しています。ただし、法律・制度の名前や障害状況を示す場合やしょうがいのある人の全体を捉える場合は、「障害」及び「障害者」と表記しています。

問4 あなたは、今までに、自分の人権が侵害されたと思ったことがありますか。(はい1つだけ)

- | | | | |
|---|---|---|---------|
| 1 | あ | る | 問4 - 1へ |
| 2 | な | い | 問5へ |
| 3 | わ | か | |

問4 - 1 問4で「1 ある」を選ばれた方におうかがいします。それは、どのような人権侵害でしたか。(はいくつでも)

- 1 うわさや他人からの悪口、^{かげぐち}陰口による名誉・信用などの侵害
- 2 公的機関や企業・団体による不当な扱い
- 3 地域での暴力、^{きょうはく}脅迫、無理じい、仲間はずれ
- 4 パワー・ハラスメント(職務権限などを用いて行ういじめやいやがらせ)
- 5 家庭での暴力や^{ぎゃくたい}虐待
- 6 学校でのいじめ
- 7 差別待遇(信条・性別・社会的身分・心身の障害などによる不利な扱い)
- 8 プライバシーの侵害
- 9 セクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)
- 10 インターネットを悪用した人権侵害
- 11 その他()

問4 - 2 問4で「1 ある」を選ばれた方におうかがいします。人権侵害を受けたとき、あなたはどうしましたか。(はいくつでも)

- 1 友達、同僚、上司、学校の先生に相談した
- 2 家族、親類に相談した
- 3 警察に相談した
- 4 弁護士に相談した
- 5 人権^{ようご}擁護委員に相談した
- 6 公的機関(法務局・市役所・人権啓発センターの相談窓口など)に相談した
- 7 民間団体などに相談した
- 8 相手に抗議をした
- 9 何もしなかった
- 10 その他()

問5 あなたは、今までに、他人の人権を侵害したことがあると思いますか。(は1つだけ)

- 1 ないと思う
- 2 自分では気づかなかったが、あるかもしれない
- 3 あると思う
- 4 わからない

女性の人権について

問6 女性に関することで、人権上、あなたが特に問題があると思うのはどのようなことですか。(は3つまで)

- 1 性別による固定的な役割分担意識(「男は仕事、女は家庭」など)
- 2 昇給・昇進の格差、職場での男女の待遇の^{たいぐう}違い
- 3 女性の社会進出のための支援制度の不備
- 4 配偶者・恋人からの暴力(DV)
- 5 セクシュアル・ハラスメント
- 6 ストーカー行為
- 7 売春・買春、援助交際
- 8 アダルトビデオ、ポルノ雑誌における女性のヌード写真や映像の商品化
- 9 わからない
- 10 その他()

子どもの人権について

問7 子どもに関することで、人権上、あなたが特に問題があると思うのはどのようなことですか。(は3つまで)

- 1 親がいうことを聞かない子どもにしつけのつもりで体罰を与えること
- 2 子どもに心理的な虐待^{ぎやくたい}を加えたり、子育てを放棄^{ほうき}すること
- 3 子ども同士が「暴力」や「仲間はずれ」、「無視」などのいじめをすること
- 4 いじめをしている人や、いじめられている人を見て見ぬふりをすること
- 5 学校や就職先の選択などについて、大人が子どもの意見を無視すること
- 6 教師が児童や生徒に体罰を与えること
- 7 ビデオ、インターネット、携帯電話などで子どもを取り巻く性情報がはんらんしていること
- 8 児童買春や子どものヌード写真・映像を商品化すること
- 9 悪口やいやがらせをインターネットの掲示板に書き込んだり、電子メールで送りつけたりすること
- 10 わからない
- 11 その他()

高齢者の人権について

問 8 高齢者に関することで、人権上、あなたが特に問題があると思うのはどのようなことですか。(は3つまで)

- 1 道路の段差解消、エレベーターの設置など、高齢者が暮らしやすいまちづくりや住宅づくりが十分でないこと
- 2 働く意欲や能力があるのに雇用と待遇が十分に保障されていないこと
- 3 高齢者だけでは住宅への入居が難しいこと
- 4 悪徳商法や詐欺などによる被害が多いこと
- 5 病院での看護や福祉施設での介護や対応が十分でないこと
- 6 高齢者が邪魔者扱いされ、意見や行動が尊重されないこと
- 7 家庭や施設での介護を支援する制度が十分でないこと
- 8 情報を高齢者にわかりやすい形にして伝える配慮が足りないこと
- 9 家族が世話することを避けたり、家族から虐待を受けたりすること
- 10 わからない
- 11 その他()

しょうがいのある人の人権について

問 9 しょうがいのある人に関することで、人権上、あなたが特に問題があると思うのはどのようなことですか。(は3つまで)

- 1 道路の段差解消、エレベーターの設置など、しょうがいのある人が暮らしやすいまちづくりや住宅づくりが十分でないこと
- 2 働く場所や機会が少なく、待遇が十分に保障されていないこと
- 3 学校や職場で不利な扱いを受けること
- 4 住宅への入居が難しいこと
- 5 病院での看護や福祉施設での介護や対応が十分でないこと
- 6 スポーツ活動、文化活動、地域活動などに気軽に参加できないこと
- 7 社会復帰や社会参加のための受け入れ態勢が十分でないこと
- 8 情報をしょうがいのある人にわかりやすい形にして伝える配慮が足りないこと
- 9 しょうがいのある人の意見や行動が尊重されないこと
- 10 しょうがいのあることを理由に周囲から結婚を反対されること
- 11 わからない
- 12 その他()

日本に居住している外国人の人権について

問 1 0 日本に居住している外国人に関することで、人権上、あなたが特に問題があると思うのはどのようなことですか。(は3つまで)

- 1 入学・学校で不利な扱いを受けること
- 2 就職・職場で不利な扱いを受けること
- 3 住宅の申し込みや入居で不利な扱いを受けること
- 4 年金などの社会保障制度で不利な扱いを受けること
- 5 外国人であることを理由に周囲から結婚を反対されること
- 6 文化や生活習慣の違いが受け入れられなかったり、その違いからいやがらせを受けること
- 7 外国語の表記にするなど、情報をわかりやすい形にして伝える配慮が足りないこと
- 8 政治に意見が十分反映されないこと
- 9 わからない
- 10 その他()

同和問題について

問 1 1 同和問題に関することで、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。(はいくつでも)

- 1 差別的な言動
- 2 差別的な落書き
- 3 就職・職場での差別・不利な扱い
- 4 結婚問題での周囲からの反対
- 5 身元調査を実施すること
- 6 インターネットを悪用した差別的な情報の掲載^{けいさい}
- 7 地域の活動やつきあいで差別・不利な扱い
- 8 いわゆる同和地区への居住の敬遠
- 9 特に起きているとは思わない
- 10 わからない
- 11 その他()

問 1 1 - 1 同和問題が生じる原因や背景として、特に思い当たるのはどれですか。(は3つまで)

- 1 家族(祖父母、父母、兄弟姉妹など) 親類から教えられた偏見・差別意識
- 2 地域の人から伝えられる偏見・差別意識
- 3 職場や友人関係などで伝えられる偏見・差別意識
- 4 社会全体に残る差別意識
- 5 個人の理解不足
- 6 学校での人権教育の不十分さ
- 7 行政の啓発の不十分さ
- 8 わからない
- 9 その他()

エイズ患者・HIV（エイズ・ウイルス）感染者の人権について

問12 エイズ患者・HIV（エイズ・ウイルス）感染者の人権侵害について、あなたが特に問題があると思うのはどのようなことですか。（ は3つまで）

- 1 無断でエイズ検査をすること
- 2 悪いうわさや感染情報が他人に伝えられること
- 3 結婚問題での周囲の反対があること
- 4 治療や入院の拒否をすること
- 5 就職・職場での不利な扱いがあること
- 6 入学・学校での不利な扱いがあること
- 7 公共施設などの利用での不利な扱いがあること
- 8 わからない
- 9 その他（)

インターネットを悪用した人権侵害について

問13 インターネットを悪用した人権侵害について、あなたが特に問題があると思うのはどのようなことですか。（ は3つまで）

- 1 他人へのひどい悪口や差別的な表現などを掲載すること
- 2 捜査対象の未成年の名前・顔写真を掲載すること
- 3 第三者が無断で他人の電子メールを閲覧すること
- 4 犯罪を誘発する場となっている出会い系サイトなどがあること
- 5 ポルノ画像など有害なホームページがあること
- 6 悪質商法によるインターネット取引での被害があること
- 7 いったん流れた情報の訂正や回収が難しいこと
- 8 わからない
- 9 その他（)

つきあい・結婚について

問14 あなたご自身、外国人やいわゆる同和地区に住んでいる人とのつきあいはありますか。（ は一つ）

- | | | |
|---------|---|----------|
| 1 ある | | 問14 - 1へ |
| 2 ない |] | 問15へ |
| 3 わからない | | |

問14-1 問14で「1 ある」を選ばれた方におうかがいします。その方とのつきあいは、どの程度ありますか。(はいくつでも)

- 1 近所づきあいをしている
- 2 職場や学校などでつきあいがある
- 3 自治会や婦人会、PTAなどのメンバーとしてつきあいがある
- 4 趣味の会やスポーツ活動、祭り、盆踊りなどを一緒にしている
- 5 学生時代からつきあいのある友人である
- 6 その他()

問15 結婚についてお聞きします。 、 それぞれにお答えください

あなたの結婚相手を考える際、相手の人柄や性格以外で、気になること(気になったこと)は次のうちどれですか。(はいくつでも)

- | | |
|-------------------------|----------|
| 1 相手の学歴 | 2 相手の経済力 |
| 3 相手の職業 | 4 相手の家柄 |
| 5 相手の国籍・民族 | 6 相手の宗教 |
| 7 相手の健康状態 | |
| 8 相手やその家族がしょうがいのある人かどうか | |
| 9 相手がいわゆる同和地区の出身者かどうか | |
| 10 特に気にしない | |
| 11 わからない | |
| 12 その他() | |

あなたにお子さんがいらっしゃるとして、子どもの結婚相手を考える際、相手の人柄や性格以外で、気になること(気になったこと)は次のうちどれですか。(はいくつでも)

- | | |
|-------------------------|----------|
| 1 相手の学歴 | 2 相手の経済力 |
| 3 相手の職業 | 4 相手の家柄 |
| 5 相手の国籍・民族 | 6 相手の宗教 |
| 7 相手の健康状態 | |
| 8 相手やその家族がしょうがいのある人かどうか | |
| 9 相手がいわゆる同和地区の出身者かどうか | |
| 10 特に気にしない | |
| 11 わからない | |
| 12 その他() | |

人権に関する講演会、イベントなどへの参加について

問 1 6 人権問題に関する授業や研修・講演会、イベントなどについて、あなたがこの5～6年の間に参加したことがあるものは次のうちどれですか。
(はいくつでも)

- 1 国・県・市などが主催する講演会やイベント
- 2 学校の授業での人権教育やPTA活動などでの人権研修
- 3 職場で行われる講演会や研修会
- 4 自治会や婦人会など地域の団体が主催する学習会
- 5 人権関係の民間団体や市民グループが主催する講演会や研修会
- 6 その他 ()
- 7 参加したことがない

問 1 6 - 1 へ

問 1 7 へ

問 1 6 - 1 問 16 で「 1 ～ 6 」を選ばれた方におうかがいします。人権問題に関する授業や研修・講演会、イベントなどについて、あなたがこの5～6年の間に参加した回数は次のうちどれですか。(はい1つ)

- 1 1～2回
- 2 3～5回
- 3 6回以上

問 1 6 - 2 問 16 で「 1 ～ 6 」を選ばれた方におうかがいします。あなたが参加したのは、どのような理由からですか。(はいくつでも)

- 1 研修や講演会に関心があったので自分からすすんで
- 2 職場の上司の指示や職場への割り当てがあったので
- 3 自分が団体などで役員をしていたので
- 4 知り合いの人に誘われたので
- 5 他の行事や授業、研修の中に人権問題の学習が組み込まれていた
- 6 授業参観など子どもの学校行事に行ったとき
- 7 その他 ()

問 1 6 - 3 問 16 で「 1 ～ 6 」を選ばれた方におうかがいします。参加してどのような印象や感想を持ちましたか。(はいくつでも)

- 1 人権問題を解決するため、自分も何かをしたいと思った
- 2 人権問題について話し合える仲間ができてよかった
- 3 今まで聞いた内容と同じ話の繰り返しが多かった
- 4 内容が難しくよくわからなかった
- 5 人権の大切さがわかった
- 6 差別の厳しい現実がわかった
- 7 さらに学習したいと思った
- 8 自分にはあまり関係ないと思った
- 9 差別は許さないという気持ちが強まった
- 10 よく覚えていない
- 11 その他 ()

問 1 7 人権啓発を進めるためには、どのような啓発活動が効果的と思いますか。
(は3つまで)

- 1 講演会や講義形式の研修会・学習会
- 2 ワークショップ形式(少人数の討議・活動)の研修会・学習会
- 3 広報紙・パンフレット・ポスター
- 4 テレビ・ラジオ
- 5 映画・ビデオ
- 6 市のホームページやメールマガジン
- 7 人権に関する標語・ポスター・作文などの募集
- 8 人権課題を抱える人々との交流会
- 9 人権問題をテーマとしたイベント(演劇、映画、コンサートなど)
- 10 しょうがいのある人や高齢者などの疑似体験(車いす体験など)
- 11 写真やパネルなど人権問題をテーマにした展示会
- 12 街頭での啓発活動
- 13 わからない
- 14 その他()

問 1 8 自由記述欄(人権についてどのような問題がありますか。考えておられることをご自由にお書きください。)

<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>

以上で質問は終わりです。お忙しいところ、ご協力まことにありがとうございました。ご記入いただきました調査票は、無記名のまま、同封の返信用封筒(切手は不要)で、7月7日(火)までに ご投函くださいますようお願いいたします。

伊丹市 人権に関する市民意識調査 結果報告書

伊丹市市民部同和・人権室 人権推進課

〒664 - 8503 兵庫県伊丹市千僧 1 丁目 1 番地

電話 072 - 784 - 8077 (直通)

平成 22 (2010) 年 2 月